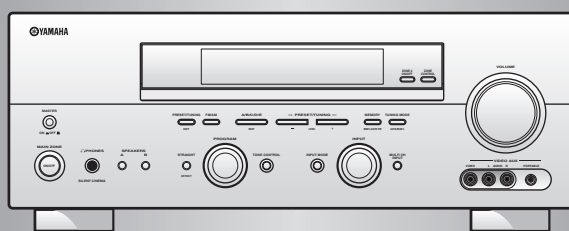
DSP AV アンプ

NATURAL SOUND AV AMPLIFIER

DSP-AX759

取扱説明書

ヤマハ DSP AV アンプ DSP-AX759 をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。
お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。

■保証書は、「お買上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

もくじ

はじめに

接続する

再生前の基本設定

基本的な再生のしかた

いろいろな再生のしかた

視聴空間をより細かく設定する(セットメニュー)

リモコンを使いこなす

便利な機能

オリジナルのリスニング環境をつくる

その他の情報

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	「～しないでください」という「禁止」を示します。
	「必ず実行してください」という強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

⚠警告 この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

⚠注意 この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

⚠ 警告

電源/電源コード

必ず実行

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。

プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- **異常なにおいや音がする。**
- **煙が出る。**
- **内部に水や異物が混入した。**

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

禁止

電源コードを傷つけない。

- **重いものを上に載せない。**
- **ステープルで止めない。**
- **加工をしない。**
- **熱器具には近づけない。**
- **無理な力を加えない。**

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

必ず実行

本機のMASTER ON/OFFスイッチをオフ（切）にする、またはMAIN ZONE ON/OFFスイッチでスタンバイ状態にしても、本機はまだ通電状態にあります。本機を完全に電源から切り離すためには、電源コードをコンセントから抜いてください。

必ず実行

必ずAC100V (50/60Hz)の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

禁止

本機のACアウトレットに、指定された供給電力を超えた機器を接続しない。また、供給電力内であっても電熱器・ドライヤー・電子調理器等は接続しない。

火災の原因になります。

電池

電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

電池からもれ出た液には直接触れない。

液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因になります。
修理・調整は販売店にご依頼ください。

設置

本機を下記の場所には設置しない。

- 浴室・台所・海岸・水辺
- 加湿器を過度にきかせた部屋
- 雨や雪、水がかかるところ

水の混入により、火災や感電の原因になります。

放熱のため本機を設置する際には:

- **布やテーブルクロスをかけない。**
- **じゅうたん・カーペットの上には設置しない。**
- **仰向けや横倒しには設置しない。**
- **通気性の悪い狭いところへは押し込まない。**

(本機の周囲に左右20cm、上30cm、背面20cm以上のスペースを確保する。)

本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。

使用上の注意

放熱用の通風孔、パネルのすき間から金属や紙片など異物を入れない。

火災や感電の原因になります。

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。

感電の原因になります。

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。
接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

手入れ

電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。

ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

注意

電源/電源コード

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

火災や感電の原因になります。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因になります。

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。

コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。

差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。

電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱および火災の原因になります。

電池

電池は極性表示(プラス+とマイナス−)に従って、正しく入れる。
間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

指定以外の電池は使用しない。また、種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。
電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外す。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

使い切った電池は、自治体の条例または取り決めに従って廃棄する。

設置

必ず2人以上で開梱や持ち運びをする。
重いので、けがの原因になります。

不安定な場所や振動する場所には設置しない。
本機が落下や転倒して、けがの原因になります。

直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。
本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。
ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。

他の電気製品とはできるだけ離して設置する。
本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

屋外アンテナ工事は販売店に依頼する。
工事には、技術と経験が必要です。

移動

移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。
接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

使用上の注意

電源を入れる前や、再生を始める前には、アンプの音量(ボリューム)を最小にする。
突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。

音が歪んだ状態で長時間使用しない。
スピーカーが発熱し、火災の原因になります。

大きな音で長時間ヘッドホンを使用しない。
聴覚障害の原因になります。

環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。
正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。

手入れ

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。
感電の原因になります。

薬物厳禁
ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。
外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

本機の特長

高音質ハイパワー7チャンネルアンプを搭載

◆ 定格出力（6Ω、20Hz～20kHz、歪率0.09%）
フロントL／Rチャンネル： 100W＋100W
センターチャンネル： 100W
サラウンドL／Rチャンネル：100W＋100W
サラウンドバックL／R
チャンネル： 100W＋100W

最新の音響技術に対応

◆ ドルビープロロジックデコーダー
ドルビープロロジックIIデコーダー
ドルビープロロジックIIxデコーダー
◆ ドルビーデジタルデコーダー
ドルビーデジタルEXデコーダー
◆ DTSデコーダー
DTS／DTS-ESマトリクス6.1デコーダー
ディスクリート6.1デコーダー
DTS Neo:6デコーダー
DTS 96／24デコーダー
◆ AACデコーダー

高機能FM／AMステレオチューナー

◆ 40局まで登録可能なプリセット選局
◆ オートプリセット選局
◆ プリセットされた放送局のエディット機能内蔵

高音質設計

◆ 192kHz、24ビットのD／Aコンバーターを採用

iPod® 対応のヤマハ製ドック（別売YDS-10など）接続機能

◆ iPod（クリックホイール、nano、mini）の再生が楽しめるヤマハ製ドック（別売YDS-10など）接続用のDOCK端子を装備

「シネマDSPエンジン」内蔵のマルチモードDSP

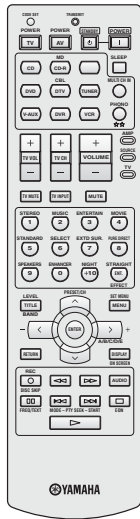
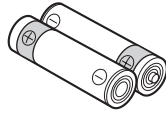
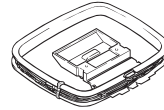
◆ シネマDSP：ヤマハが誇るDSPと、ドルビープロロジックやドルビーデジタル、DTS（デジタルシアターシステムズ）、AAC（アドバンストオーディオコーディング）の融合
◆ ヘッドホン使用時でも音場効果を体感できる「サイレントシネマ」
◆ 少ないスピーカーでもマルチチャンネル再生を仮想的に再現できるバーチャルシネマDSP機能

AVアンプにふさわしい多機能構成

◆ 視聴空間最適化システム「YPAO」（Yamaha Parametric Room Acoustic Optimizer）搭載
◆ 操作内容を本機につないだテレビに表示するオンスクリーン表示機能
◆ 音場効果を最大限に引き出すための設定ができるセットメニュー
◆ DVDオーディオやスーパーオーディオCDにも対応できるマルチチャンネル入力（MULTI CH IN）端子
◆ Sビデオ入出力端子
◆ コンポーネントビデオ（D4ビデオ）入出力端子
◆ 光デジタル（OPTICAL）、同軸デジタル（COAXIAL）入出力端子
◆ ビデオコンバージョン機能：
コンポジットビデオ、Sビデオから、コンポーネントビデオへのアップコンバージョンおよびSビデオからコンポジットビデオへのダウンコンバージョン
◆ スリープタイマー
◆ ナイトリスニングモード（映画用／音楽用）
◆ 外部機器や、ヤマハ製ドック（別売YDS-10など）にセットしたiPodを操作できる、リモコンコード設定機能付きリモコン
◆ 圧縮オーディオフォーマットをよりダイナミックに再生するコンプレストミュージックエンハンサーモード
◆ 本機を設置している部屋とは別の部屋で、異なるソースを楽しめるマルチゾーン機能

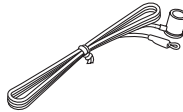
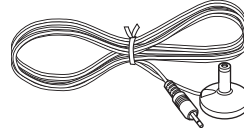
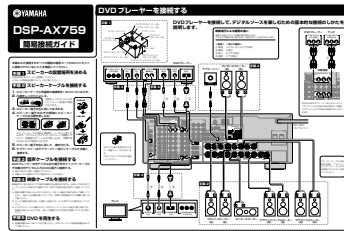
付属品を確認する

同梱されている付属品を確認してください。

リモコン

単３乾電池（２本）

AM ループアンテナ

FM 簡易アンテナ

オプティマイザーマイク

簡易接続ガイド

DOLBY
DIGITAL・EX
PRO LOGIC IIx

ドルビーラボラトリーズからの実施権により製造されています。「ドルビー」、「PRO LOGIC」、「Surround EX」およびダブルＤ記号 DD は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

dts 96/24 ES NEO:6 ™

DTS、DTS-ES Extended Surround、NEO:6およびDTS 96／24はデジタルシアターシステムズの登録商標です。

SILENT ™
CINEMA

「サイレントシネマ　SILENT CINEMA」はヤマハ株式会社の登録商標です。

iPod®

iPod は、米国およびその他の国々で登録された Apple Computer, Inc.の商標または登録商標です。

AAC

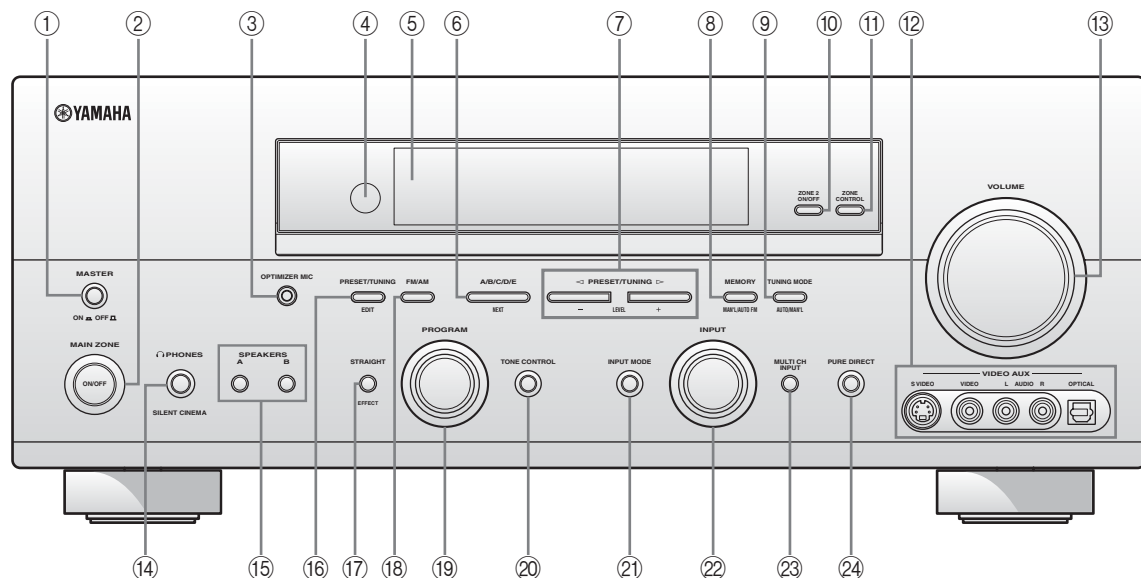
AAC ロゴマーク はドルビーラボラトリーズの商標です。以下はパテントナンバーです。

08/937,950	5,633,981	5,227,788	5,299,239
5848391	5 297 236	5,285,498	5,299,240
5,291,557	4,914,701	5,481,614	5,197,087
5,451,954	5,235,671	5,592,584	5,490,170
5 400 433	07/640,550	5,781,888	5,264,846
5,222,189	5,579,430	08/039,478	5,268,685
5,357,594	08/678,666	08/211,547	5,375,189
5 752 225	98/03037	5,703,999	5,581,654
5,394,473	97/02875	08/557,046	05-183,988
5,583,962	97/02874	08/894,844	5,548,574
5,274,740	98/03036	5,299,238	08/506,729

各部の名称とはたらき

フロントパネル（前面）

① MASTER ON ／ OFF スイッチ

（ルビ：マスター、オン、オフ）

本機の電源をオン／オフします。
オンにするとメインゾーンの電源も連動してオンになります。オンになっているときにはフロントパネルスイッチまたはリモコンキーで本機を操作することができます（☞37 ページ）。
電源を入れてから数秒間は音が出ません。

ご注意

オフになっている間も、少量の電力を消費しています。

② MAIN ZONE ON/OFF スイッチ

（ルビ：メイン、ゾーン、オン、オフ）

MASTER ON ／ OFF スイッチがオンのとき、メインゾーンの電源のオン／スタンバイ（待機状態）を切り替えます（☞37 ページ）。

ご注意

スタンバイになっている間も、リモコンからの赤外線信号を受信するために、少量の電力を消費しています。

③ OPTIMIZER MIC 端子

（ルビ：オプティマイザー、マイク）

付属のオプティマイザーマイクを接続して最適な視聴空間を自動的に設定します（☞40 ページ）。

④ リモコン受光窓

リモコンからの信号を受信します。

⑤ ディスプレイ

プログラムの名称や、設定などを表示します（☞13 ページ）。

⑥ A/B/C/D/E キー

FM ／ AM ラジオ放送を聴くときに、プリセットグループ（A、B、C、D、E）を選びます（☞72 ～ 74 ページ）。

NEXT キー

（ルビ：ネクスト）

入力が TUNER 以外のとき、音量を調節するスピーカーを選びます。

⑦ PRESET/TUNING ⊲ ／ ⊳ キー

（ルビ：プリセット、チューニング）

聴く放送局を選びます。1 ～ 8 の登録（プリセット）した局から選ぶか、周波数で選局します（☞72 ～ 74 ページ）。

LEVEL －／＋キー

（ルビ：レベル）

入力が TUNER 以外のとき、NEXT キー（⑥）で選んだスピーカーの音量を調節します。

⑧ MEMORY（MAN'L/AUTO FM）キー

（ルビ：メモリー、マニュアル、オート）

受信した放送局を登録（プリセット）します。3 秒以上押すと、オートプリセット機能になります（☞71、72 ページ）。

⑨ TUNING MODE（AUTO/MAN'L）キー

自動（オート）選局または手動（マニュアル）選局を選びます。自動選局する場合は、このキーを押してAUTOインジケーターを点灯させます。手動選局する場合は、AUTOインジケーターを消します（☞49 ページ）。

⑩ ZONE 2 ON/OFFキー

MASTER ON／OFFスイッチがオンのとき、ゾーン２の電源のオン／スタンバイ（待機）を切り替えます（☞114 ページ）。

⑪ ZONE CONTROLキー

操作するゾーン（メインゾーン／ゾーン２）を切り替えます（☞114 ページ）。

⑫ VIDEO AUX端子

ゲーム機やビデオカメラなどの外部機器を接続する予備入力端子です。
この端子に入力された信号を再生するには、INPUTセレクターやリモコンの入力選択キーで、「V-AUX」を選んでください。

ご注意

iPodをセットしたヤマハ製ドック（別売YDS-10など）をDOCK端子に接続しているときは、DOCK端子からの入力信号が優先されます。

⑬ VOLUMEコントロール

本機の音量を調節します（☞52 ページ）。
録音用のOUT(REC)端子の音量には影響しません。

⑭ PHONES（SILENT CINEMA）端子

ヘッドホンを接続します。ヘッドホンを接続すると、すべてのスピーカーやサブウーファーから音が出ません。深夜に音声を楽しむ際は、ヘッドホンをお使いくださるようおすすめします。ヘッドホン接続時は、サイレントシネマモードで音声を楽しめます（☞56 ページ）。

⑮ SPEAKERS A／Bスイッチ

FRONT A／B SPEAKERS端子に接続されたフロントL／Rスピーカーのうち、音声を出力するスピーカーを選びます（☞47 ページ）。

⑯ PRESET/TUNING（EDIT）キー

FM／AM放送を聴くときに、あらかじめ登録（プリセット）した局から選ぶか、または周波数から選局するかを切り替えます。また、登録した局の入れ替えもこのキーで行います（☞49、71、74 ページ）。

⑰ STRAIGHT／EFFECTキー

音場効果をかけない音声と、音場効果をかけた音声とを切り替えます。「STRAIGHT」を選ぶと、入力された信号（2チャンネルまたはマルチチャンネル）を対応するデコーダーで忠実にデコードし、音場効果をかけずに再生します（☞70 ページ）。

⑱ FM/AMキー

ラジオ放送局のFM、AMを切り替えます。

⑲ PROGRAMセレクター

音場プログラムを選びます。また、TONE CONTROLキーを押したあとにスピーカーから出力される低音（BASS）／高音（TREBLE）の調節をするときに回します（☞48、51、52 ページ）。

⑳ TONE CONTROLキー

フロントL／Rスピーカーから出力される音声の音色を調節するときに押します（☞52 ページ）。

㉑ INPUT MODEキー

１つの外部機器を本機の２つ以上の入力端子に接続している場合に、入力信号（AUTO、DTS、AAC、ANALOG）の優先順位を設定します（☞104 ページ）。

㉒ INPUTセレクター

再生する入力ソースを選びます（☞47、49、52 ページ）。

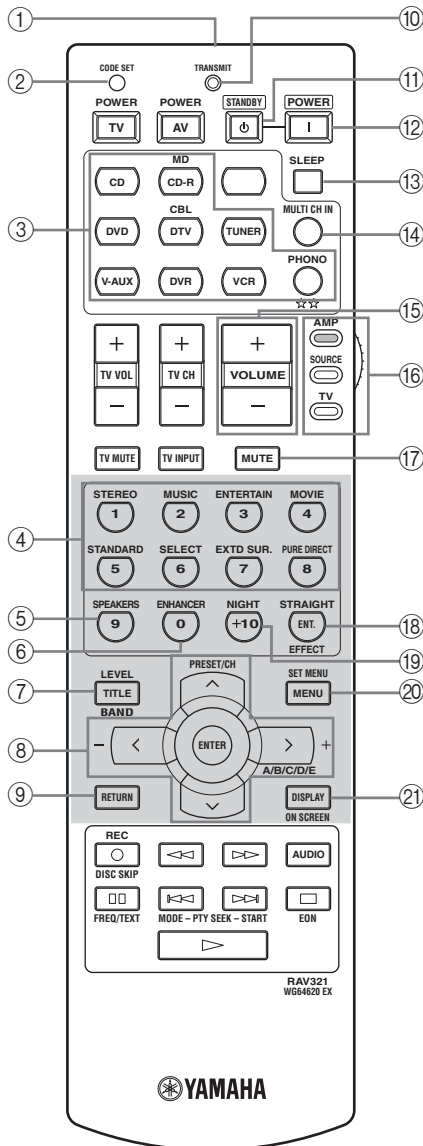
㉓ MULTI CH INPUTキー

本機背面のMULTI CH INPUT端子に入力されている信号を選びます。この入力が選ばれているときは、INPUTセレクターやリモコンの入力選択キーで選んだ入力ソースよりもMULTI CH INPUT信号が優先されます（☞56 ページ）。

㉔ PURE DIRECTキー

アナログ／PCMソースを原音に忠実な高音質ステレオ音声で再生するピュアダイレクトモードのオン／オフを切り替えます。

リモコン

下の灰色部分にあるキーは、操作機器選択スイッチの位置によって操作内容が変わります。
本機のアンプ機能は、操作機器選択スイッチ（⑯）でAMPを選択しているときに操作することができます（アンプモード）。また、操作機器選択スイッチでSOURCEを選択し、入力選択キーのTUNERを押せば、チューナー機能を操作することができます（チューナーモード）。
このリモコンを使って、他の機器も操作することができます。他の機器の操作について詳しくは、「本機のリモコンで他の機器を操作する」（☞96 ページ）をご覧ください。

■ アンプ機能の操作

① 赤外線送信部

リモコン操作用の赤外線信号を送信します（☞15 ページ）。送信部を操作したい機器に向けてください。

② CODE SET ボタン

リモコンコードを設定するときに押します（☞96、102、103 ページ）。

③ 入力選択キー

再生する入力ソースを選びます（☞47、49、52 ページ）。選んだ入力ソースに応じて、リモコンの機能も切り替わります。また、リモコンキーを押すたびに入力選択キーが約５秒間点灯し、どの入力が選ばれているかお知らせします。

④ 音場プログラムキー

音場プログラムを選びます（☞48、51 ページ）。

SELECT キー

２チャンネルソースをマルチチャンネル再生するためのデコーダーを選択します（☞55 ページ）。

EXTD SUR. キー

ドルビーデジタルやDTSなどのマルチチャンネルソフトを6.1／7.1チャンネルで再生します（☞54 ページ）。

PURE DIRECT キー

アナログ／PCMソースを原音に忠実な高音質ステレオ音声で再生するピュアダイレクトモードのオン／オフを切り替えます。

⑤ SPEAKERS キー

FRONT A／B SPEAKERS端子に接続されたフロントL／Rスピーカーのうち、音声を出力するスピーカーを選びます（☞47、49 ページ）。押すたびに「A→B→ABオフ」と切り替わります。

⑥ ENHANCER キー

コンプレストミュージックエンハンサーモードのオン／オフを切り替えます（☞69 ページ）。

⑦ LEVEL キー

各スピーカー（フロントL／R、センター、サラウンドL／R、サラウンドバックL／R、サブウーファー）の音量調節モードに切り替えます（☞105 ページ）。

⑧ カーソル（∧／∨／〈／〉）キー、ENTER キー

カーソルキーでセットメニューや音場プログラムパラメーターを選び、ENTERキーで決定します。

⑨ RETURNキー

セットメニューを設定しているときに、1つ前のメニュー表示に戻ります（☞77 ページ）。

⑩ TRANSMIT インジケーター

リモコン操作の赤外線信号を送信しているときに点灯します。

⑪ STANDBYキー

本機の電源をスタンバイ（待機状態）にします（☞37 ページ）。

⑫ POWERキー

本機の電源をオンにします（☞37 ページ）。

⑬ SLEEPキー

スリープタイマーを設定します（☞106 ページ）。

⑭ MULTI CH IN キー

本機背面のMULTI CH INPUT端子に入力されている信号を選びます。この入力が選ばれているときは、INPUT セレクターやリモコンの入力選択キーで選んだ入力ソースよりもMULTI CH INPUT 信号が優先されます（☞56 ページ）。

⑮ VOLUME ＋／－キー

本機の音量を調節します（☞52 ページ）。
録音用のOUT（REC）端子の音量には影響しません。

⑯ 操作機器選択スイッチ

灰色部分のキーの操作内容を切り替えます（☞96 ページ）。

- AMP：本機のアンプ機能を操作するときに選びます。
- SOURCE：本機のチューナー機能を操作したり、入力選択キーで選んだ機器を操作するときに選びます。
- TV：TVを操作するときに選びます。

⑰ MUTEキー

一時的に音量を下げます（☞52 ページ）。

⑱ STRAIGHT ／ EFFECTキー

音場効果を加えない音声と、音場効果を加えた音声とを切り替えます。「STRAIGHT」を選ぶと、入力された信号（2チャンネルまたはマルチチャンネル）を対応するデコーダーで忠実にデコードし、音場効果をかけずに再生します（☞70 ページ）。

⑲ NIGHTキー

ナイトリスニングモードを切り替えます。ナイトリスニングモードを使うと、夜間など、小音量で音声を楽しむことができます（☞68 ページ）。

⑳ SET MENUキー

セットメニューの設定に入るときに押します（☞77 ページ）。

㉑ ON SCREENキー

テレビ画面に本機の操作状態や音場プログラムの設定内容などを表示します。押すたびに表示モードが切り替わります。

■ チューナー機能の操作

④ プリセット番号キー（1～8）

1～8の登録（プリセット）局番号を選びます（☞73 ページ）。

⑦ BANDキー

FM ／ AM局で最後に受信した局に切り替えます。

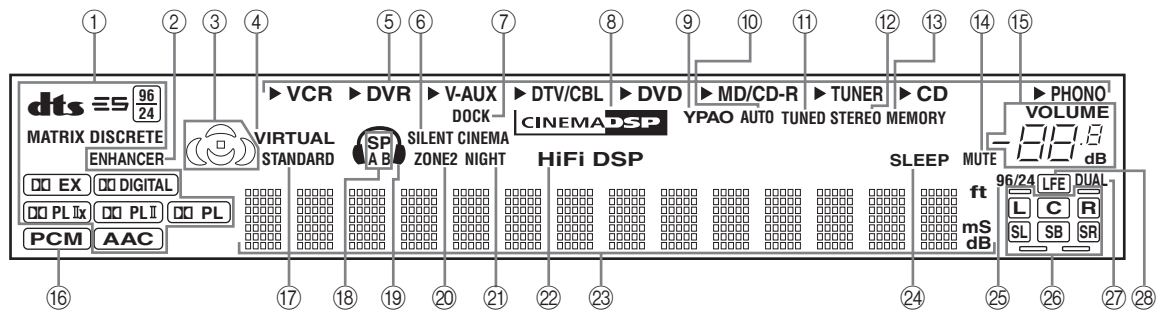
⑧ カーソル（∧／∨／〈／〉）キー

A/B/C/D/E 〈／〉キー

プリセットグループ（A、B、C、D、E）を選びます（☞71、73 ページ）。

PRESET/ CH ∧／∨キー

1～8の登録（プリセット）局番号を選びます（☞71 ページ）。

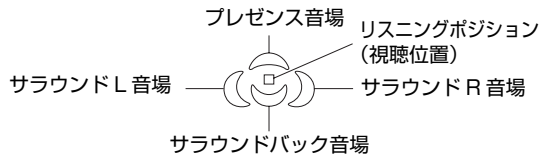
ディスプレイ

① デコーダーインジケーター

本機内蔵のデコーダーが作動しているときにそれぞれのインジケーターが点灯します。

② ENHANCERインジケーター

コンプレストミュージックエンハンサーモードで再生しているときに点灯します（☞69 ページ）。

③ 音場インジケーター

DSP音場プログラムを使っているときに、本機がどの音場を使って再生しているかを表示します。

④ VIRTUALインジケーター

バーチャルシネマDSPモードで再生しているときに点灯します（☞57 ページ）。

⑤ 入力ソースインジケーター

現在選んでいる入力ソースの名前の左側に、赤色の「▶」が点灯します。

⑥ SILENT CINEMAインジケーター

ヘッドホンを接続して「サイレントシネマ」で再生しているときに点灯します（☞56 ページ）。

⑦ DOCKインジケーター

ヤマハ製ドック（別売YDS-10など）にセットしたiPodからの信号を本機が認識しているときに点灯します。

⑧ CINEMA DSPインジケーター

CINEMA DSP音場プログラムを使って再生しているときに点灯します（☞60 ページ）。

⑨ YPAOインジケーター

AUTO SETUPの実行中およびAUTO SETUPでの設定が有効になっているときに点灯します。

⑩ AUTOインジケーター

自動（オート）でFM／AM放送局を選ぶときに点灯します（☞49 ページ）。

⑪ TUNEDインジケーター

FM ／ AM 放送局を受信したときに点灯します（☞49 ページ）。

⑫ STEREOインジケーター

自動（オート）でFM／AM放送局を選んでいるときに、電波の強いFMステレオ放送を受信すると点灯します。

⑬ MEMORYインジケーター

放送局を登録（プリセット）するときに点滅します（☞71、72 ページ）。

⑭ MUTEインジケーター

MUTEキーを押して、一時的に音量を下げているあいだに点滅します（☞52 ページ）。

⑮ VOLUME(ボリューム)インジケーター
現在の音量を表示します。

⑯ PCMインジケーター
PCM信号を再生しているときに点灯します。
(PCM＝Pulse Code Modulation)

⑰ STANDARD(スタンダード)インジケーター
SUR. STANDARDまたはSUR. ENHANCEDが選択されているときに点灯します(☞55ページ)。

⑱ SP(スピーカー) A／Bインジケーター
選んでいるフロントL／Rスピーカー(A、B)を表示します。(☞47、49ページ)。

⑲ ヘッドホンインジケーター
フロントパネルのPHONES(SILENT CINEMA)端子にヘッドホンを接続しているときに点灯します。

⑳ ZONE2(ゾーン)インジケーター
ゾーン2の電源がオンのときに点灯します(☞114ページ)。

㉑ NIGHT(ナイト)インジケーター
ナイトリスニングモードで再生しているときに点灯します(☞68ページ)。

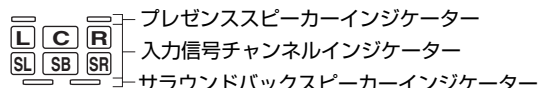
㉒ HiFi(ハイファイ) DSPインジケーター
HiFi DSP音場プログラムを使って再生しているときに点灯します(☞59ページ)。

㉓ マルチインフォメーションディスプレイ
音場プログラムの名前や設定値、放送局の周波数やプリセット番号などを表示します。

㉔ SLEEP(スリープ)インジケーター
スリープタイマーが作動しているときに点灯します(☞106ページ)。

㉕ 96／24インジケーター
DTS 96／24信号が入力されているときに点灯します。

㉖ 入力信号チャンネル／スピーカーインジケーター

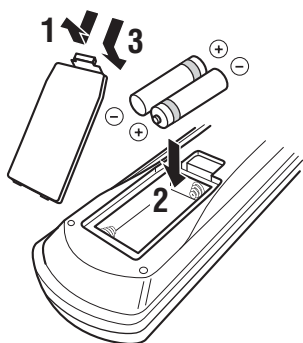
L C R
SL SB SR
- プレゼンススピーカーインジケーター
- 入力信号チャンネルインジケーター
- サラウンドバックスピーカーインジケーター

入力信号チャンネルインジケーター
入力されているデジタル信号に含まれているチャンネルに合わせて点灯します。

プレゼンス／サラウンドバックスピーカーインジケーター
セットメニュー「EQUALIZER」の「TEST」が「ON」のときに、「SPEAKER SET」の「PRESENCE SP」および「SUR. B L/R SP」で設定されているスピーカーの数に応じて点灯します。(☞83ページ)。

㉗ DUAL(デュアル)インジケーター
ドルビーデジタル、DTSおよびAACのDUAL MONO(音声二重モノラル)(☞85ページ)のデジタル信号が入力されているときに点灯します。

㉘ LFEインジケーター
入力されているデジタル信号に、LFE(低域効果音)チャンネルが含まれているときに点灯します。

リモコンを準備する

■ リモコンに乾電池を入れる

1 **リモコンの電池カバーのタブを押しながら、カバーをリモコンから取りはずす。**

2 **付属の単３乾電池（２本）を、リモコンの電池ケースに入れる。**

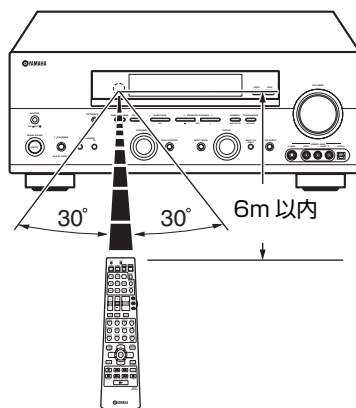
電池のプラス（＋）、マイナス（－）極性の向きを正しく入れてください。

3 **電池カバーをリモコンに装着する。**

ご注意

- リモコンで操作しにくくなった場合や、キーを押してもTRANSMITインジケーターが光らない、または光が弱い場合は、乾電池が消耗しています。このような場合は、すべての乾電池を新しいものに交換してください。
- 新しい乾電池と、古い乾電池を混ぜて使用しないでください。新しい乾電池の寿命を縮めたり、古い乾電池から液が漏れることがあります。
- 種類の異なる乾電池（アルカリとマンガンなど）を混ぜて使用しないでください。乾電池には、形状が同じでも性能が異なるものがありますのでご注意ください。
- 使い切った乾電池は、すぐに電池ケースから取り出してください。乾電池が破裂したり、乾電池から液が漏れることがあります。
- 使い切った乾電池は、自治体の条例または取り決めにしたがって破棄してください。
- 乾電池が液漏れした場合は、液に触れないよう注意して破棄してください。液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。新しい乾電池を入れる前に電池ケース内をきれいにふいてください。
- 乾電池を外したまましばらく（２分以上）放置したり、消耗した乾電池をそのまま入れておくと、リモコンに設定したリモコンコードが消えてしまうことがあります。このような場合は、乾電池を新しいものに交換して、リモコンコードを設定しなおしてください。

■ リモコンを使う

リモコンは直進性の強い赤外線を使っています。本体の受光部に向けて正しく操作してください。

ヒント

リモコンでうまく操作できないときは、以下のことを確認してください。

－本体のリモコン受光窓が、布などで覆われていませんか？
⇒布などを取り除いてください。

－本体のリモコン受光窓に、直射日光や強い照明（インバーター蛍光灯など）が当たっていませんか？
⇒照明の向きを変えるか、本体を置く場所を変えてください。

－乾電池が消耗していませんか？
⇒すべての電池を新しいものに変えてください。

■ リモコンの取り扱いについてのご注意

- 水やお茶、そのほかの液体をこぼさないでください。
- リモコンを落としたり、強い衝撃を与えないでください。
- 下記のような場所には置かないようご注意ください。
  －風呂場の近くなど、湿度が高いところ
  －暖房器具、ストーブの近くなど、温度が高いところ
  －極端に寒いところ
  －ほこりの多いところ

スピーカーを接続する

スピーカーを設置する

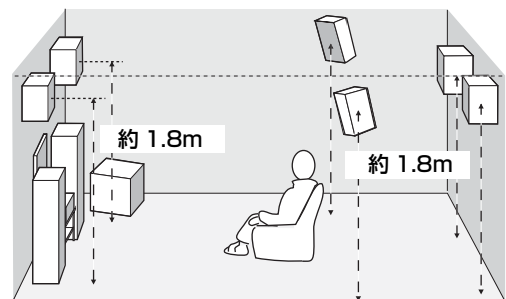
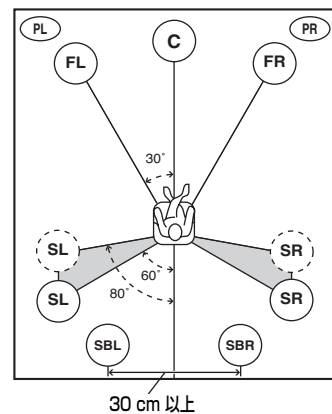
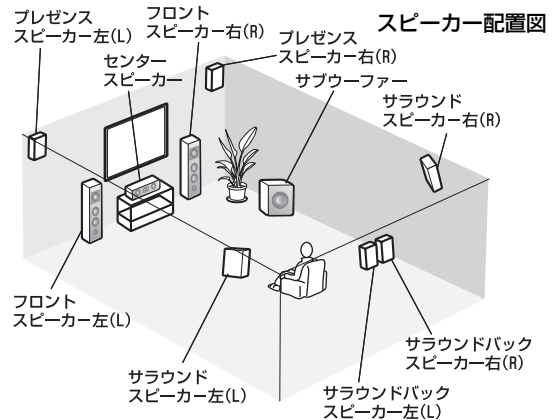
本機はフロントL／Rスピーカー（2本）、センタースピーカー（1本）、サラウンドL／Rスピーカー（2本）、サラウンドバックL／Rスピーカー（2本）の7スピーカーシステムを使って最良の音場効果が得られるよう設計されています。
また、サブウーファーを使うと、より豊かな音場効果を再現できます。

■ スピーカーを選ぶポイント

- 各スピーカーの再生音色が異なると、移動する人物の声など（音色）が不自然に変化することがあります。できるだけ、メーカーや音色の揃ったスピーカーを使うことをおすすめします。
- 各スピーカーは同一メーカーが同じ時期に販売しているシリーズのものを揃えることをおすすめします。

■ 各スピーカーの役割と設置

右の図は、本機の性能を最大限に発揮できるスピーカー配置を示したもので、ITU-R基準配置（*）に対応しています。シネマDSPの音場効果から、DVDオーディオやスーパーオーディオCDなどのマルチチャンネルオーディオ再生までお楽しみいただけます。

* ITU-R 基準配置：マルチチャンネルオーディオのミキシングスタジオで採用されている、国際的な基準配置です。

フロントL／Rスピーカー（FL／FR）
フロントチャンネルの音声（ステレオ音声）と効果音を出力します。
左右のスピーカーをリスニングポジションから等距離に設置します。スクリーンをお使いの場合は、スクリーンの下辺から1／4位の高さが適当です。

センタースピーカー（C）
会話やボーカルなど画面中央に定位する音を出力します。
フロントL／Rスピーカーの中間に設置します。テレビをお使いの場合は、画面とスピーカーの前面を揃え、テレビの上や下など、できるだけ画面に近いところの中央に設置します。スクリーンをお使いの場合は、スクリーン真下の中央に設置します。

サラウンドL／Rスピーカー（SL／SR）
サラウンド音と効果音を出力します。
左右後方に、スピーカーをリスニングポジションに向けて設置します。床から1.5～1.8mの高さが適当です。

サラウンドバックL／Rスピーカー(SBR／SBL)
後方の効果音を出力します。
後方からスピーカーをリスニングポジションに向けて設置します。床から1.5～1.8mの高さが適当です。サラウンドバックLとサラウンドバックRスピーカーは30cm以上間隔を開けて設置してください。フロントL／Rスピーカーと同じ間隔が理想的です。

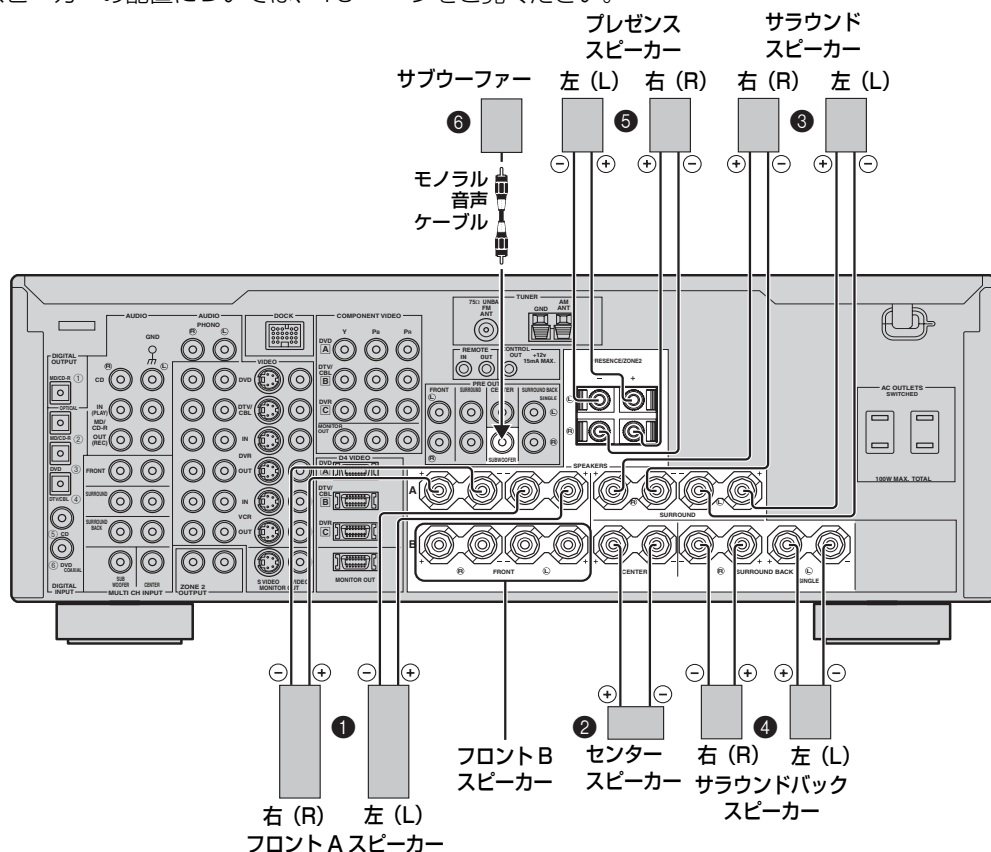
サブウーファー
ドルビーデジタル、DTS、AAC信号に含まれるLFE（低域効果音）信号や、低音を出力します。
前方左右どちらかの外側で、壁の反射を防ぐために少し内向きに設置します。

プレゼンスL／Rスピーカー（PR／PL）
シネマDSP前方の効果音を出力します。映画館のスクリーンの奥の方から聴こえてくる効果音を再現します。部屋前方のフロントL／Rスピーカーの外側0.5～1.0mの範囲に、少し内側に向けて設置します。床から1.5～1.8mの高さが適当です。

ご注意

サラウンドバックL／RスピーカーとプレゼンスL／Rスピーカーの両方から同時に出力することはできません。
セットメニュー「SPEAKER SET」の「PRIORITY」(☞66ページ）の設定により、音場プログラムや再生するソースに合わせて効果的に鳴らし分けることができます。

スピーカーを接続する

下図のようにスピーカーを接続します。
各スピーカーの配置については、16 ページをご覧ください。

FRONT 端子

フロントL／Rスピーカー（❶）用の出力端子です。フロントスピーカーを一組のみ設置する場合は、A、Bどちらかの端子へ接続してください。

ヒント

フロントL／Rスピーカーを２組設置したい場合や、もう１組のフロントL／Rスピーカーを別の部屋に設置して音声を楽しむ場合は、FRONT A／B端子の両方に接続します。

CENTER 端子

センタースピーカー（❷）用の出力端子です。

SURROUND 端子

サラウンドL／Rスピーカー(❸)用の出力端子です。

SURROUND BACK 端子

サラウンドバックL／Rスピーカー（❹）用の出力端子です。

PRESENCE 端子

プレゼンスL／Rスピーカー（❺）用の出力端子です。

SUBWOOFER 端子

ヤマハ・アクティブサーボ・サブウーファーシステムなどの、アンプ内蔵サブウーファー（❻）をお使いになる場合に使用します。

ご注意

- スピーカーは、インピーダンスが 6Ω 以上のものをお使いください。フロント L ／ R スピーカーを A、B 両方の端子に接続してお使いになる場合は、1 台につき 12Ω 以上のものをお使いください。
- スピーカーは防磁型スピーカーをお使いください。防磁型以外のスピーカーをお使いになりますと、テレビの画像が乱れることがあります。特に画面近くに設置するセンタースピーカーやサブウーファーには、防磁型スピーカーをお使いください。
  防磁型スピーカーをお使いの場合でも画像が乱れる場合は、テレビとスピーカーを離して設置してください。

■ スピーカーケーブルを接続する

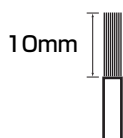
右チャンネル（R）、左チャンネル（L）、「＋」（プラス、赤）、「－」（マイナス、黒）を確認して正しく接続してください。間違えて接続すると音が不自然になったり、低音が出なくなります。また、接続が不十分だと音がまったく出なくなります。

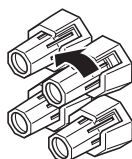
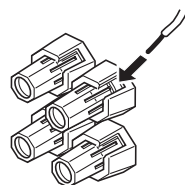
ご注意

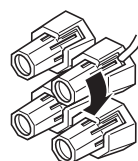
- スピーカーを接続する前に、本機の電源コードが AC アウトレットに接続されていないことをご確認ください。
- スピーカーコードの芯線はしっかりよじり、スピーカー端子からはみ出さないように接続してください。芯線がリアパネルに接触したり、＋（プラス）側と－（マイナス）側が接触すると、保護回路が作動して電源がスタンバイになることがあります。

一般的にスピーカーケーブルは、平行した２本の絶縁ケーブルです。ケーブルのうちの１本は極性を判別するために異なった色またはラインが入っています。
異なった色の（またはラインの入っている、などの）ケーブルを本機とスピーカーの「＋」（プラス、赤）へ、もう片方のケーブルを「－」（マイナス、黒）へ接続してください。

〈プレゼンススピーカー以外のスピーカー〉

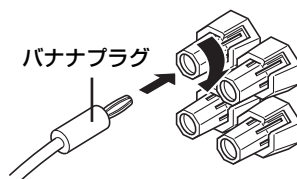
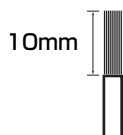
1 スピーカーケーブル先端の絶縁部（被覆）を、10mm ぐらいはがす。

2 芯線をしっかりとよじる。

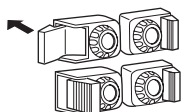
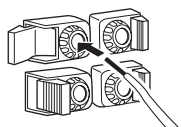
3 スピーカー端子を左に回してゆるめる。

4 スピーカー端子のわきの穴に、スピーカーケーブルの芯線を差し込む。

赤：＋（プラス）
黒：－（マイナス）

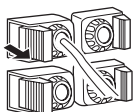
5 スピーカー端子を右に回して、締め付ける。

市販のバナナプラグを使う場合

市販のバナナプラグを使う場合は、端子を強く締めてから差し込んでください。

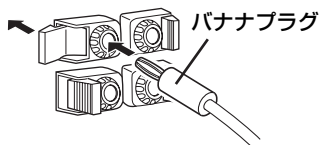
接続する

〈プレゼンススピーカー〉

1 スピーカーケーブル先端の絶縁部（被覆）を、10mmぐらいはがす。

2 芯線をしっかりとよじる。

3 タブを開ける。

4 スピーカー端子の穴に、スピーカーケーブルの芯線を差し込む。

赤：＋（プラス）
黒：－（マイナス）

5 タブを戻して、コードを固定する。

市販のバナナプラグを使う場合

タブを開けてから、差し込んでください。

外部機器と接続する

接続の前に

ご注意

接続する前に、本機および接続する機器の電源コードがACコンセントに接続されていないことをご確認ください。

■ 接続に使うケーブルの種類

お使いの機器に合わせて、ケーブルをご用意ください。

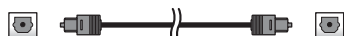
音声

1 同軸ケーブル

同軸デジタル端子（COAXIAL）

（オレンジ）

2 光ファイバーケーブル

光デジタル端子（OPTICAL）

3 ステレオピンケーブル

アナログ端子（ANALOG）

（白）

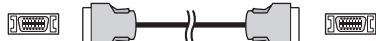
（赤）

4 モノラルピンケーブル

（黒）

映像

1 D端子ケーブル

D端子（D4 VIDEO）

2 コンポーネントビデオケーブル

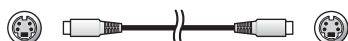
コンポーネントビデオ端子
（COMPONENT VIDEO）

（緑）

（青）

（赤）

3 Sビデオピンケーブル

Sビデオ端子（S VIDEO）

4 ビデオ用ピンケーブル

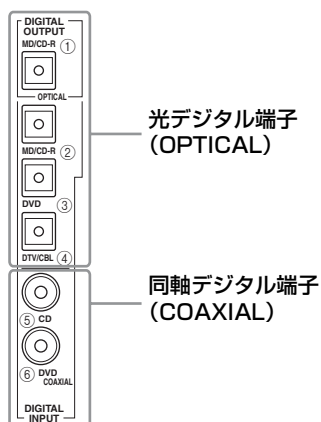
ビデオ端子（VIDEO）

（黄）

■ アナログ音声端子について

オーディオ機器を本機のアナログ端子に接続すると、アナログ音声をお楽しみいただけます。
接続には、ステレオピンケーブル、またはモノラルピンケーブルを使用します。ステレオピンケーブルを使用する場合は、赤いプラグを「R」端子へ、白いプラグを「L」端子へ接続してください。

■ デジタル音声端子について

本機はデジタル信号を直接伝送できる同軸デジタル（COAXIAL）端子と光デジタル（OPTICAL）端子を装備しています。
接続には、同軸ケーブルまたは光ファイバーケーブルを使用します。

- デジタル端子はPCM、ドルビーデジタル、DTS、AAC兼用です。
- 同軸デジタル入力端子と光デジタル入力端子に、同時にデジタル信号が入力されると、同軸デジタル入力端子に入力された信号が優先されます。
- 本機のデジタル入力端子は、以下のサンプリング周波数に対応しています。

  32kHz：BSアナログ放送（Aモード）
  44.1kHz：CD、MD
  48kHz：DVD（48kHzモード）、
  　　BSアナログ放送（Bモード）、
  　　BS／地上波デジタル放送
  96kHz：DVD（96kHzモード）

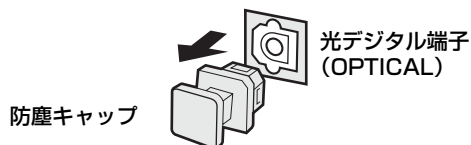
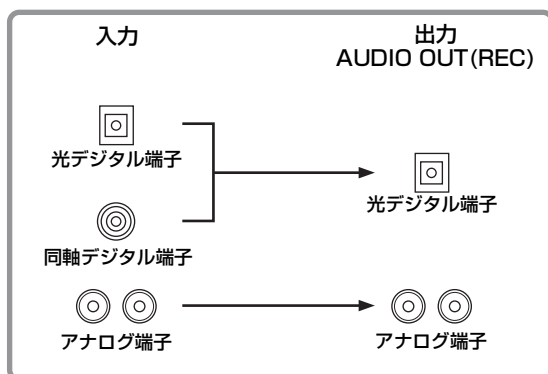
ヒント

セットメニュー「I/O ASSIGNMENT」で、端子の割り当てを変更できます（☞86ページ）。

ご注意

- 本機のデジタル信号回路とアナログ信号回路は独立しています。アナログ端子から入力されたアナログ信号はアナログ出力端子（AUDIO OUT (REC)）へのみ出力されます。また、デジタル入力端子（DIGITAL INPUT）から入力されたデジタル信号は、デジタル出力端子（DIGITAL OUTPUT）からのみ出力されます。
- 本機の光デジタル端子は、EIAJ 規格に基づいて設計されています。EIAJ 規格を満たさない光ファイバーケーブルを使うと、正常に作動しないことがあります。

防塵キャップについて

光ファイバーケーブルを接続する場合は、光デジタル端子についているキャップを抜いてから接続してください。抜いたキャップは大切に保管し、端子を使わないときには、ほこりの侵入を防ぐため、必ずキャップを差し込んでください。

音声出力端子への音声信号の流れ

■ 映像端子について

本機は４種類の映像端子を装備しています。最良の画質でお楽しみいただくために、なるべく画質の良い端子を使って接続してください。

❶ ビデオ端子

コンポジットビデオ信号を伝送します。

❷ Ｓビデオ端子

Ｓビデオ信号（色信号：C、輝度信号：Y）を伝送します。
Ｓビデオ入出力端子がある機器をＳビデオ端子に接続すれば、ビデオ端子（❶）よりも高画質な映像を再生できます。

❸ コンポーネントビデオ端子

コンポーネントビデオ信号（輝度信号：Y、青色差信号：P_B、赤色差信号：P_R）を伝送します。
コンポーネントビデオ入出力端子がある機器をコンポーネントビデオ端子に接続すれば、ビデオ端子（❶）またはＳビデオ端子（❷）よりもさらに高画質な映像を再生できます。

❹ D4 ビデオ端子

コンポーネントビデオ信号とコントロール信号（走査線、アスペクト比などの情報）を伝送します。
D端子がある機器をD4ビデオ端子に接続すれば、ビデオ端子（❶）やＳビデオ端子（❷）よりもさらに高画質な映像を再生できます。

ヒント

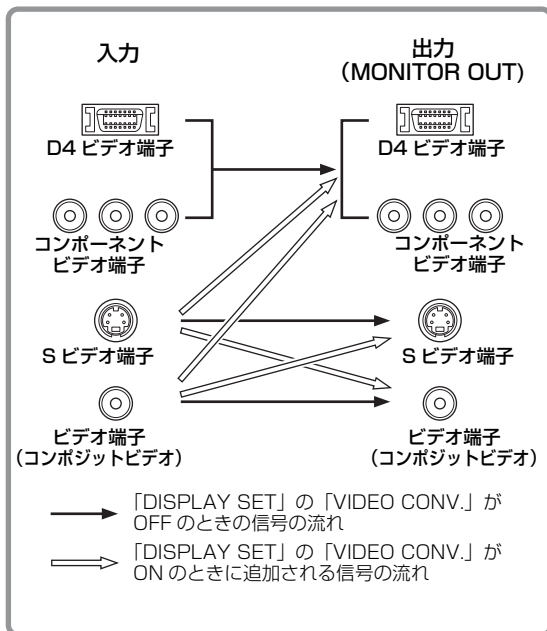
- コンポーネントビデオ出力（MONITOR OUT）端子と D4 ビデオ出力（MONITOR OUT）端子は同時に使うことができます。例えば、コンポーネントビデオ出力端子にプロジェクターを、D4 ビデオ出力端子にテレビを接続して、同じ映像を両方でお楽しみいただけます。
- セットメニュー「I/O ASSIGNMENT」で、コンポーネントビデオ端子、および D4 ビデオ端子の割り当てを変更できます。（☞86 ページ）。

ご注意

- 本機の S ビデオ端子は、S1 ／ S2 規格には対応していません。
- D4 ビデオ端子を使って接続する場合は、お使いの再生機器とテレビの D 端子をご確認のうえ、D 端子の規格（D1 ～ D4）を合わせてください。
- コンポーネントビデオ入力端子と D4 ビデオ入力端子の両方を同時に接続することはできません。お使いの再生機器をご確認のうえ、どちらか片方を接続してください。

■ ビデオ信号の変換について

本機では、セットメニュー「DISPLAY SET」の「VIDEO CONV.」を「ON」にすることにより、入力したビデオ信号を別の方式に変換して出力することができます（ビデオコンバージョン機能）(☞89 ページ)。「OFF」にすると、入力信号は入力端子と同じ種類の出力端子からのみ出力されます。

- Sビデオ入力信号をコンポーネントビデオ信号に変換して、コンポーネントビデオ端子および D4 ビデオ端子から出力します。また、コンポジットビデオ信号に変換し、ビデオ端子からも出力します。
- コンポジットビデオ信号をSビデオ信号に変換して、S ビデオ端子から出力します。また、コンポーネントビデオ信号に変換し、コンポーネントビデオ端子およびD4ビデオ端子からも出力します。

ヒント

同時に複数の種類のビデオ接続を行っている場合は、コンポーネント／D4→S→ビデオ信号の優先順位で出力されます。

ご注意

ビデオコンバージョン機能は、画質を向上させるものではありません。

外部機器と接続する

DVD プレーヤーやCD プレーヤーなど、お手持ちの外部機器を本機に接続することができます。
左チャンネル（L）、右チャンネル（R）、入力（IN）、出力（OUT）をご確認のうえ、正しく接続してください。
すべての端子を使って接続する必要はありません。お使いになる機器の端子をご確認のうえ、音声で 1 つ、映像で 1 つを接続してください。

ヒント

最良の画質でお楽しみいただくために、映像端子はなるべく画質の良い端子を使って接続することをおすすめします。画質については、「映像端子について」(☞22 ページ) をご覧ください。

ご注意

- 本機の入力／出力端子は電源を入れた状態で正常に機能します。必ず電源を入れた状態でお使いください。
- ビデオコンバージョン機能がオフのときは（☞89 ページ)、お手持ちの映像機器と本機、テレビと本機を同じ種類の映像端子を使って接続してください。例えば、映像機器と本機を S ビデオ端子を使って接続している場合は、テレビと本機も S ビデオ接続してください。
- MD ／ CD レコーダー、DVD プレーヤー、衛星放送／ケーブルテレビチューナー以外の機器をデジタル音声接続する場合は、セットメニュー「I/O ASSIGNMENT」の「OPTICAL IN」または「COAXIAL IN」の設定を、接続する機器に合わせて変更したあとに、割り当てを変更した端子に該当機器を接続してください（☞86 ページ)。

■ テレビを接続する

音声ケーブルの接続

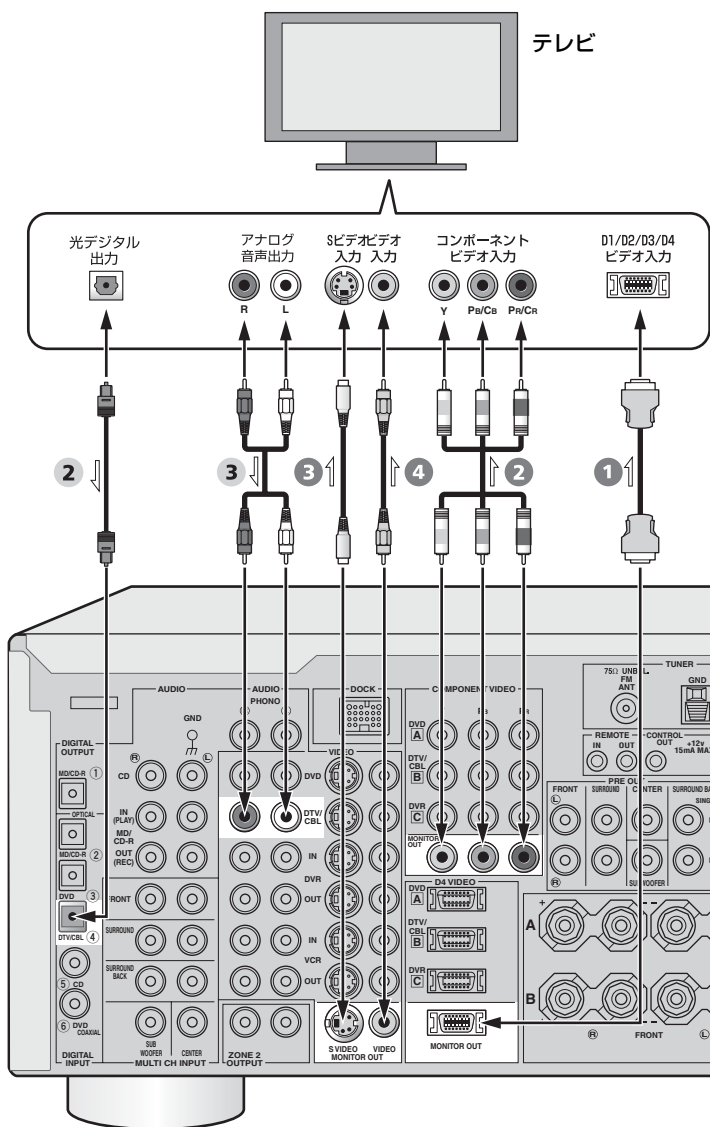
テレビのアナログ音声出力端子を、本機の空いているアナログ音声入力端子に接続します。またはテレビの光デジタル出力端子を、本機の空いている光デジタル入力端子に接続します。

映像ケーブルの接続

テレビの映像入力端子を本機のMONITOR OUT端子に接続します。お使いになるテレビにあわせて、1つの種類を選んで接続してください。

音声

2 光ファイバーケーブル
3 ステレオピンケーブル

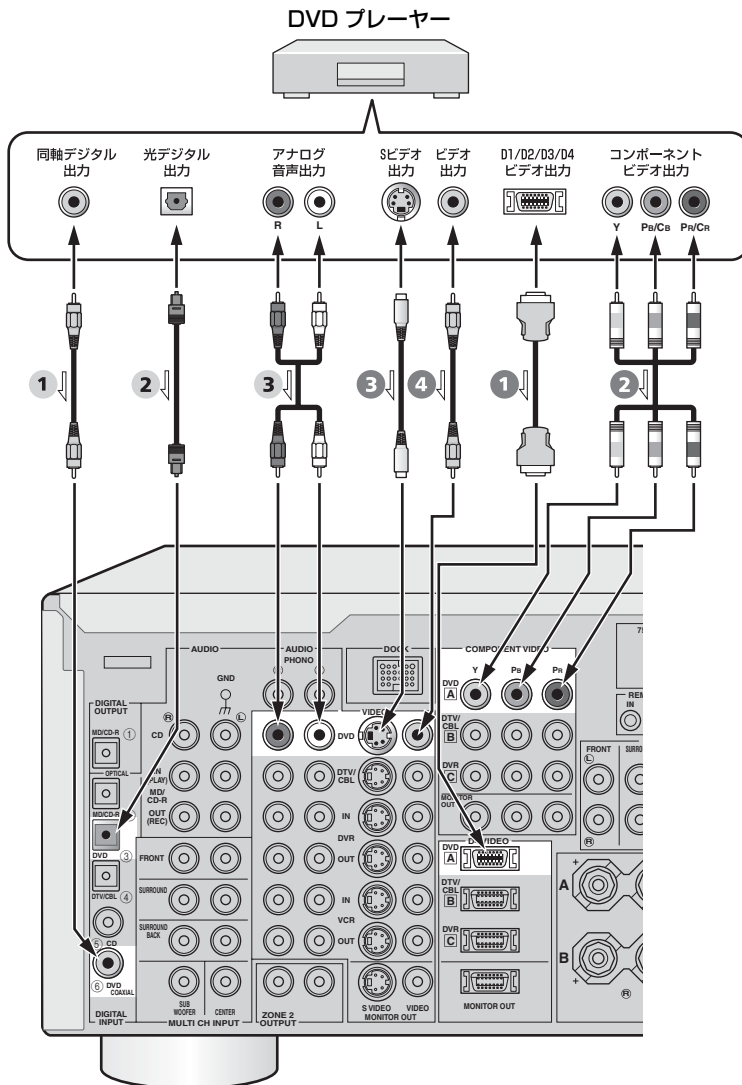
映像

1 D端子ケーブル
2 コンポーネントビデオケーブル
3 Sビデオケーブル
4 ビデオ用ピンケーブル

■ DVD プレーヤーを接続する

音声ケーブルの接続

DVD プレーヤーの光／同軸デジタル出力端子を、本機の同じ種類のデジタル入力（DVD）端子に接続します。またはDVD プレーヤーのアナログ音声出力端子を本機のアナログ音声入力（DVD）端子に接続します。

映像ケーブルの接続

DVD プレーヤーのコンポーネント／D4 ／S ／ビデオ出力端子のいずれか 1 つを、本機の同じ種類の映像入力(DVD) 端子に接続します。

■ 衛星放送／ケーブルテレビチューナーを接続する

音声ケーブルの接続

衛星放送／ケーブルテレビチューナーの光デジタル出力端子を、本機の光デジタル入力（DTV/CBL）端子に接続します。または衛星放送／ケーブルテレビチューナーのアナログ音声出力端子を本機のアナログ音声入力（DTV/CBL）端子に接続します。

ヒント

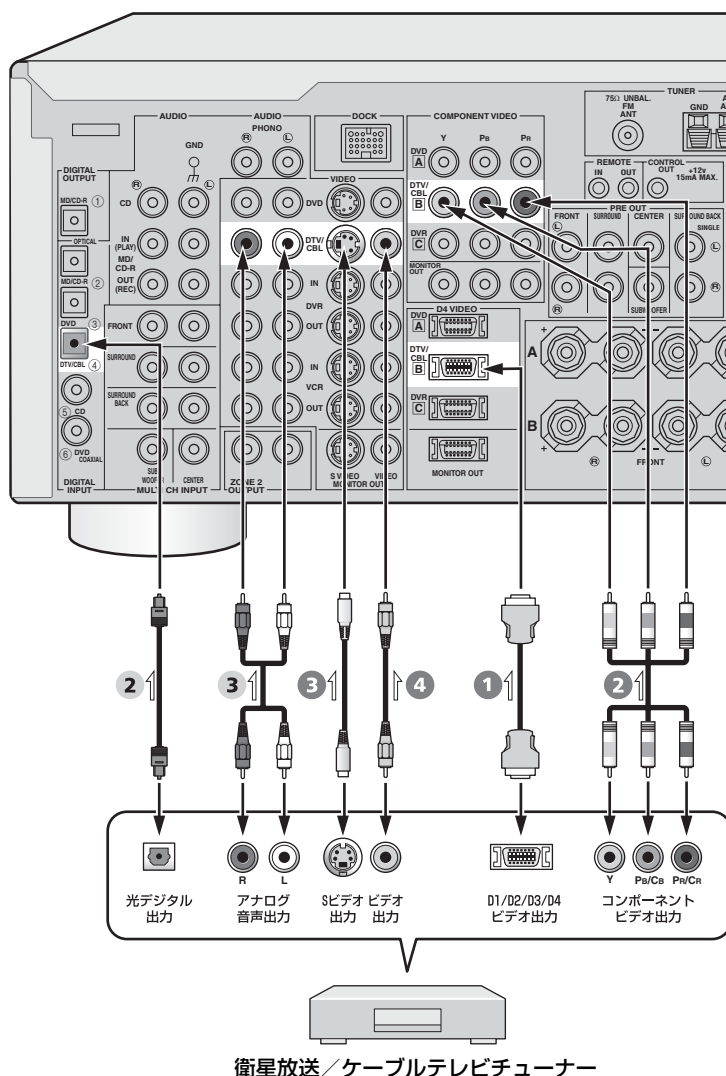
衛星放送／ケーブルテレビチューナーに同軸デジタル音声出力端子がある場合は、本機の同軸デジタル入力端子に接続します。その際は、セットメニュー「I/O ASSIGNMENT」で割り当てを変更することをおすすめします（☞86 ページ）。

映像ケーブルの接続

衛星放送／ケーブルテレビチューナーのコンポーネント／ D4 ／ S ／ビデオ出力端子のいずれか 1 つを、本機の同じ種類の映像入力 (DTV/CBL) 端子に接続します。

音声

2 光ファイバーケーブル
3 ステレオピンケーブル

映像

1 D端子ケーブル
2 コンポーネントビデオケーブル
3 Sビデオケーブル
4 ビデオ用ピンケーブル

■ DVD レコーダーを接続する

音声ケーブルの接続

再生する場合は、DVD レコーダーのアナログ音声出力端子を、本機のアナログ音声入力(DVR)端子に接続します。録画する場合は、DVD レコーダーのアナログ音声入力端子を、本機のアナログ音声出力（DVR）端子に接続します。

映像ケーブルの接続

再生する場合は、DVD レコーダーのコンポーネント／D4／S／ビデオ出力端子を、本機の同じ種類の映像入力（DVR）端子に接続します。録画する場合は、DVD レコーダーのSビデオ／ビデオ入力端子を、本機のSビデオ／ビデオ出力（DVR）端子に接続します。

ヒント

DVD レコーダーにデジタル音声出力端子がある場合は、本機の同軸デジタル入力端子、または空いている光デジタル入力端子に接続します。同軸デジタル接続と光デジタル接続を同時に行った場合は、同軸デジタル信号が優先されます。また、光デジタル入力端子がある場合は、本機の光デジタル出力端子に接続します。

以上の場合は、セットメニュー「I/O ASSIGNMENT」で割り当てを変更することをおすすめします（☞86 ページ）。

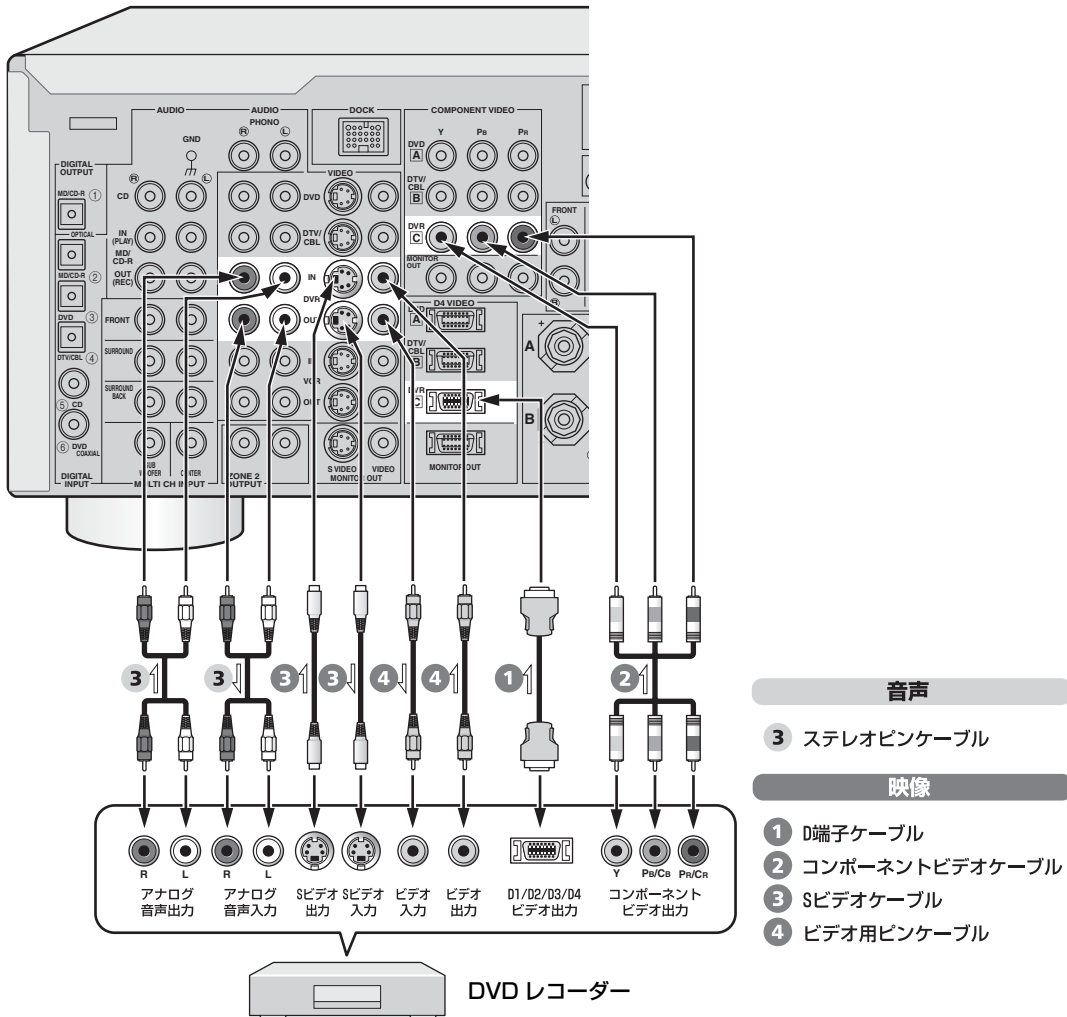
ご注意

録画する場合は、プレーヤーと同じ種類の接続方法で映像端子を接続してください。（例：S VIDEO とS VIDEO など）

音声

3 ステレオピンケーブル

映像

1 D端子ケーブル
2 コンポーネントビデオケーブル
3 Sビデオケーブル
4 ビデオ用ピンケーブル

■ ビデオデッキを接続する

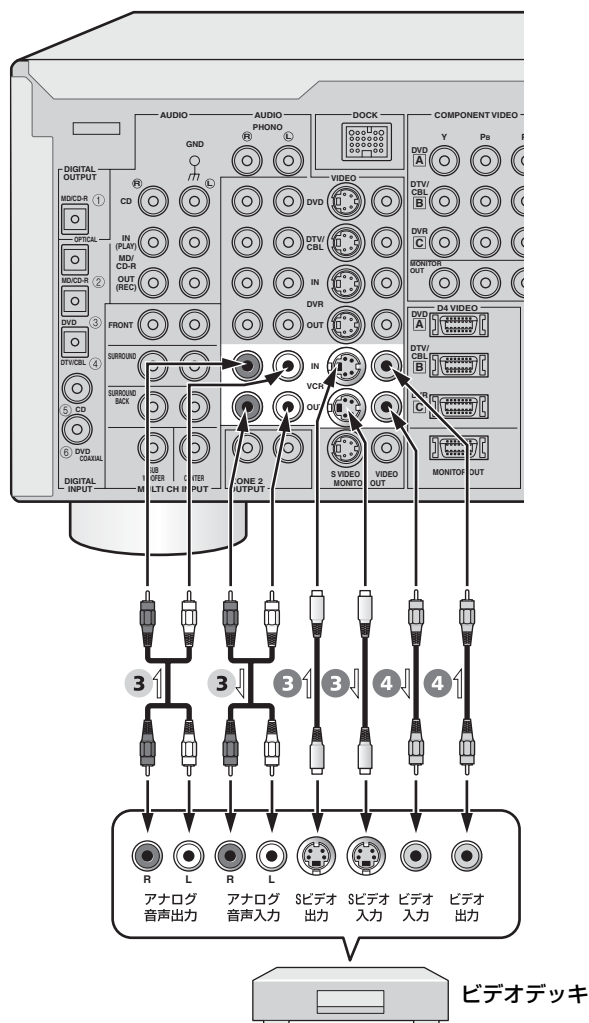
音声ケーブルの接続

再生する場合は、ビデオデッキのアナログ音声出力端子を、本機のアナログ音声入力(VCR)端子に接続します。録画する場合は、ビデオデッキのアナログ音声入力端子を、本機のアナログ音声出力（VCR）端子に接続します。

映像ケーブルの接続

再生する場合は、ビデオデッキのS／ビデオ出力端子を、本機の同じ種類の映像入力（VCR）端子に接続します。録画する場合は、ビデオデッキのSビデオ／ビデオ入力端子を、本機のSビデオ／ビデオ出力（VCR）端子に接続します。

ご注意

録画する場合は、プレーヤーと同じ種類の接続方法で映像端子を接続してください。（例：S VIDEOとS VIDEOなど）

■ LD プレーヤーを接続する

LD プレーヤーの接続例です。下図では、DTV/CBL 端子へ接続しています。

音声ケーブルの接続

- LD プレーヤーの光デジタル出力端子を、本機の空いている光デジタル入力端子に接続します。LD プレーヤーにアナログ音声出力端子がある場合は、本機の空いているアナログ音声入力端子に接続します。
- LD プレーヤーにドルビーデジタル RF 出力端子がある場合は、市販の RF デモジュレーターに接続してから、本機の空いている光デジタル入力端子に接続します。

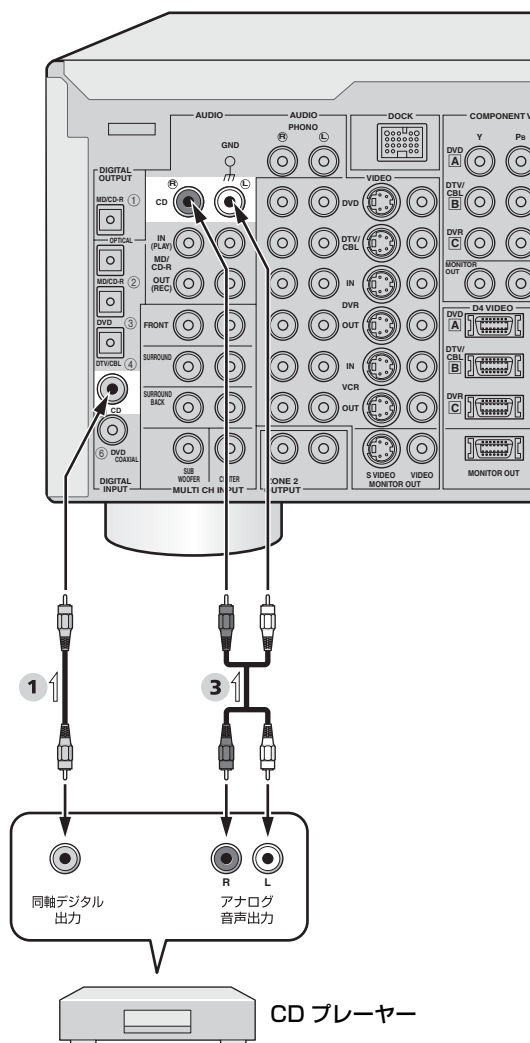
映像ケーブルの接続

LD プレーヤーのＳビデオまたはビデオ出力端子を、本機の空いているＳビデオまたはビデオ入力端子に接続します。

■ CD プレーヤーを接続する

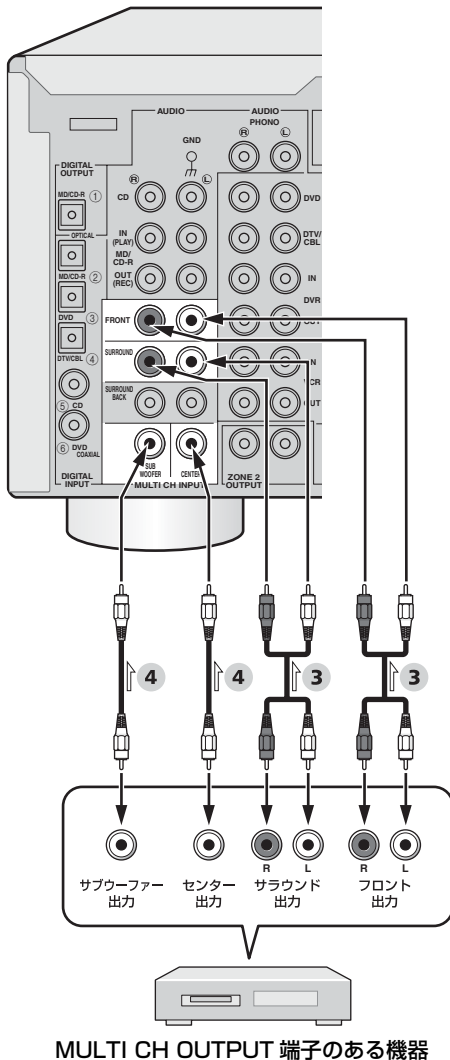
CD プレーヤーの同軸デジタル出力端子を、本機の同軸デジタル入力端子（CD）に接続します。または、CD プレーヤーのアナログ音声出力端子を本機のアナログ音声入力端子（CD）に接続します。

ヒント

CD プレーヤーに光デジタル音声出力端子がある場合は、本機の空いている光デジタル入力端子に接続します。その際は、セットメニュー「I/O ASSIGNMENT」で割り当てを変更することをおすすめします（☞86 ページ）。

音声

1 同軸ケーブル
3 ステレオピンケーブル

■ マルチチャンネル出力端子がある機器を接続する

本機には、マルチチャンネル入力端子（FRONT L/R、CENTER、SURROUND L/R、SUBWOOFER）が装備されています。
DVD プレーヤーやスーパーオーディオ CD プレーヤーなど、マルチチャンネル音声出力端子がある機器と本機を接続すると、マルチチャンネル音声をお楽しみいただけます。

ヒント
ヘッドホン使用時には、フロント L ／ R チャンネルの音声のみヘッドホンから出力されます。

ご注意
MULTI CH INPUT 端子から入力した信号には、本機の音場効果はかかりません。

■ 6 チャンネル音声を入力する場合

音声

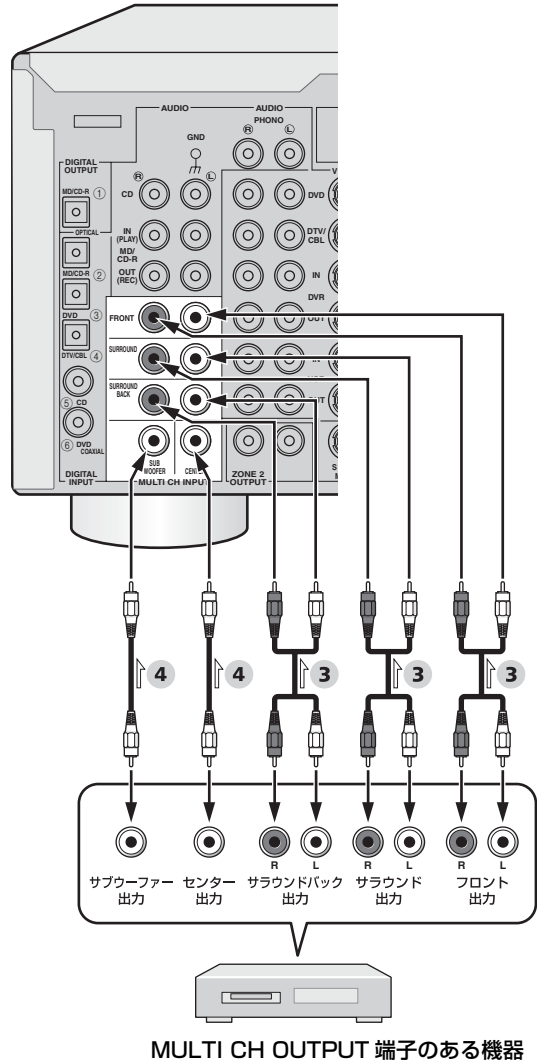
3 ステレオピンケーブル
4 モノラルピンケーブル

MULTI CH OUTPUT 端子のある機器

■ 8 チャンネル音声を入力する場合

音声

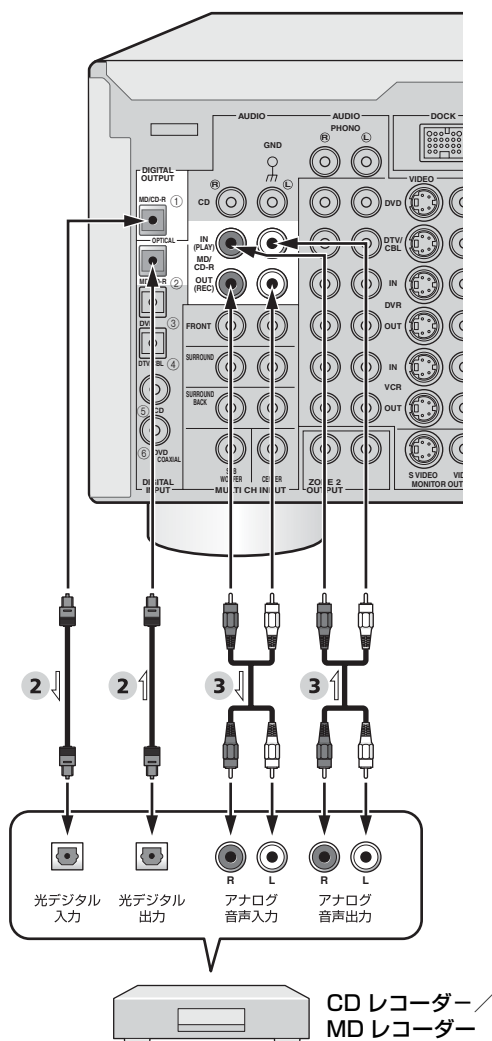
3 ステレオピンケーブル
4 モノラルピンケーブル

MULTI CH OUTPUT 端子のある機器

■ MD レコーダー／CD レコーダーを接続する

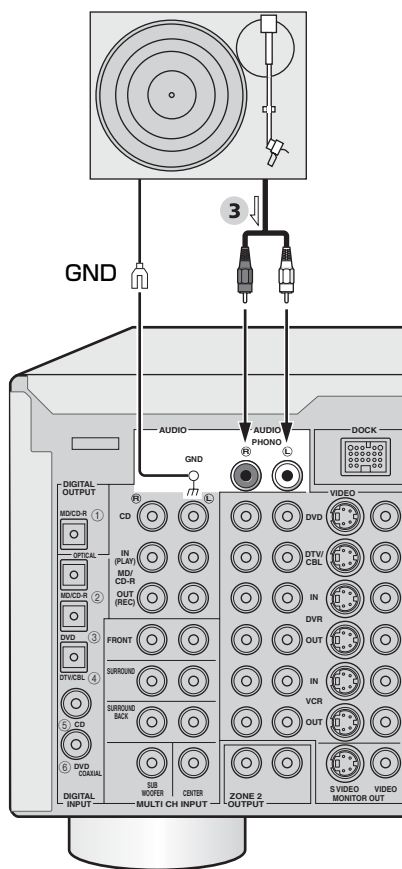
再生する場合は、MD レコーダー／CD レコーダーの光デジタル／アナログ音声出力端子を、本機の同じ種類の音声入力 (MD/CD-R) 端子に接続します。
録音する場合は、MD レコーダー／CD レコーダーの光デジタル／アナログ音声入力端子を、本機の同じ種類の音声出力 (MD/CD-R) 端子に接続します。

ヒント

カセットデッキを接続する場合は、本機のアナログ音声入出力 (MD/CD-R) 端子に接続します。

音声

- 2 光ファイバーケーブル
- 3 ステレオピンケーブル

■ レコードプレーヤーを接続する

お手持ちのレコードプレーヤーのアナログ音声出力端子を本機のPHONO（AUDIO）端子へ、GNDを本機のSIGNAL GND端子へ接続します。
MM カートリッジまたは高出力型 MC カートリッジ付のレコードプレーヤーを接続する場合は、そのままアナログ音声入力（PHONO）端子に接続します。
低出力型 MC カートリッジ付のレコードプレーヤーを接続する場合は、昇圧トランスまたは MC ヘッドアンプを使用してアナログ音声入力（PHONO）端子に接続します。

音声

- 3 ステレオピンケーブル

ご注意

SIGNAL GND 端子は安全アースではありません。雑音が多いときに接続すると、雑音を低減することができます。

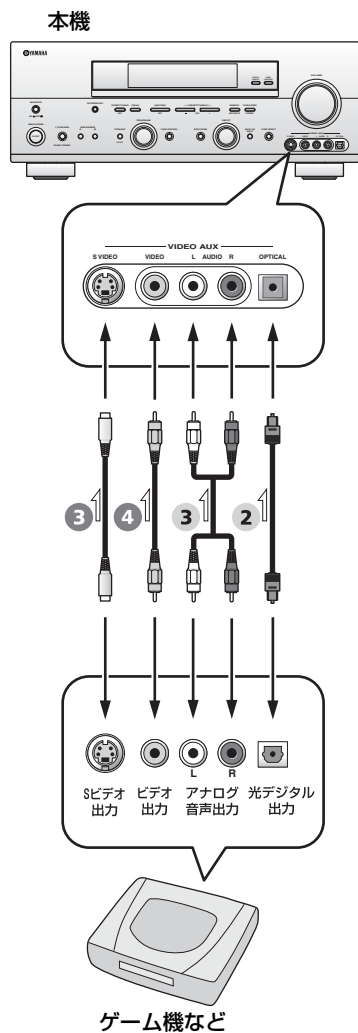
■ ゲーム機やビデオカメラを接続する

本機前面のVIDEO AUX端子に接続します。

ヒント

本機リアパネルのDOCK端子に接続したヤマハ製ドック（別売YDS-10など）にiPodをセットし、本機がiPodを認識しているときには、iPodの音声をVIDEO AUX端子に接続した機器の音声よりも優先的に出力します。

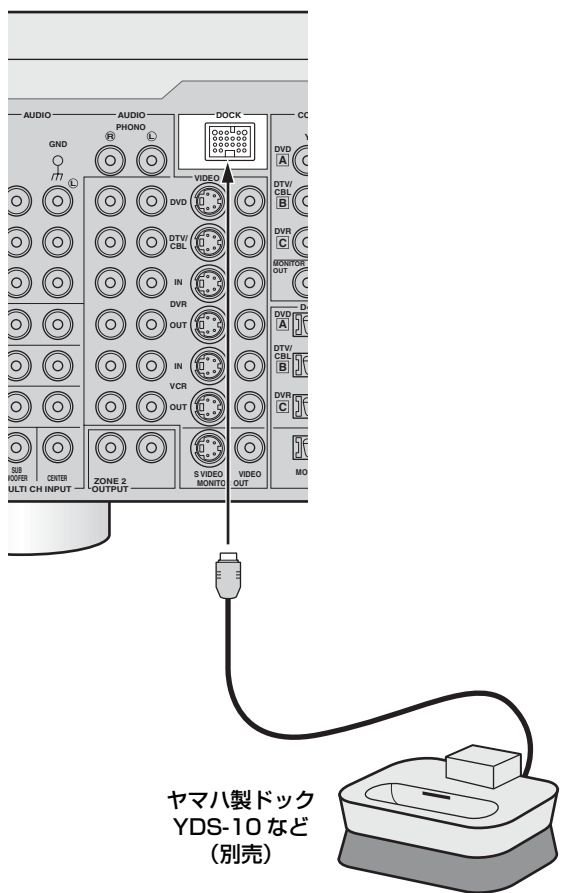
本機

音声

- 2 光ファイバーケーブル
- 3 ステレオピンケーブル

映像

- 3 Sビデオケーブル
- 4 ビデオ用ピンケーブル

■ ヤマハ製ドックを接続する

本機は、iPodの再生を楽しむことができるヤマハ製ドック（別売YDS-10など）接続用のDOCK端子を装備しています。本機にヤマハ製ドックを接続し、iPodをセットすれば、本機でiPodの再生を楽しんだり、付属のリモコンでiPodを操作することができます。詳しくは「iPodの再生を楽しむ」（☞109ページ）をご覧ください。

ヤマハ製ドック
YDS-10など
（別売）

ご注意

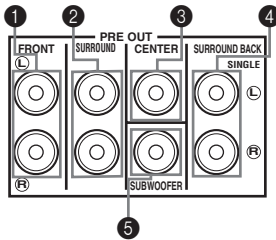
- ヤマハ製ドック（別売 YDS-10 など）に iPod をセットする、または取り外す際は、必ず音量を十分に下げてください。
- iPod がヤマハ製ドック（別売 YDS-10 など） にしっかりとセットされていない場合、映像が iPod の画面に映し出されていても音声が出力されない場合があります。
- 本機に接続したヤマハ製ドック（別売 YDS-10 など）に iPod をセットしているときは、iPod 用のアクセサリー（ヘッドホンやリモコン、FM トランスミッターなど）を iPod に接続しないでください。

ヒント

- iPodの再生を楽しむには、別売のヤマハ製ドック（YDS-10など）が必要です。
- iPod の種類は、クリックホイール、nano、mini に対応しています。
- 本機に接続したヤマハ製ドック（別売 YDS-10 など）に iPod をセットすると、本機と iPod との通信が始まります。
- 本機とiPodとの通信が完了すると、フロントパネルディスプレイに「iPod connected」と表示され、DOCK インジケーターが点灯します。
- 本機と iPod との通信に問題が生じると、フロントパネルディスプレイにエラーメッセージが表示されます。iPod 接続時に表示されるメッセージについては、「iPod 接続時のメッセージについて」（☞111 ページ）をご覧ください。
- 本機に接続したヤマハ製ドック（別売 YDS-10 など）に iPod をセットし、本機が iPod を認識しているときには、iPod の信号を VIDEO AUX 端子に接続した機器の信号よりも優先的に出力します。
- DOCK 端子には、iPod のアナログ音声信号およびアナログ映像信号のみ入力されます。入力されたアナログ音声信号は AUDIO OUT (REC) 端子からのみ出力されます。
- 本機に接続したヤマハ製ドック（別売 YDS-10 など）に iPod をセットし、本機の電源をオンにすると、自動的に iPod の充電が始まります。電源をオフにすると、充電は停止されます。
- iPod の種類により、ヤマハ製ドック（別売 YDS-10 など）にアダプターを装着してお使いください。

外部パワーアンプを接続する

■ 外部パワーアンプを接続する

スピーカー出力をパワーアップするために外部パワーアンプ（プリメインアンプ）をお使いになる場合や、お手持ちのアンプをお使いになる場合などは、PRE OUT端子と接続します。

❶ FRONT（フロント）端子

フロントL／Rチャンネルの信号を出力します。外部パワーアンプを接続して、フロントL／Rスピーカーを駆動させる場合に使います。

❷ SURROUND（サラウンド）端子

サラウンドL／Rチャンネルの信号を出力します。外部パワーアンプを接続して、サラウンドL／Rスピーカーを駆動させる場合に使います。

❸ CENTER（センター）端子

センターチャンネルの信号を出力します。外部パワーアンプを接続して、センタースピーカーを駆動させる場合に使います。

❹ SURROUND（サラウンド） BACK（バック）端子

サラウンドバックL／Rチャンネルの信号を出力します。外部パワーアンプを接続して、サラウンドバックL／Rスピーカーを駆動させる場合に使います。

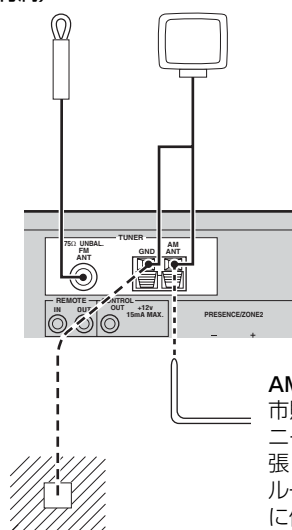
❺ SUBWOOFER（サブウーファー）端子

ヤマハ・アクティブサーボ・サブウーファーシステムなどの、アンプ内蔵サブウーファーをお使いになる場合は、この端子に接続します。
フロント、センター、サラウンドおよびサラウンドバックチャンネルからの低音信号が出力されます。

ご注意

- 外部パワーアンプへ出力するためにRCAピンプラグをPRE OUT端子に接続したときは、対応するスピーカー端子を使わないでください。また接続する外部パワーアンプの音量は最大にしてください。
- FRONT PRE OUT端子とCENTER PRE OUT端子から出力される信号は、TONE CONTROL機能によって調節することができます（☞52ページ）。
- FRONT SPEAKERS A端子に接続されたスピーカーの出力がオフで、セットメニュー「MULTI ZONE SET」の「SP B」が「ZONE B」に設定されているときはFRONT PRE OUT端子からのみ音が出力されます。
- 各PRE OUT端子は対応するスピーカー端子と同じチャンネル成分を出力します。
- サブウーファーの音量は、お使いのサブウーファー本体で調節します。本機のリモコンを使って調節することもできます。詳しくは105ページの「スピーカーの音量を調節する」をご覧ください。
- セットメニュー「SOUND　MENU」の「SPEAKER SET」（☞78ページ）と「LFE/BASS OUT」（☞79ページ）の設定によりSUBWOOFER PRE OUT端子から音が出力されない場合があります。

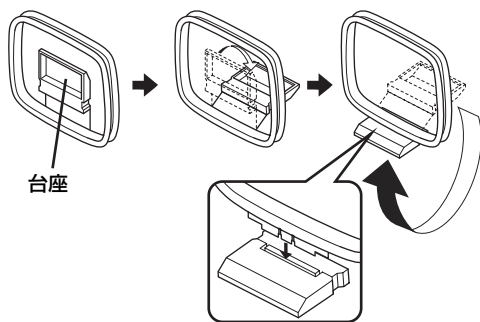
アンテナを接続する

本機には、AMループアンテナおよびFM簡易アンテナが付属しています。付属のアンテナでうまく受信ができない場合は、屋外アンテナを接続してください。

AM 屋外アンテナ
市販の５～ 10m のビニール被覆線を屋外に張ってください。（AM ループアンテナも同時に使用してください。）

アース（GND 端子）
GND 端子は安全アースではありません。雑音が多いときに、接続すると雑音を低減することができます。アースは市販のアース棒か銅板に、ビニール被覆線を接続し、湿気の多い地中に埋めてください。

■ AMループアンテナを接続する

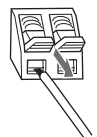
1 **アンテナをアンテナスタンドに取り付ける。**

台座

台座のミゾに突起部をはめ込んで固定する

2 **AM ANT端子とGND端子のレバーを押し込んだ状態で、AMループアンテナのコードをAM ANT 端子とGND 端子に差し込む。**

コードに極性はありません。

3 **レバーを放して、コードを固定する。**

コードを軽く引いて、正しく固定されたかどうか確認してください。
もう片方のコードも同様に接続してください。

ヒント
- 受信がうまくいかない場合は、アンテナを左右に回して、受信状態が最も良くなる方向に向けてください。
- 放送を良好に受信するためには、屋外アンテナを設置することをおすすめします。詳しくは、本機をお買い求めの販売店にお問い合わせください。

ご注意
- AM ループアンテナは、本機から離して設置してください。
- 屋外アンテナを接続した場合でも、AM ループアンテナは必ず接続してください。

■ FM簡易アンテナを接続する

付属のFM簡易アンテナをFM ANT端子に接続してください。

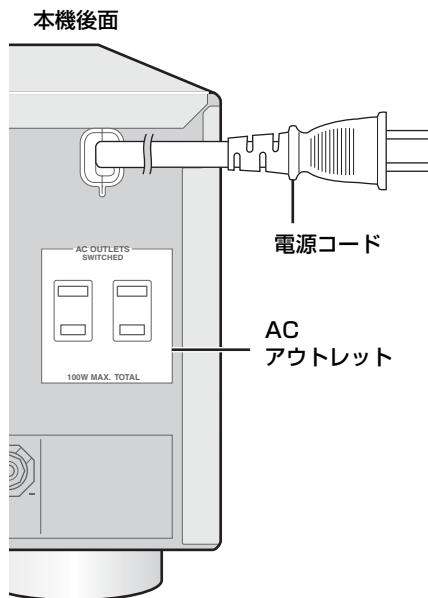
FM屋外アンテナを接続するときは
市販のＦ型コネクターを使って、アンテナの同軸ケーブルをFM ANT 端子に接続します。詳しくは、屋外アンテナをお買い求めの販売店にご相談ください。

電源コードを接続する

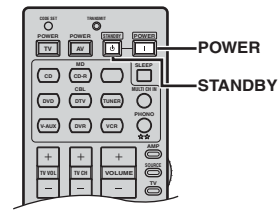
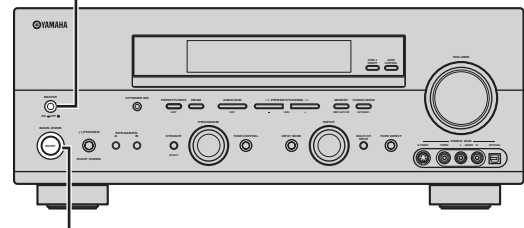
■ ACアウトレット

外部オーディオ機器に電源を供給するコンセントで、本機のMASTER ON／OFFスイッチと連動しています。合計で消費電力100Wまでのオーディオ機器を接続し、電源を供給することができます。
接続するときの電源プラグの向き（極性）によって音質が変わることがありますので、お好みの向きで接続してください。

■ 電源コード

すべての接続が終了したら、家庭用AC100V、50／60HzのACコンセントに電源コードのプラグを接続します。
接続するときの電源プラグの向き（極性）によって音質が変わることがありますので、お好みの向きで接続してください。

■ メモリーバックアップ機能について

本機は電源がスタンバイ時にも、設定などを保存できます。電源コードをACコンセントから抜いたりして、電源供給が1週間以上遮断されると、保存された設定などは失われますのでご注意ください。

電源をオン／オフする

■ 電源の入れかた

すべての接続が終わったら、本機の電源を入れます。

本体のMASTER ON ／ OFFスイッチを押して、ONにする。

本機の電源がオンになります。本体スイッチやリモコンキーで本機を操作することができます。

■ 電源の切りかた

本体のMAIN ZONE ON/OFFスイッチまたはリモコンのSTANDBYキーを押す。

本機がスタンバイになります。本体のMAIN ZONE ON/OFFスイッチをもう1度押す、またはリモコンのPOWERキーを押せば、本機の電源をオンにすることができます。

本体のMASTER ON ／ OFFスイッチを押す。

本機の電源がオフになります。本体スイッチやリモコンキーの操作は受け付けません。

ヒント
ゾーン2の操作については114ページをご覧ください。

操作内容をテレビに表示する（オンスクリーン表示）

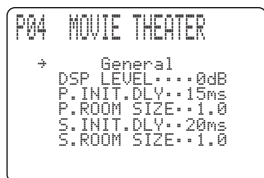
本機にテレビを接続すると、本機の操作内容などをテレビ画面に表示させることができます。
本体のディスプレイ表示に比べて、項目や設定値などが見やすく表示されるので、セットメニューや音場プログラムパラメーターを設定する際に便利です。

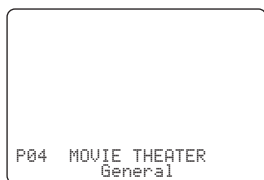
表示の種類

オンスクリーン表示には次の３種類があります。表示種類の切り替えかたについては、「表示の切り替え」（☞39 ページ）をご覧ください。

フル表示

音場プログラムのパラメーターが、常にテレビ画面に表示されます。
入力を切り替えるときや音量を調節するときは、これらの操作内容がテレビ画面の下側に数秒間表示されます。

P04 MOVIE THEATER
→ General
DSP LEVEL‥‥0dB
P.INIT.DLY‥15ms
P.ROOM SIZE‥1.0
S.INIT.DLY‥20ms
S.ROOM SIZE‥1.0

ショート表示

本体のディスプレイと同じ内容（操作状態）が、テレビ画面の下に数秒間表示されたあと、消えます。

表示 OFF

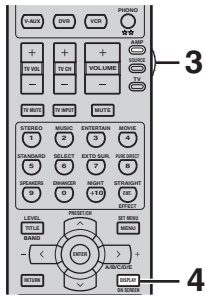
テレビ画面の下に「DISPLAY OFF」が表示されたあと、消えます。DISPLAY キーまたは SET MENU キー以外のキーを操作しても何も表示されません。

ヒント

- 本機とテレビをコンポジットビデオまたはＳビデオ接続している場合、オンスクリーン画面は再生している映像に重ねて表示されます。
- セットメニューを設定しているときは、表示の種類にかかわらず、常に内容が表示されます。
- オンスクリーン表示は DVR OUT 端子および VCR OUT 端子に出力されないので、映像と一緒に録画されることはありません。
- セットメニュー「DISPLAY SET」の「GRAY BACK」を「AUTO」に設定すると、映像信号が入力されていない場合も、グレーの背景をオンスクリーン画面に表示します（☞89 ページ）。

ご注意

- セットメニュー「DISPLAY SET」の「VIDEO CONV.」を「OFF」に設定すると、オンスクリーン画面は表示されません（☞89 ページ）。
- コンポーネントビデオ信号が入力されている場合、ショート表示に設定すると、オンスクリーン画面は表示されません。
- セットメニュー「DISPLAY SET」の「GRAY BACK」を「OFF」に設定すると、入力された映像信号によってはオンスクリーン画面が表示されないことがあります（☞89 ページ）。
- コピーガード信号が入ったビデオソフトを再生したり、ノイズの多い映像信号を再生した場合、オンスクリーン表示がぶれることがありますが、本機の故障ではありません。

表示の切り替え

1 本機とテレビの電源を入れる。

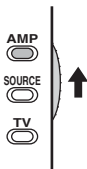
本機の電源について詳しくは、「電源をオン／オフする」（☞37 ページ）をご覧ください。

2 テレビの映像入力を切り替えて、本機の映像に合わせる。

詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

ヒント

例えば、本機がテレビのビデオ入力端子２に接続されている場合は、ビデオ入力２を選びます。

3 操作機器選択スイッチをスライドさせて、アンプモードを選ぶ。

4 DISPLAYキーを押す。

押すごとに、表示内容がフル表示→ショート表示→表示OFF→フル表示→…の順に切り替わります。

最適な視聴空間を自動的に設定する（AUTO SETUP）

本機に搭載の「YPAO」（Yamaha Parametric Room Acoustic Optimizer）により、お使いになるスピーカーの配置や性能、お部屋の音響特性を測定し、最適な視聴空間を自動的に設定することができます。スピーカーから出力されるテストトーンを、付属のオプティマイザーマイクが測定して、最適な視聴環境を自動的に設定します。

設定の流れ

オプティマイザーマイクを設置する
（☞右記参照）

↓

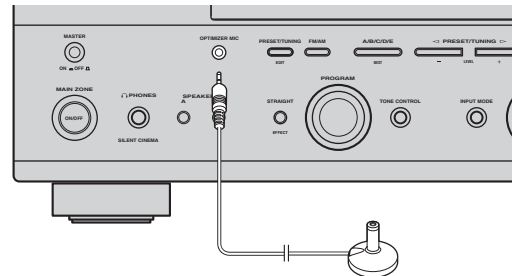
測定を開始する（☞41 ページ）

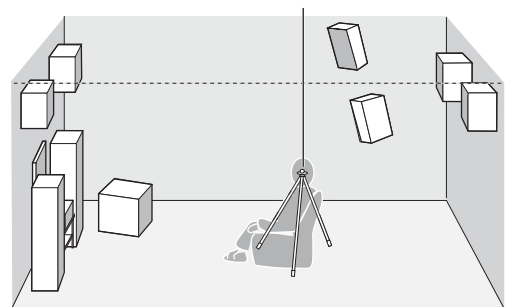
YPAOによって以下の測定が行われます。

- WIRING：
  スピーカーの接続状態や極性をチェックします。
- SIZE：
  各スピーカーのサイズを設定します。
- DISTANCE：
  リスニングポジションから各スピーカーまでの距離をチェックし、遅延時間を設定します。
- EQUALIZING：
  フロントL／R以外のチャンネルの周波数特性を調節することで、各スピーカーの特性をフロントL／Rスピーカーの特性に合わせます。
  周波数特性の補正は、周波数、レベル、Qファクターの３つのパラメーターがそれぞれ独立して可変するパラメトリックイコライザーを使って行います。これらの組み合わせで、より精度の高い周波数特性の補正を、YPAOにより自動的に行うことができます。
- LEVEL：
  各スピーカーからの音量を調節します。

結果を確認する（☞42 ページ）

オプティマイザーマイクを設置する

1 **本機前面のOPTIMIZER MIC端子に、付属のオプティマイザーマイクを接続する。**

2 **オプティマイザーマイクを視聴位置（リスニングポジション）に、全方向マイクのヘッド部を上に向けて水平に置く。**

耳と同じ高さに設置固定するために三脚などを使うことをおすすめします。

ご注意

- オプティマイザーマイクは高温に弱いため、直射日光が当たる場所や、本機の上に置かないでください。
- 設定が終わったら、オプティマイザーマイクは外してください。

測定を開始する

AUTO SETUPの手順

ご注意

- 測定中は大きな音量でテストトーンが出ます。小さなお子様などがリスニングルームに入らないようご配慮ください。
- AUTO SETUPの手順が中断して画面にエラーメッセージが出たときは、44 ページの「表示メッセージについて」をご覧ください。

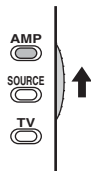
ヒント

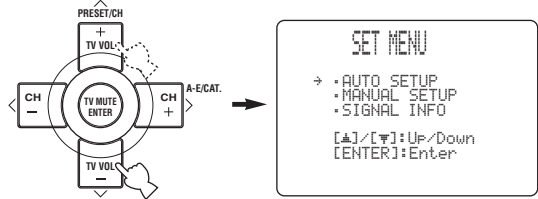
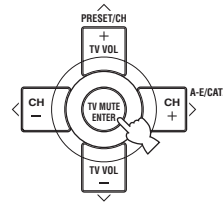
サブウーファーを接続している場合は電源を入れて、下図の位置（半分よりやや小さめ）にボリュームを設定してください。また、クロスオーバー周波数／ハイカット周波数の設定機能がある場合は、クロスオーバー周波数／ハイカット周波数を最大に設定してください。

サブウーファー

1 本機とテレビの電源を入れる。

本機の電源について詳しくは、「電源をオン／オフする」（☞37 ページ）をご覧ください。

2 操作機器選択スイッチをスライドさせて、アンプモードを選ぶ。

3 SET MENUキーを押す。

4 ∧または∨キーを押して、AUTO SETUPを選ぶ。

5 ENTERキーを押して決定する。

6 ∨キーを押して、「SETUP」を選ぶ。

7 ＜または＞キーを押して、設定の方法を選ぶ。

AUTO: すべての項目を自動的に設定します。
RELOAD: 前回のAUTO SETUPでの設定値に戻します。
UNDO: 前回のAUTO SETUPでの設定を無効にします。
DEFAULT: 工場出荷時の設定に戻します。

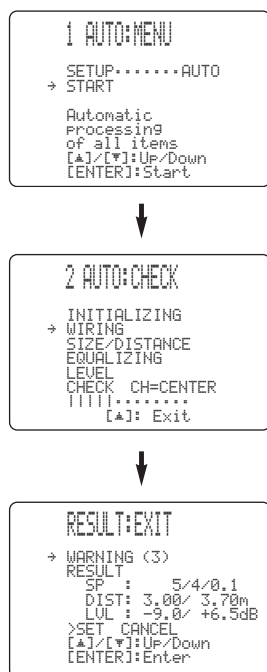
ご注意

RELOADおよびUNDOは、すでにAUTO SETUPでの設定を行っている場合にのみ選ぶことができます。

再生前の基本設定

8 ∨キーを押して、「START」を選ぶ。

9 ENTERキーを押して測定を始める。

画面が以下のように変わります。

測定が終わるとRESULT:EXIT画面に結果が表示されます。

SP：接続されているスピーカーの数を以下の順で表示します。

フロント／バック／サブウーファー

DIST：本機からスピーカーまでの距離を以下の順で表示します。

最も近いスピーカーまでの距離／
最も遠いスピーカーまでの距離

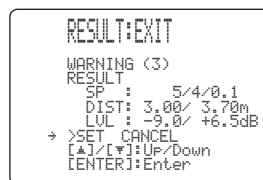
LVL：スピーカーの音量レベルを以下の順で表示します。

最も低い音量レベル／最も高い音量レベル

- 手順７でAUTOを選ぶと、「WAITING」と表示されて自動設定が始まり、各スピーカーから大きなテストトーンが出力されます。
- 手順７でDEFAULT、RELOAD、またはUNDOを選んだときは、テストトーンが出力されません。
- 画面に「ERROR」と表示された場合は、43ページの「エラーメッセージが表示される場合」をご覧ください。
- 画面に「WARNING」と表示された場合は43ページの「警告メッセージが表示される場合」をご覧ください。

ヒント

∨キーでRESULTを選んでENTERキーを押すと、測定結果の詳しい情報を表示することができます。詳細情報画面ではカーソルキー（∧／∨／＜／＞）を押して情報を切り替えます。

10 ＜／＞キーを押してSETまたはCANCELを選び、ENTERキーを押してSET MENU画面に戻る

SET: YPAOによる自動測定を適用します。
CANCEL: YPAOによる自動測定を取り消します。

ヒント

YPAOによる測定結果に満足できない場合や各パラメーターを手動で設定したい場合は、セットメニューの「MANUAL SETUP」で設定してください（☞76ページ）。

ご注意

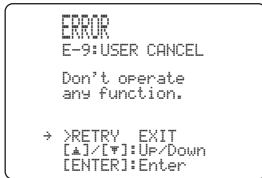
- 画面に「E-10」と表示された場合は手順3から操作をやり直してください。
- 手順の途中でAUTO SETUPを終了したい場合は、∧キーを押してください。

■ エラーメッセージが表示される場合

∧／∨／＜／＞キーを押して「RETRY」または「EXIT」を選び、ENTER キーを押して決定する。

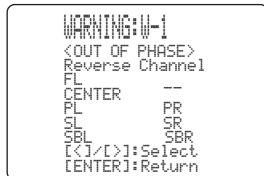
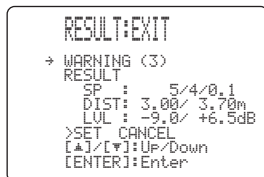
```
ERROR
E-9:USER CANCEL

Don't operate
any function.

→ >RETRY  EXIT
[▲]/[▼]:Up/Down
[ENTER]:Enter
```

RETRY: もう 1 度、AUTO SETUP を始めます。
EXIT:　AUTO SETUP を終了します。

■ 警告メッセージが表示される場合

1 ENTER キーを押して警告に関する詳しい情報を表示させる。

＜／＞キーを押すとほかのエラーメッセージに切り替わります。
警告メッセージについて詳しくは 45 ページをご覧ください。

警告 W-1 の表示例

ヒント

- 警告メッセージによって、AUTO SETUP の操作の間に検出された潜在的な問題を知ることができます。警告メッセージが表示されても AUTO SETUP の操作を取り消すことはできません。
- 画面の「WARNING」の右側に警告の数が表示されます。
- 表示されている警告が関係のない場合は、「－－」がスピーカー名称の右に表示されます。

2 ENTER キーを押して RESULT:EXIT 画面に戻る

42 ページの手順 10 から続けてください。

ご注意

- リスニングルーム（視聴環境）やスピーカーの設置位置や配置を替えたときは、自動測定を再度行ってください。
- 視聴環境により、AUTO：CHECK の画面に「SWFR PHASE:REV」と表示されて、セットメニュー「SPEAKER SET」の「SUBWOOFER PHASE」が自動的に「REVERSE」に設定される場合があります。必要に応じて「SUBWOOFER PHASE」の設定を変更してください（☞80 ページ）。
- 手順 9 の「DISTANCE」（本機とスピーカーの間の距離）の測定結果は、お使いのサブウーファーの特性によって、実際の距離よりも長い値が表示される場合があります。

再生前の基本設定

表示メッセージについて

■ 測定開始時の表示

エラーメッセージ	原因	対策
Connect MIC !	付属のオプティマイザーマイクが接続されていません。	本機前面の OPTIMIZER MIC 端子に、オプティマイザーマイクを接続してください。
Unplug HP !	ヘッドホンが接続されています。	本機前面の PHONES（SILENT CINEMA）端子から、ヘッドホンを抜いてください。

■ 測定中のエラーメッセージ

エラーメッセージ	原因	対策
E-1:NO FRONT SP	フロント L/R チャンネル信号が検出されませんでした。	SPEAKERS A/B スイッチでスピーカーを正しく選んでください。
		フロント L/R スピーカーが正しく接続されているか確認してください。
		PREOUT FRONT 端子に外部パワーアンプを接続している場合は、外部パワーアンプの電源が入っているかご確認ください。
E-2:NO SUR. SP	サラウンド L/R チャンネル信号の片側しか検出されませんでした。	サラウンド L/R スピーカーが正しく接続されているか確認してください。
E-3:NO PRES. SP	プレゼンス L/R チャンネル信号の片側しか検出されませんでした。	プレゼンス L/R スピーカーが正しく接続されているか確認してください。
E-4:SBR->SBL	サラウンドバックスピーカーを 1 本のみ接続している場合に、R 側のサラウンドバックチャンネル成分のみが検出されました。	サラウンドバックスピーカーを 1 本のみ接続する場合は、L 側端子に接続してください。
E-5:NOISY	騒音が大きすぎて、正確な測定ができません。	周囲が静かな時間帯に測定をやり直してみてください。
		エアコンなど騒音を発生する機器の電源を一時的に切るか、遠ざけてみてください。
E-6:CHECK SUR.	サラウンド L/R スピーカーが接続されていないのに、サラウンドバックスピーカーだけが接続されています。	サラウンドバックスピーカーを使うときは、サラウンド L/R スピーカーを接続する必要があります。
		サラウンドスピーカーが正しく接続されているか確認してください。
E-7:NO MIC	測定の途中でオプティマイザーマイクが外れました。	AUTO SETUP での測定中はオプティマイザーマイクに触れないようご注意ください。
E-8:NO SIGNAL	オプティマイザーマイクがテストトーンを検知していません。	オプティマイザーマイクが正しく設置されているか確認してください。
		各スピーカーが正しく接続、設置されているか確認してください。

エラーメッセージ	原因	対策
E-9:USER CANCEL	何らかの操作をしたため、測定が中断しました。	測定をやり直してください。測定中は音量を調節するなどの操作をしないでください。
E-10:INTERNAL ERROR	DSP 伝送エラー、または本機内部の原因により、測定が中断しました。	測定をはじめからやり直してください。

■ 測定終了後の警告メッセージ

<／>キーを押すと、各メッセージの詳細を表示することができます。

警告メッセージ	原因	対策
W-1 OUT OF PHASE	表示されたスピーカーの極性が、逆に接続されています。お使いのスピーカーの種類によっては、スピーカーが正しく接続されていても、このメッセージが表示されます。	スピーカーの極性＋（プラス）、－（マイナス）が正しいか確認してください。
W-2 OVER 24m	表示されたスピーカーとリスニングポジション（視聴位置）との距離が24m 以上あり、補正ができません。	視聴位置の近くにスピーカーを移動してください。
		スピーカーの極性＋（プラス）、－（マイナス）が正しいか確認してください。
W-3 LEVEL ERROR	各チャンネル間の音量差が大きすぎて、補正ができません。	スピーカーの設置位置を再度確認して、すべてのスピーカーが同等の環境下に設置されているか確認してください。
		スピーカーの極性＋（プラス）、－（マイナス）が正しいか確認してください。
		なるべく性能が似ている、または同じスピーカーを使用することをおすすめします。

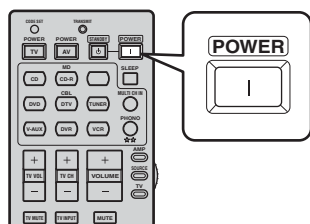
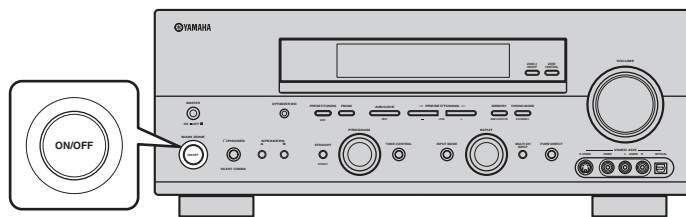
・ ERRORまたはWARNINGが画面に表示された場合はAUTO SETUPの測定をやり直してください。
・ 警告メッセージW-1が表示された場合、補正が行われますが、最適なものではありません。
・ 警告メッセージW-2またはW-3が表示された場合は補正は行われません。
・ エラーメッセージE-10が繰返し表示される場合は、ヤマハサービスセンターにお問合せください。

基本的な再生のしかた

DVDを再生する

AUTO SET UPの設定が終わったら、再生をはじめましょう。ここではDVDの再生のしかたを簡単に説明します。

1 本機の電源を入れる。

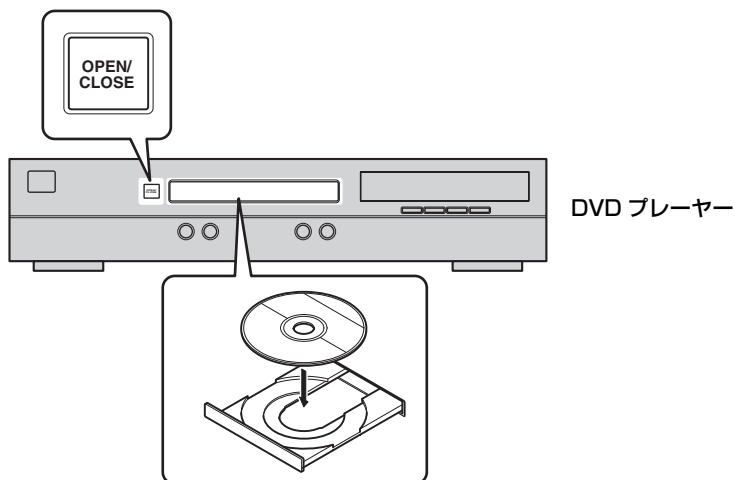
リモコンの**POWERキー**、または本体の**MAIN ZONE ON/OFFスイッチ**を押して電源をオンにします。
本機の電源について詳しくは、「電源をオン／オフする」（☞37 ページ）をご覧ください。

2 本機に接続されたテレビの電源を入れる。

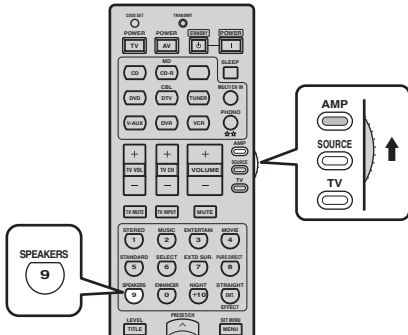
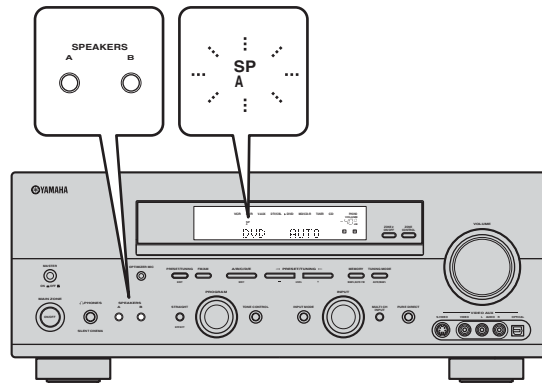
詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

3 本機に接続されたDVDプレーヤーの電源を入れる。

詳しくはDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

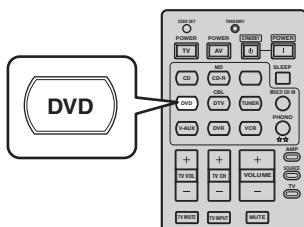
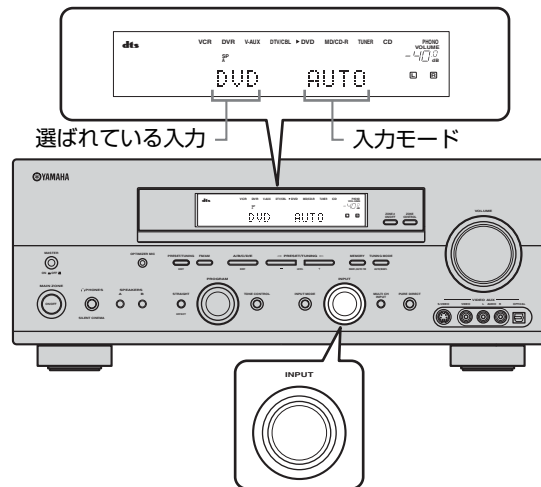
4 DVDディスクをセットする。

お手持ちのDVDプレーヤーのディスクトレイを開き、ディスクレーベル（印刷）がある面を上にして、ディスクをディスクトレイにのせます。ディスクをのせたら、ディスクトレイを閉めます。
DVDプレーヤーのディスクトレイの開閉について、詳しくはDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

5 スピーカーを選ぶ。

リモコンの**操作機器選択スイッチ**をスライドさせてアンプモードにしたあとに**SPEAKERSキー**を繰り返し押す、または本体の**SPEAKERS A／Bスイッチ**を押して、音を出すフロントL／Rスピーカーを選びます。リモコンの**SPEAKERSキー**は、押すごとに「A→B→ABオフ→A…」のように切り替わります。選んでいるスピーカーは、フロントパネルディスプレイのSP A／Bインジケーターで表示されます。

6 本機の入力を切り替える。

リモコンの**DVDキー**を押すか、本体の**INPUTセレクター**を回してDVDを選びます。入力を切り替えると、選んだ入力の名前と入力モードがフロントパネルディスプレイに数秒間表示されます。

ヒント

DVDプレーヤーをデジタル接続している場合は、入力モードを「AUTO」に設定してください。詳しくは104ページをご覧ください。

7 テレビの入力を切り替えて、本機の映像に合わせる。

詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

ヒント

例えば、本機がテレビのビデオ入力端子2に接続されている場合は、ビデオ入力2を選びます。

8 再生をはじめる。

詳しくはDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

ヒント

- 音の大きさを調節するには（☞52 ページ）
- 本機の使用を終了するには（☞52 ページ）
- リモコンコードを設定すると、本機のリモコンで、お使いのDVDプレーヤーを操作することができます(☞96 ページ)。
- 高音質のステレオ音声で楽しみたい場合は、PURE DIRECTキーを押すと、原音に忠実な高音質で再生するピュアダイレクトモードで楽しむことができます（☞67 ページ）。

9 音場プログラムを選ぶ。

お好みの音場プログラムを選んで、臨場感をお楽しみください。リモコンの**音場プログラムキー**を押す、または本体の**PROGRAMセレクター**を回して、音場プログラムを選びます。
選んだ音場プログラムがフロントパネルディスプレイに表示されます。

ヒント

音場プログラムの下層にあるサブプログラムを選ぶときは、リモコンの音場プログラムキーを繰り返し押します。

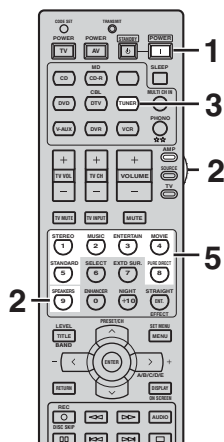
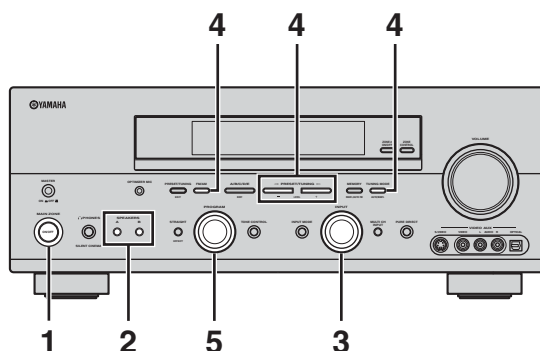
おすすめの音場プログラム

以下は映画を見るとき、音楽を聴くときにおすすめの音場プログラムです。なお、それぞれの音場の特徴については、「音場プログラムについて」（☞59 ページ〜）をご覧ください。

音楽を聴くときには…　　**映画を見るときには…**

FM ／ AM 放送を聴く

本機はチューナーを内蔵していますので、FM ／ AM 放送をお楽しみいただけます。

リモコンの操作

本体の操作

1 本機の電源を入れる。

リモコンの**POWER キー**、または本体の**MAIN ZONE ON/OFF スイッチ**を押して電源をオンにします。本機の電源について詳しくは、「電源をオン／オフする」（☞37 ページ）をご覧ください。

リモコン

本体

2 スピーカーを選ぶ。

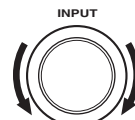
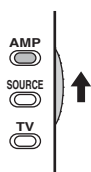
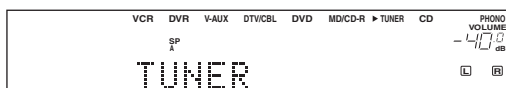
リモコンの**操作機器選択スイッチ**をスライドさせてアンプモードにしたあとに**SPEAKERS キー**を繰り返し押す、または本体の**SPEAKERS A ／ B スイッチ**を押して、音を出すフロント L ／ R スピーカーを選びます。リモコンの**SPEAKERS キー**は、押すごとに「A→B→AB オフ→A…」のように切り替わります。選んでいるスピーカーは、フロントパネルディスプレイの SP A ／ B インジケーターで表示されます。

リモコン

本体

3 本機の入力を TUNER に切り替える。

リモコンの**TUNER キー（入力選択キー）**を押すか、本体の**INPUT セレクター**を回して、TUNER を選びます。入力を切り替えると、フロントパネルディスプレイに数秒間「TUNER」と表示されます。

リモコン

本体

4 放送局を選ぶ。

放送局はオート選局とマニュアル選局の２つの方法で選ぶことができます。

自動的に選局する場合（オート選局）

① **本体のFM/AMキーを押して、FMまたはAMを選ぶ。**

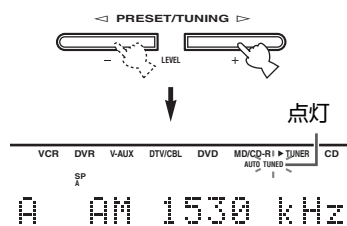
② **本体のTUNING MODE（AUTO/MAN'L）キーを繰り返し押して、フロントパネルディスプレイにAUTOインジケーターを点灯させる。**

「：」（コロン）がフロントパネルディスプレイに表示されている場合は、選局することはできません。PRESET/TUNING（EDIT）キーを押してコロンを消灯させてください。

③ **本体のPRESET/TUNING ◁／▷キーを押す。**

▷キーを押すと高い周波数へ、◁キーを押すと低い周波数へ向かってオート選局がはじまります。

放送局を受信すると、その局の周波数が表示され、TUNEDインジケーターが点灯します。

ヒント

- 受信感度が最良になるように、本機に接続したFM／AMアンテナの向きや位置を調節してください。
- 電波が弱くてお聴きになりたい放送局が選べないときは、手動で選局してください。
- お好みの放送局を登録（プリセット）しておくと、聴きたい放送局を簡単に呼び出せます（☞71 ～73 ページ）。

手動で選局する場合（マニュアル選局）

聴きたい放送局をうまく受信できないときは手動で選局してください。
FM放送局を手動で受信すると自動的にモノラル受信が行われて、電波が弱い場合でもよりよい音声をお楽しみいただけます。

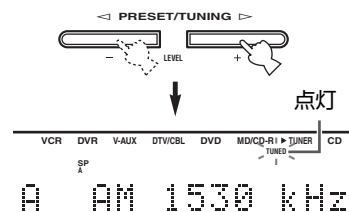
① **本体のFM/AMキーを押して、FMまたはAMを選ぶ。**

② **本体のTUNING MODE（AUTO/MAN'L）キーを繰り返し押して、フロントパネルディスプレイのAUTOインジケーターを消す。**

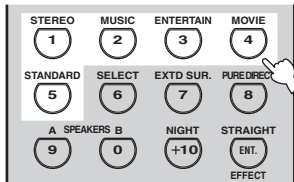
「：」（コロン）がフロントパネルディスプレイに表示されている場合は、選局することはできません。PRESET/TUNING（EDIT）キーを押してコロンを消灯させてください。

③ **本体のPRESET/TUNING ◁／▷キーを押して、放送局の周波数に合わせる。**

放送局を受信すると、TUNEDインジケーターが点灯します。

ヒント

- 受信感度が最良になるように、本機に接続したFM／AMアンテナの向きや位置を調節してください。
- お好みの放送局を登録（プリセット）しておくと、聴きたい放送局を簡単に呼び出せます（☞71 ～73 ページ）。

5 音場プログラムを選ぶ。

お好みの音場プログラムを選んで、臨場感をお楽しみください。リモコンの**音場プログラムキー**を押すか、本体の**PROGRAM セレクター**を回してお好みの音場プログラムを選びます。

リモコン

本体

おすすめの音場プログラム

以下は音楽を聴くときにおすすめの音場プログラムです。なお、それぞれの音場の特徴については、「音場プログラムについて」（☞59 ページ～）をご覧ください。

音楽を聴くときには…

STEREO 1

STEREO
- 2ch Stereo
- 7ch Stereo

MUSIC 2

MUSIC
- Hall in Vienna
- The Bttm Line
- The Roxy Thtr

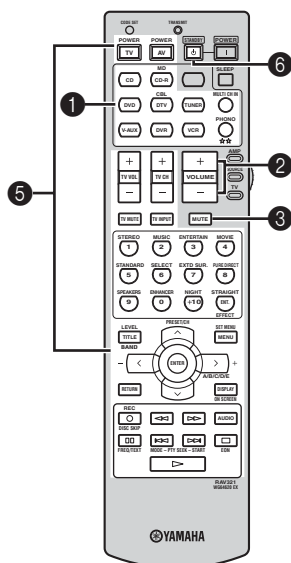
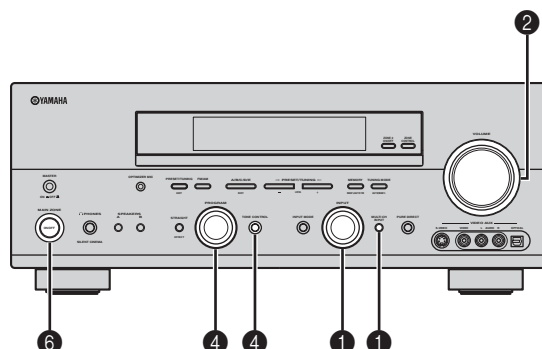
ENTERTAIN 3

ENTERTAINMENT
- Disco

PURE DIRECT 8

Pure Direct

こんな操作をしたいときには…

リモコンの操作

本体の操作

DVD プレーヤー以外の機器を再生するときは（❶）

リモコンの入力選択キーを押すか、本体のINPUTセレクターを回して、再生する機器を選びます。
例えば、本機背面のCD端子に接続したCDプレーヤーを再生したい場合は、CDキーを押すか、INPUTセレクターを回して、CDを選びます。
本機の入力がCDに切り替わり、CDプレーヤーの再生を楽しめます。
本機背面のMULTI CH INPUT端子に接続した機器を再生したい場合は、MULTI CH INキーまたはMULTI CH INPUTキーを押します。

音の大きさを調節したいときは（❷）

リモコンのVOLUME＋／－キーを押すか、本体のVOLUMEコントロールを回して、音の大きさを調節します。

一時的に音量を下げたいときは（❸）

リモコンのMUTEキーを押します。フロントパネルディスプレイに「MUTE ON」と表示され、MUTEインジケーターが点滅します。
もとの音量に戻したいときは、もう1度MUTEキーを押します。

ヒント

- VOLUME操作でミュートを解除することもできます。
- セットメニュー「AUDIO SET」の「MUTING TYPE」で、下げる音量を選ぶことができます（☞85ページ）。

ご注意

一時的に音量を下げているときに入力ソースや音場プログラムを変更すると、もとの音量に戻ります。

音色を調節したいときは（❹）

フロントL／Rスピーカーまたはヘッドホン（接続時のみ）の音色を調節できます。
本体のTONE CONTROLキーを繰り返し押して、調節する音域、「BASS」（低音域）または「TREBLE」（高音域）を選びます。音域を選んだら、PROGRAMセレクターを回して音色を調節します。

ヒント

ヘッドホン接続時は、ヘッドホン用に独立して、音色を調節することができます。

ご注意

- 音色を極端に調節した場合、ほかのスピーカーとの音のつながりが悪くなることがあります。
- ピュアダイレクトモード（☞67ページ）で再生しているときや、MULTI CH INPUT端子に入力されている信号を再生しているとき（☞56ページ）は、音色を調節できません。

本機のリモコンで他の機器を操作したいときは（❺）

リモコンコードを設定すると、本機のリモコンで他の機器を操作することができます。詳しくは「リモコンで操作する機器を設定する」（☞96ページ）をご覧ください。

本機の使用を終了するときは（❻）

リモコンのSTANDBYキー、または本体のMAIN ZONE ON/OFFスイッチを押して、本機をスタンバイにします。

音場プログラムガイド ― なにを再生しますか？

本機でお楽しみいただける音場プログラムをご紹介します。下の表中にあるリモコンキーを押すと、音場プログラムを選択できます。見たい／ 聴きたいものに合わせて音場プログラムを選び、再生してみましょう。

見たい／聴きたいものは？		キー	この音場プログラムがおすすめです	
映画を見る	壮大なファンタジー映画には	MOVIE 4	MOVIE THEATER Spectacle	70mm映画の大画面のスペクタクルな音場
	最新の SFX 映画には		MOVIE THEATER Sci-Fi	最新のSFX映画をクールに楽しめる音場
	大迫力のアドベンチャー映画には		MOVIE THEATER Adventure	アドベンチャー映画を大迫力で楽しめる音場
	ラブロマンスやコメディには		MOVIE THEATER General	情緒的な映画を柔かく再現する音場
	映画館の迫力をお部屋で再現するには	STANDARD 5	SUR. STANDARD	ドルビーデジタル、DTS、AAC信号を忠実に再現
			SUR. ENHANCED	ドルビーデジタル、DTS、AAC信号に音場効果を与える
		SELECT 6 *	PRO LOGIC IIx PLIIx Movie	2チャンネル音声を仮想的にマルチチャンネル化して再生
			PRO LOGIC II PLII Movie	
			DTS Neo:6 Cinema	
	懐かしのモノラル映画には	ENTERTAIN 3	ENTERTAINMENT Mono Movie	往年のモノラル映画を自然に再生する音場
スポーツ／ドラマを見る	白熱のスポーツ中継やドラマには	ENTERTAIN 3	ENTERTAINMENT TV Sports	バラエティやスポーツ中継番組に適用範囲の広い音場
ライブ映像を見る	ビッグエンターテイナーのステージには	MUSIC 2	MUSIC Pop/Rock	ロック、ジャズなどのライブコンサートを再現する音場
音楽を聴く	華麗なクラシックコンサートには	MUSIC 2	MUSIC Hall in Vienna	響きが豊かな古典的な中ホールの音場
	雰囲気のあるジャズライブには		MUSIC The Bttm Line	ニューヨークで話題のライブハウス「ザ・ボトム・ライン」の音場
	熱気あふれるロックコンサートには		MUSIC The Roxy Thtr	ロサンゼルスのホットなロックライブハウスの音場
	ステレオ音声を楽しむには	STEREO 1	STEREO 2ch Stereo	ステレオ音声で再生
		PURE DIRECT 8	PURE DIRECT	アナログ信号、PCM信号を原音に忠実な高音質ステレオ音声で再生
	楽しいホームパーティを演出するには	ENTERTAIN 3	ENTERTAINMENT Disco	ホットなディスコの雰囲気を再現する音場
		STEREO 1	STEREO 7ch Stereo	広いエリアで音楽を楽しめる音場
ゲームをする	ゲームの世界に浸るには	ENTERTAIN 3	ENTERTAINMENT Game	TVゲームの軽快なノリをさらに加速させる、痛快なテンポの音場
		SELECT 6 *	PRO LOGIC IIx PLIIx Game	サラウンド感に包まれる大迫力の音場
			PRO LOGIC II PLII Game	

* STANDARDキーを押してSUR. STANDARDを選んだあとにSELECTキーを押して、お好みの音場プログラムを選びます（SELECTキーを押しただけでは切り替わりません）。詳しくは、55 ページをご覧ください。

ヒント

- 音場プログラムの名前や説明にこだわらず、最も心地よく聞こえる音場プログラムをお選びください。
- 音場プログラムの詳しい解説については、「音場プログラムについて」（☞59 ページ～）をご覧ください。

サラウンド再生を楽しむ

ドルビーデジタルやDTSなどのマルチチャンネルソフトや、CDやビデオテープなどの２チャンネルのソフトを、臨場感たっぷりに再生します。

ドルビーデジタル／DTSソフトを再生する

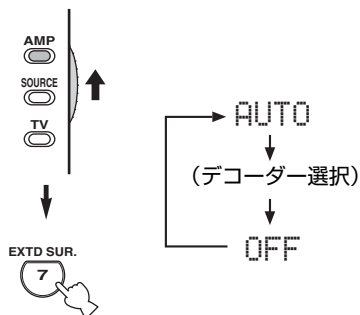
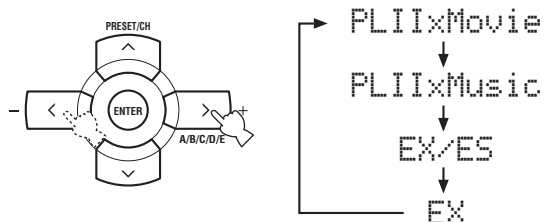
■ 5.1チャンネルを再生する

ドルビーデジタル、DTS、AAC信号が入力されると、本機は自動的にそれらの信号フォーマットに適したデコーダーおよび音場プログラムを選んで再生します（☞59ページ〜）。

■ 6.1または7.1チャンネルで再生する

ドルビーデジタルEXやDTS-ESなど、サラウンドL／Rチャンネルを含むソースは、サラウンドバックスピーカーの音声を加えて、6.1／7.1チャンネルで再生することができます。6.1／7.1チャンネルで再生することで、よりダイナミックでリアルな音声を楽しむことができます。

リモコンの操作機器選択スイッチをスライドさせてアンプモードを選び、EXTD SUR.キーを繰り返し押して、再生モードを切り替えます。

EXTD SUR.キーを押すごとに、下記のように切り替わります。

上記の「（デコーダー選択）」の状態で、リモコンの〈または〉キーを押すと、6.1/7.1チャンネル再生で使うデコーダーを選ぶことができます。

AUTO：本機が確認できる信号（フラグ）が記録されているソースが入力されると、信号に応じて最適なデコーダーを自動的に選び、6.1/7.1チャンネルで再生します。
本機がフラグを認識できない、またはソース自体にフラグが記録されていない場合は、6.1/7.1チャンネルで再生されません。

PLIIxMovie：プロロジックIIx（映画用）デコーダーにより、ドルビーデジタル、DTS、AACを7.1チャンネルで再生します。

PLIIx Music：プロロジックIIx（音楽用）デコーダーにより、ドルビーデジタル、DTS、AACを6.1/7.1チャンネルで再生します。

EX/ES：ドルビーデジタルEXデコーダーにより、ドルビーデジタルおよびAACを6.1/7.1チャンネルで再生します。
またDTS-ESデコーダーにより、DTSを6.1/7.1チャンネルで再生します。

EX：ドルビーデジタルEXデコーダーにより、ドルビーデジタル、DTS、AACを6.1/7.1チャンネルで再生します。

OFF：6.1/7.1チャンネルでの再生はしません。
5.1チャンネルで再生されます。

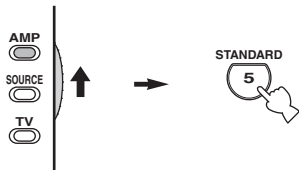
ご注意

- 6.1チャンネル対応ソフトのなかには、本機が自動的に判別できない信号を含むものがあります。このようなソフトを再生する場合は、デコーダー（PLIIx Movie、PLIIx Music、EX／ES、EX）を手動で選択してください。
- 以下の場合は、EXTD SUR.キーを押しても、6.1/7.1チャンネルで再生されません。
  - セットメニュー「SPEAKER SET」の「SUR. L/R SP」または「SUR. B L/R SP」を「NONE」に設定しているとき（☞78、79ページ）。
  - MULTI CH INPUT端子に接続したソースを再生しているとき。（☞56ページ）
  - サラウンドL／R成分のないソース（2チャンネルのPCM、アナログ信号など）を再生しているとき。
  - 2ch Stereo、ピュアダイレクトモードを音場プログラムとして選んでいるとき（☞67ページ）。
  - ヘッドホンを接続しているとき。
- 本機をスタンバイにすると、再生モードは自動的に「AUTO」になります。

- セットメニュー「SPEAKER SET」の「SUR. B L/R SP」が「NONE」に設定されているときはドルビープロロジックIIxデコーダーは作動しません。また、「LRGx1」または「SMLx1」に設定されているときはPL II xMovieは選択できません（☞79ページ）。

2チャンネルソースをマルチチャンネルで楽しむ

ドルビープロロジック、ドルビープロロジックII、ドルビープロロジックIIx、またはDTS Neo:6デコーダーを選ぶと、2チャンネルソースをマルチチャンネル化してお楽しみいただけます。

リモコンの操作機器選択スイッチをスライドさせてアンプモードを選び、STANDARDキーを繰り返し押して、SUR. STANDARDまたはSUR. ENHANCEDを選びます。

または、リモコンのMOVIEキーを押してMOVIE THEATERプログラムを選びます。

次に、リモコンのSELECTキーを繰り返し押してデコーダーを選びます。

一度SELECTキーを押したあとは、リモコンの＜／＞キーを使って選ぶこともできます。

SUR. STANDARDを選んだ場合

SUR. ENHANCEDまたはMOVIE THEATERプログラムを選んだ場合

ご注意

セットメニュー「SPEAKER SET」の「SUR. B L/R SP」を「NONE」に設定しているときは、プロロジックIIxデコーダーは使えません（☞79ページ）。

マルチチャンネル入力の音声を聴く

本機のMULTI CH INPUT端子に接続した機器の音声を直接選ぶことができます。DVDやスーパーオーディオCDなどの高音質な音声を楽しむことができます。

リモコンのMULTI CH INキーまたは本体のMULTI CH INPUTキーを押します。

フロントパネルディスプレイに「MULTI CH INPUT」と表示されます。

ご注意

フロントパネルディスプレイに「MULTI CH INPUT」と表示されているときは、MULTI CH INPUT以外の入力は再生されません。ほかの入力を選ぶときは、もう1度リモコンのMULTI CH INキー（または本体のMULTI CH INPUTキー）を押して、フロントパネルディスプレイの「MULTI CH INPUT」表示を消してから、リモコンの入力選択ボタン（または本体のINPUTセレクター）で再生したい入力を選んでください。

ヘッドホンで音場プログラムを楽しむ（サイレントシネマ）

音場効果が入っている状態で、ヘッドホンを本体のPHONES端子に接続すると、サイレントシネマモードで再生を楽しめます。

サイレントシネマモードでは、マルチスピーカーによる音場プログラムの効果を、ヘッドホンで擬似的に再現します。サイレントシネマモードで再生している間は、フロントパネルディスプレイのSILENT CINEMAインジケーターが点灯します。

ご注意

- サイレントシネマモードで再生中に、本機フロントパネルのV-AUX端子に外部機器を接続する場合は、必ず音量を下げてから接続してください。
- 以下の場合は、ヘッドホンを接続しても、サイレントシネマモードには切り替わりません。

－MULTI CH INPUT端子を入力として選んでいるとき
－2ch Stereo、7ch Stereo、ピュアダイレクトモードを音場プログラムとして選んでいるとき（☞67ページ）
－STRAIGHT／EFFECTキーを押して、音場効果をかけないで再生しているとき（☞70ページ）

サラウンドL／Rスピーカーなしで音場プログラムを楽しむ（バーチャルシネマDSP）

サラウンドL／Rスピーカーがない場合でも、バーチャルシネマDSPモードにより、臨場感あふれる再生を楽しめます。
セットメニュー「SPEAKER SET」の「SUR. L/R SP」を「NONE」に設定すると、バーチャルシネマDSPモードで再生を楽しめます(☞78 ページ)。

バーチャルシネマDSPモードでは、入力ソースの音声に、選んだ音場プログラムの音場効果を付加して、フロントL／Rスピーカー、センタースピーカーとサブウーファーから出力します。バーチャルシネマDSPモードで再生している間は、フロントパネルディスプレイのVIRTUALインジケーターが点灯します。

ご注意

以下の場合は、セットメニュー「SPEAKER SET」の「SUR. L/R SP」を「NONE」に設定しても、バーチャルシネマDSPモードには切り替わりません。
－MULTI CH INPUT端子を入力として選んでいるとき（☞56 ページ）
－2ch Stereo、7ch Stereo、ピュアダイレクトモードを音場プログラムとして選んでいるとき（☞67 ページ）
－SUR. STANDARDを音場プログラムとして選んでいるとき（☞55 ページ）
－STRAIGHT／EFFECTキーを押して、音場効果をかけないで再生しているとき（☞70 ページ）
－ヘッドホンを接続しているとき

いろいろな再生のしかた

音場とは？

「その空間が持つ特有の音の響き」を音場と呼んでいます。コンサートホールなどで、私達は、楽器の音や歌手の声が直接聴こえてくる「直接音」のほかに、床や壁・天井などに１回反射してから聴こえてくる「初期反射音」、さらに何回も反射を繰り返しながら次第に減衰してゆく「後部残響音」を聴くことになります。建物内部の形状や広さ、それに内装材料の種類等によって、初期反射音や残響音の構成が異なり、そのホール特有の響きが生まれます。それが「音場」です。

ヤマハでは、世界の著名なコンサートホールやオペラハウスなどで、反射音の方向・強さ・帯域特性・遅延時間等の音場情報を実際に測定し、その膨大なデータを蓄積しています。本機では、この音場測定の実測データを基に作成された音場プログラムを自由に選択し、著名ホールやライブハウスなどの音場をリスニングルームで再現することができます。

音場を構成する要素

■ 直接音

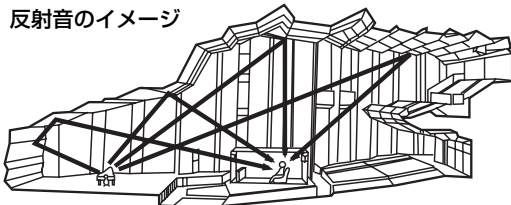
楽器やボーカルなどの、音源からどこにも反射することなく、直接リスナーの耳に届く音です。

■ 初期反射音

壁や天井などに１回反射してからリスナーの耳に到達する音です。初期反射音は直接音が発生してから50ms から80ms くらい後に耳に届きます。初期反射音により、直接音に明瞭さが付加されます。

■ 後部残響音

壁や天井、部屋の後部などに２回以上反射を繰り返しながら、多数の反響音がひとまとめになり、連続した音響の余韻となる音です。これらの反射音は方向性がなく、直接音の鮮明さを劣化させます。

反射音のイメージ

直接音、初期反射音、後部残響音が１つになることで、リスナーは演奏会場や劇場をイメージすることができます。デジタル音場プロセッサーはこの反射音、残響音を再現することで、音場を作り出します。

また、リスニングルームにおいて適切な反射音や後部残響音を再現できれば、独自のリスニング音場を作り出すことができます。つまりリスニングルームの音響効果をコンサートホール、ダンスフロア、大聖堂など、さまざまな演奏会場や劇場の音響効果に変えることができるのです。意のままに音場を再現する能力こそ、デジタル音場プロセッサーを通じてヤマハがこれまでに実践してきたことです。

音場の種類

本機が作り出す音場は大きく分けて以下の３つです。

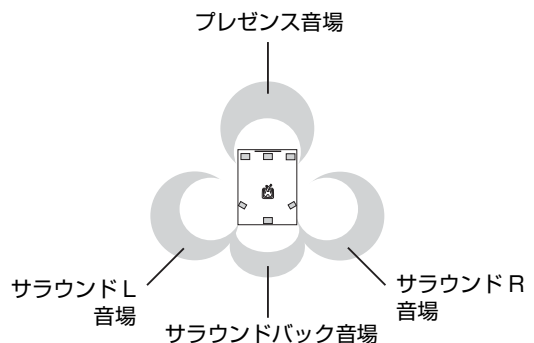
■ プレゼンス音場

前方に広がる音場です。

■ サラウンド音場

後方に広がる音場です。

■ サラウンドバック音場

後方中央につくりだされる音場です。

音場プログラムについて

本機には、音楽に最適なHiFi DSP音場プログラム、映画に最適なCINEMA DSP音場プログラム、元の音を忠実にデコードして再現するノーマルサラウンドプログラムが搭載されています。

音場プログラムによって設定の手順は違います。詳しくは下記をご覧ください。
−「基本的な再生のしかた」の手順９（☞48 ページ）
−「ドルビーデジタル／DTSソフトを再生する」（☞54 ページ）
−「２チャンネルソースをマルチチャンネルで楽しむ」（☞55 ページ）
−「サラウンドL／Rスピーカーなしで音場プログラムを楽しむ」（☞57 ページ）
−「ステレオ再生する」（☞67 ページ）
−「高音質でステレオ再生する」（☞67 ページ）
−「夜間に小音量で音声を楽しむ」（☞68 ページ）
−「音場効果をかけずに再生する」（☞70 ページ）

ご注意

- 本機の音場プログラムは、世界各地の実在のホールなどの音響特性を測定した結果に基づいて設計されています。そのため、前後左右で響きの強さや音量差が異なると感じられる場合がありますが、故障ではありません。
- 音場プログラムの名前や説明にこだわらず、最も心地よく聞こえる音場プログラムをお選びください。

HiFi DSP音場プログラム

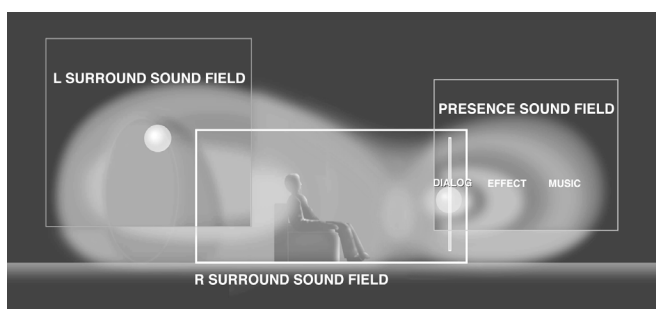
CDなどのステレオ音楽の再生に最適なプログラムです。入力信号に応じて各種デコーダーが使用されます。

キー	プログラム	サブプログラム	特徴
STEREO 1	ステレオ STEREO	チャンネル ステレオ 2ch Stereo	前方からのステレオ音声が楽しめる、基本的な音場です。
		チャンネル ステレオ 7ch Stereo	後方からも直接音が聴け、広いエリアで楽しめる効果が特徴の音場プログラムです。ホームパーティーのBGMに最適です。セットメニューの設定により、最大７つのスピーカーから音が出力されます。
MUSIC 2	ミュージック MUSIC	ホール イン ビエナ Hall in Vienna	1700席程度のウィーンの伝統的なシューボックス型の中規模コンサートホールです。周囲の柱や彫刻により、全方向からの複雑な反射音を生み出しています。豊かな響きが特長です。
		ザ ボトム ライン The Buttom Line	ニューヨークで話題のライブハウス「ザ・ボトム・ライン」のステージ正面の音場です。フロアは300席ある左右に幅広い客席で占められ、リアルでライブな音場です。
		ザ ロキシー シアター The Roxy Thtr	ロサンゼルスにあるロック系ライブハウスで、客席は最高時で約460席程度です。客席中央左寄りの音場です。
ENTERTAIN 3	エンターテイメント ENTERTAINMENT	ディスコ Disco	ディスコミュージックに包まれる、ノリの良い音場空間を演出するプログラムです。

CINEMA DSP音場プログラム

映画製作者の意図するサウンドは、セリフは明瞭にスクリーン上に定位し、効果音はその奥に、音楽はさらにその奥に拡がり、そしてサラウンドは視聴者を取り囲んでスクリーンの映像と一体になるようにデザインされています。

ヤマハDSPをAV再生用に進化させたプログラムが「CINEMA DSP音場プログラム」です。映画サラウンドデコーダーであるドルビープロロジック、ドルビーデジタルやDTS、またBS／地上波デジタル放送の音声フォーマットであるAACなどの各デコーダーとヤマハDSPを融合し、映画のサウンドを最良の状態でデザインするダビングステージ（最終的な映画のサウンドデザインを完成させるファイナルミックス）でのクオリティをAVルームに再現するサラウンド音場です。

CINEMA DSP音場プログラムでは、フロントL／センター／フロントRチャンネルにもヤマハDSP処理を加えることで、視聴者はセリフの実在感や効果音、音楽の奥行き感とともに、スムーズな音源の移動感とスクリーンまで回り込むサラウンド音場に包まれます。

- 入力信号に応じて、各デコーダーおよび方向性強調回路が使用されます。
- センタースピーカーを使用した場合は、良好なセンター定位が得られます。
- フロントL／Rスピーカーも方向性強調に信号処理された出力になります。
- プレゼンス音場処理によって画面奥行きへの音場表現が得られます。さらに、サラウンド音場処理によってスケールの大きなサラウンド感が得られます。
- 入力モードが「AUTO」に設定されている場合、MOVIE THEATERプログラムとSUR. ENHANCEDプログラムでは、ドルビーデジタル、DTSまたはAAC信号が入力されると、音場プログラムは自動的にドルビーデジタル再生用音場、DTS再生用音場またはAAC再生用音場に切り替わります。

キー	プログラム	サブプログラム	特徴
MUSIC 2	ミュージック MUSIC	ロック　ポップ Rock ／ Pop	ロック、ジャズ等のライブコンサート会場のイメージです。サラウンド音場に広いホールのデータを使用しているため、間接音成分が豊かに回り込み、スクリーン周囲への映像空間、音場空間がいっぱいに拡がり、熱狂的な雰囲気にひたれます。
ENTERTAIN 3	エンターテイメント ENTERTAINMENT	モノ　ムービー Mono Movie	古いモノラル名作映画専用のポジションです。オペラハウス系のプレゼンス音場と適度な残響処理により、往年の名作映画のモノラル音声が臨場感を持って再生されます。
		ゲーム Game	モノラル、ステレオを問わず、ゲームサウンドにビビッドな奥行きとサラウンド感を与え、迫力と臨場感のあるゲームが楽しめます。
		スポーツ TV Sports	プレゼンス音場は狭めてありますが、サラウンド音場にはコンサートホールのデータを使用しており、様々なバラエティや中継番組に、適用範囲の広い音場効果を再現。スポーツ中継のステレオ放送では、解説者は中央に定位し、歓声や場内の雰囲気は周囲へと拡がります。後方回り込みは適度に抑えてあるので、長時間使用しても違和感がありません。

キー	プログラム	サブプログラム	特徴
MOVIE 4	ムービー　シアター MOVIE THEATER	スペクタクル Spectacle	70mm 映画の大画面シアターそのものの超ワイドな空間に映画の空気がそのまま存在するようなスペクタクルな音場です。微妙な音の響きまでも再現する表現力をもち、映像と空間に今までにないリアリティを生み出します。70mm 映画初期の作品から最新のドルビーデジタルソフトや DTS ソフトまで、幅広くスペクタクルな世界が楽しめます。
		サイファイ Sci-Fi	最新の SFX 映画のサウンドデザインをセリフと音楽効果音にクールに描き分け、静けさの中に広大なシネマ空間を演出します。高度なテクニックを駆使したドルビーステレオ、ドルビーデジタル、DTS ソフトまで、サイエンス・フィクションの世界を仮想空間音場で楽しめます。
		アドベンチャー Adventure	最新の映画サウンドデザインを最高に再現するプログラムです。70mm ／ドルビーデジタル、DTS および AAC マルチトラックにデザインされた演出を忠実に再現するとともに音場プログラム自体の響きをできるだけ抑え、響きをデッドにした最新の映画館とコンセプトを同じにしています。プレゼンス音場に、オペラハウス音場データを使用。会話の定位、立体感に優れています。サラウンド音場にはコンサートホールのデータを使用、力強い響きとともにアクション、アドベンチャーなどのデザインされたサウンドを明確に再現し、痛快な臨場感をもたらします。
		ジェネラル General	70mm ／ドルビーデジタル、DTS および AAC マルチトラックのサウンドを再現するプログラムで、全体に柔らかい拡がり感のある響きが特長です。プレゼンス音場はやや狭い印象で、セリフの響きを抑え明瞭度を損なわずにスクリーン周囲とスクリーンの奥に立体的に再現されます。サラウンド音場は後方の広い空間に音楽やコーラス等のハーモニーが美しく響く印象です。
STANDARD 5	サラウンド　エンハンスト SUR. ENHANCED		ドルビーサラウンド、DTS サラウンドまたは AAC サラウンドのオリジナル定位を乱すことなく、正確なデコード動作と DSP 処理を行います。35mm 映画館のマルチサウンドスピーカーを、より理想的なものへシミュレーションした音場です。サラウンド音場は、視聴者を左右後方から美しい響きで包み込みます。

ノーマルサラウンドプログラム

音場効果をかけずに元の音で再生したい場合は、下記のノーマルサラウンドプログラムを選んでください。

本機には下記のデコーダーが搭載されています。
- マルチチャンネルソース用のドルビーデジタル、DTS、AAC デコーダー
- サラウンドバックチャンネル音声再生用のドルビーデジタル EX、ドルビープロロジック IIx、DTS-ES デコーダー
- 96kHz ／ 24bit の高音質再生用の DTS 96 ／ 24 デコーダー
- ドルビーサラウンドと２チャンネルソース用のドルビープロロジック、ドルビープロロジック II、ドルビープロロジック IIx、DTS Neo:6 デコーダー

キー	プログラム	サブプログラム	特徴
STANDARD 5	SUR. STANDARD DOLBY DIGITAL		ドルビーデジタル、DTS、AAC で処理されたソースの再生用です。セパレーションに優れ、安定したデコードが得られます。
	SUR. STANDARD DTS		
	SUR. STANDARD AAC		
SELECT 6 ＊	SUR. STANDARD PRO LOGIC		２チャンネル音声をそれぞれの方式でマルチチャンネル化して再生します。
	SUR. STANDARD PLII Movie		
	SUR. STANDARD PLII Music		
	SUR. STANDARD PLII Game		
	SUR. STANDARD PLIIx Movie		
	SUR. STANDARD PLIIx Music		
	SUR. STANDARD PLIIx Game		
	SUR. STANDARD Neo:6 Cinema		
	SUR. STANDARD Neo:6 Music		

＊ STANDARD キーを押して SUR. STANDARD を選んだあとに SELECT キーを押して、お好みのデコードプログラムを選びます（SELECT キーを押しただけでは切り替わりません）。詳しくは「ドルビーデジタル／ DTS ソフトを再生する」（☞54 ページ）および「２チャンネルソースをマルチチャンネルで楽しむ」（☞55 ページ）をご覧ください。

入力信号別音場プログラム名一覧

ノーマルサラウンドプログラムおよびSUR. ENHANCEDプログラムは、本機に入力されている信号の種類と、デコーダーの動作により名前が変わります。

<table>
<tr><th>プログラム／入力信号</th><th>ノーマルサラウンドプログラム</th><th>SUR. ENHANCED プログラム</th></tr>
<tr><td>アナログ
PCM
ドルビーデジタル（2ch）
DTS（2ch）
AAC（2ch）</td><td>SUR. STANDARD／PRO LOGIC
SUR. STANDARD／PLII Movie
SUR. STANDARD／PLII Music
SUR. STANDARD／PLII Game
SUR. STANDARD／PLIIx Movie
SUR. STANDARD／PLIIx Music
SUR. STANDARD／PLIIx Game
SUR. STANDARD／Neo:6 Cinema
SUR. STANDARD／Neo:6 Music</td><td rowspan="4">SUR. ENHANCED／PRO LOGIC
SUR. ENHANCED／PLII Movie
SUR. ENHANCED／PLIIx Movie
SUR. ENHANCED／Neo:6 Cinema</td></tr>
<tr><td>ドルビーデジタル</td><td>SUR. STANDARD／DOLBY DIGITAL
SUR. STANDARD／DDD + PLIIx Movie*1
SUR. STANDARD／DDD + PLIIx Music*2
SUR. STANDARD／DOLBY D EX*3</td></tr>
<tr><td>DTS</td><td>SUR. STANDARD／DTS
SUR. STANDARD／DTS + PLIIx Movie*1
SUR. STANDARD／DTS + PLIIx Music*2
SUR. STANDARD／DTS + DOLBY EX*3
SUR. STANDARD／DTS-ES*4*5
SUR. STANDARD／DTS 96／24 *6</td></tr>
<tr><td>AAC</td><td>SUR. STANDARD／AAC
SUR. STANDARD／AAC + PLIIx Movie*1
SUR. STANDARD／AAC + PLIIx Music*2
SUR. STANDARD／AAC + DOLBY EX*3</td></tr>
</table>

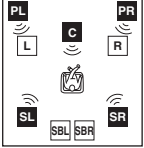
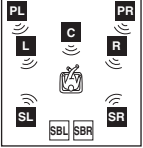
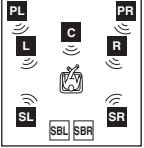
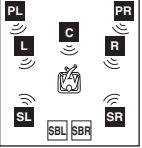
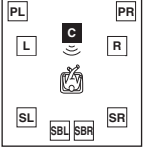
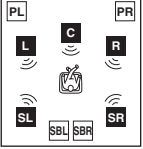
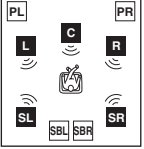
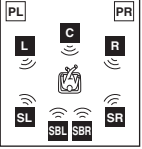
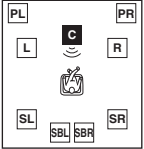
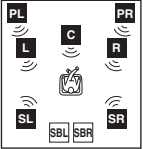
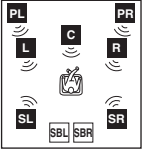
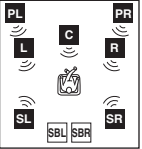
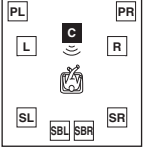
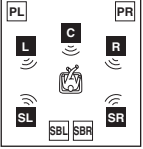
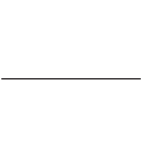
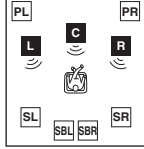
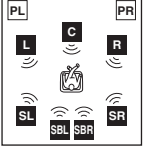
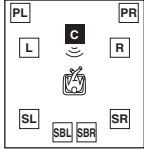
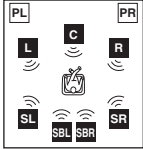
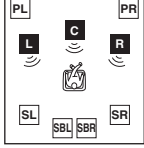
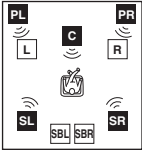
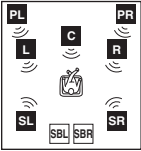
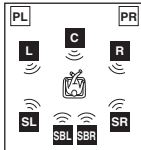
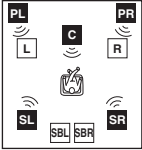
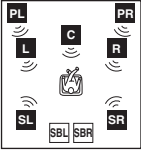
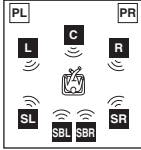
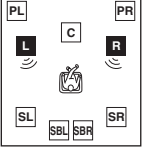
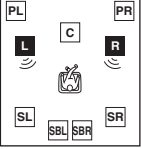
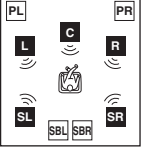
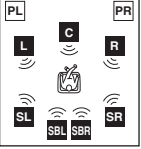
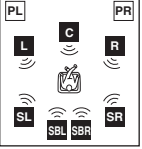
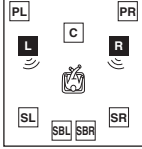
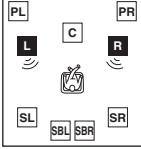
*1 ドルビープロロジックIIxデコーダー（Movieモード）動作時（DDPLIIx 点灯時）
*2 ドルビープロロジックIIxデコーダー（Musicモード）動作時（DDPLIIx 点灯時）
*3 ドルビーデジタルEXデコーダー動作時（DD EX 点灯時）
*4 DTS-ESマトリクスデコーダー動作時（MATRIXインジケーター点灯時）
*5 DTS-ESディスクリートデコーダー動作時（DISCRETEインジケーター点灯時）
*6 DTS 96／24デコーダー動作時（96/24 点灯時）

入力信号と再生スピーカー対応表

入力信号の種類によって、下図で示されたスピーカーから音声が出力されます。

ご注意

再生するソースによっては、スピーカーから音が出ない場合や、小さい音しか出ない場合もあります。映画の効果音など、シーンに合わせて部分的にしか使われないチャンネルもあります。

表中のイラストは以下の内容を示しています。

L： フロント L スピーカー
C： センタースピーカー
R： フロント R スピーカー
PL： プレゼンス L スピーカー
PR： プレゼンス R スピーカー
SL： サラウンド L スピーカー
SR： サラウンド R スピーカー
SBL： サラウンドバック L スピーカー
SBR： サラウンドバック R スピーカー
■： 音が出ているスピーカー
□： 音が出ていないスピーカー

音場プログラム	2 チャンネル音声（モノラル）	2 チャンネル音声（ステレオ）	5.1/6.1 チャンネル音声（DDEX/DDPLIIx/ES インジケーター消灯時）	5.1/6.1 チャンネル音声（DDEX/DDPLIIx/ES インジケーター点灯時）PRIORITY：PRch に設定	PRIORITY：SBch に設定
STEREO 2ch Stereo	モノラル再生				
STEREO 7ch Stereo サラウンドバックスピーカー接続時					
サラウンドバックスピーカー未接続時			—	—	—
MUSIC Hall in Vienna The Bttm Line The Roxy Thtr ENTERTAINMENT Disco					

音場プログラム	2 チャンネル音声 （モノラル）	2 チャンネル音声 （ステレオ）	5.1/6.1 チャンネル音声 (DDEX/DDPLIIx/ES インジケーター消灯時)	5.1/6.1 チャンネル音声 (DDEX/DDPLIIx/ES インジケーター点灯時) PRIORITY： PRch に設定	PRIORITY： SBch に設定
MUSIC Pop/Rock ENTERTAINMENT TV Sports、 Mono Moive,Game MOVIE THEATER Spectacle、Sci-Fi、 Adventure、General					
SUR. STANDARD DOLBY DIGITAL PRO LOGIC DTS AAC	PRO LOGIC	PRO LOGIC			
SUR. ENHANCED DOLBY DIGITAL PRO LOGIC DTS AAC	PRO LOGIC	PRO LOGIC			
SUR. STANDARD PLII Movie PLII Music PLII Game PLIIx Movie PLIIx Music PLIIx Game	Movie/Game Music	PRO LOGIC II PRO LOGIC IIx	―	―	―
SUR. STANDARD Neo:6 Cinema Neo:6 Music	Cinema Music	Cinema／Music	―	―	―

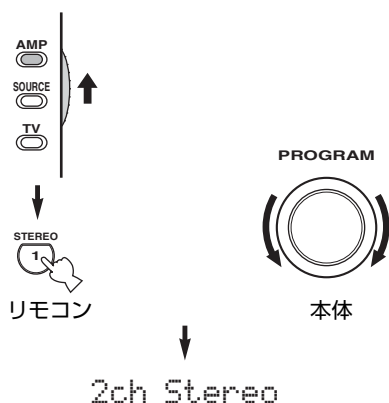
いろいろな再生のしかた

音場プログラム	2 チャンネル音声（モノラル）	2 チャンネル音声（ステレオ）	5.1/6.1 チャンネル音声 (DDEX/DDPLIIx/ES インジケーター消灯時)	5.1/6.1 チャンネル音声 (DDEX/DDPLIIx/ES インジケーター点灯時) PRIORITY：PRch に設定	PRIORITY：SBch に設定
SUR. ENHANCED PLII Movie PLIIx Movie		PRIORITY: PRch PRIORITY: SBch	—	—	—
SUR. ENHANCED Neo:6 Cinema		PRIORITY: PRch PRIORITY: SBch	—	—	—
STRAIGHT	モノラル再生				
Pure Direct	モノラル再生		—	—	—

ステレオ再生を楽しむ

ステレオ再生する（2チャンネルステレオ）

フロントL／Rスピーカーからのみステレオ音声が出力されます。

リモコンの操作機器選択スイッチをスライドさせてアンプモードを選び、STEREOキーを繰り返し押します。
または本体のPROGRAMセレクターを回して、2ch Stereoを選びます。

2チャンネルソースの場合

フロントL／Rスピーカーからステレオ音声で再生します。

マルチチャンネルソースの場合

フロントL／Rチャンネル以外の音声をフロントL／Rチャンネルにミックスして、フロントL／Rスピーカーからステレオ音声で再生します。

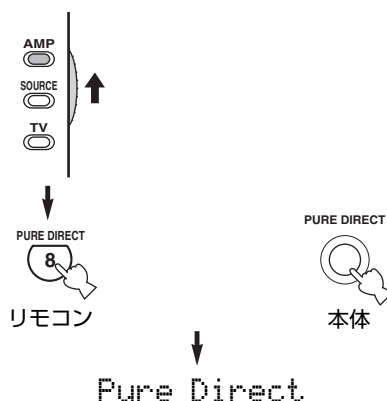
ヒント

- セットメニュー「SPEAKER SET」の「LFE/BASS OUT」で「SWFR」または「BOTH」を選択した場合は、サブウーファーから音声が出力されます（☞79ページ）。
- LFEチャンネルは、セットメニュー「SPEAKER SET」の「LFE/BASS OUT」を「FRNT」に設定した場合のみ、フロントL／Rスピーカーにミックスされます（☞79ページ）。

高音質でステレオ再生する（ピュアダイレクトモード）

デコーダーやDSP回路などをバイパスすることで音声信号に与える影響を減らし、アナログ信号、PCM信号を原音に忠実な高音質ステレオ音声で再生します。

さらに、ビデオ回路を切断することで音声信号に与える影響を減らします。フロントパネルディスプレイは消灯します。

リモコンの操作機器選択スイッチをスライドさせてアンプモードを選び、PURE DIRECTキーを押します。
または本体のPURE DIRECTキーを押します。

ピュアダイレクトモードで再生している間は、本体のPURE DIRECTキーが青色で点灯します。
もう一度PURE DIRECTキーを押すと、ピュアダイレクトモードはオフになります。

ご注意

- ピュアダイレクトモードでDTS-CDを再生しないでください。ノイズが出力されることがあります。
- ドルビーデジタルやDTSなどのマルチチャンネルソースを再生しているときにピュアダイレクトモードに切り替えると、対応するアナログ音声入力端子に入力されている信号を再生します。デジタル接続のみの場合は、音声は出力されません。
- ピュアダイレクトモードで再生中は、サブウーファーから音声は出力されません。ただしMULTI CH INPUT端子のSUBWOOFER端子に信号が入力されている場合は、サブウーファーからも音声が出力されます。
- ピュアダイレクトモードで再生中は、以下の設定が無効になります。
  －音場プログラムの切り替え
  －OSD画面の表示
  －SETUPメニューの各パラメーターの変更
  －すべてのビデオ機能（ビデオコンバージョン機能など）
- ピュアダイレクトモードで再生中は、本体ディスプレイの表示が消灯し、音声信号に与える影響を減らします。入力切り替えや、音量調節などの操作をすると、数秒間だけ点灯します。
- 本機をスタンバイにすると、ピュアダイレクトモードは自動的に解除されます。

夜間に小音量で音声を楽しむ（ナイトリスニングモード）

ナイトリスニングモードを設定すると、小音量でも迫力ある再生を楽しめます。
ナイトリスニングモードでは、セリフなどは明瞭に、大きな効果音は抑えて再生します。
映画用のCINEMAモードと、音楽用のMUSICモードが用意されています。

リモコンの操作機器選択スイッチをスライドさせてアンプモードを選び、NIGHTキーを繰り返し押してモードを選びます。

NIGHT
+10

NIGHT:CINEMA

映画用：大きな効果音を抑え、セリフなどは聴きとりやすくします。

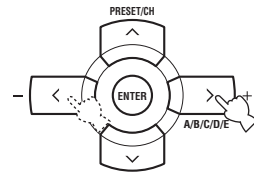
NIGHT:MUSIC

音楽用：音の高低、音色に限らずどんな音も聴きとりやすくします。

NIGHT OFF

OFF：ナイトリスニングモードは機能しません。

ナイトリスニングモードで再生している間は、フロントパネルディスプレイのNIGHTインジケーターが点灯します。

NIGHT：CINEMAまたはNIGHT：MUSICが表示されているあいだに＜または＞キーを押すと、効果レベルを選ぶことができます。

Effect.Lvl:MIN（弱めに抑える）

Effect.Lvl:MID（ほどよく抑える：初期設定）

Effect.Lvl:MAX（強めに抑える）

ヒント

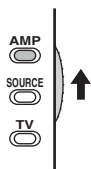
NIGHT：CINEMA（映画用）とNIGHT：MUSIC（音楽用）の効果レベルはそれぞれ別に保存されます。

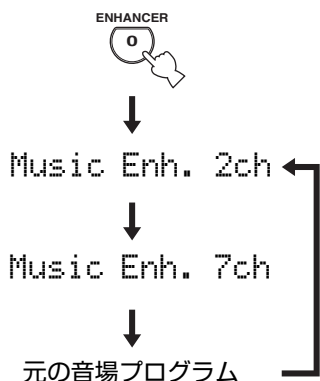
ご注意

- ピュアダイレクトモード（☞67ページ）で再生しているときや、MULTI CH INPUT端子に接続した機器を再生しているとき（☞56ページ）、ヘッドホンを接続しているときは、ナイトリスニングモードで再生できません。（ピュアダイレクトモードのときはナイトリスニングモードは機能しません。）
- 入力ソースやサラウンド音場の設定により、効果に違いが生じる場合があります。

圧縮オーディオをダイナミックに再生する（コンプレストミュージックエンハンサーモード）

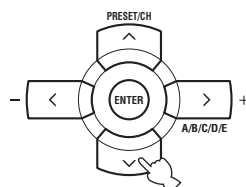
MP3 や AAC などの圧縮オーディオフォーマットは、圧縮される際に高音域がカットされています。コンプレストミュージックエンハンサーモードを設定すると、高音域を拡張するうえに、低音域を強調することによって、圧縮オーディオをダイナミックかつ臨場感たっぷりに再生できます。

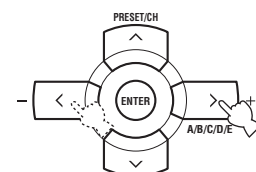
1 リモコンの操作機器選択スイッチをスライドさせてアンプモードを選ぶ。

2 ENHANCER キーを繰り返し押して、モードを選ぶ。

コンプレストミュージックエンハンサーモードで再生します。ENHANCER キーを１回押すと「MUSIC ENHANCER」と表示され、数秒後に選択項目が表示されます。ENHANCER キーを繰り返し押して、サブモードを選択してください。

選択項目： Music Enh. 2ch、Music Enh. 7ch
初期設定： Music Enh. 2ch

Music Enh. 2ch：FRONT L／R スピーカーから、２チャンネルステレオモードで音を出力します。

Music Enh. 7ch：７つのスピーカから、７チャンネルステレオモードで音を出力します。

3 「Music Enh. 2ch」または「Music Enh. 7ch」を選んだ場合は、∨キーを押す。

4 ＜または＞キーを押す。

コンプレストミュージックエンハンサーモードの効果レベルを選ぶことができます。お好みに合わせて切り替えてください。

選択項目： LOW、HIGH
初期設定： LOW

LOW：弱めの効果

HIGH：強めの効果

コンプレストミュージックエンハンサーモードで再生している間は、フロントパネルディスプレイの ENHANCER インジケーターが点灯します。

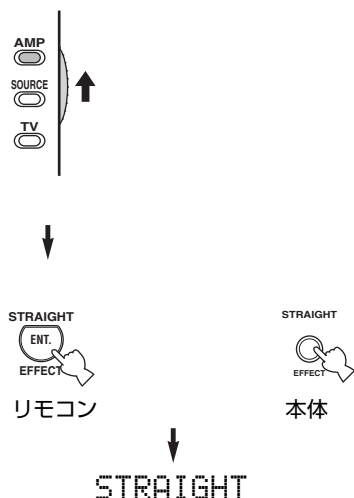
ヒント
- コンプレストミュージックエンハンサーモードは、圧縮オーディオフォーマット以外にも、サンプリング周波数 48kHz 以下の PCM および２チャンネルアナログソースに対応しています。
- 再生するソースにより、高音域が強調されすぎる場合は、効果レベルを「LOW」に設定してください。

ご注意
- コンプレストミュージックエンハンサーモードが対応していないソースを再生中に ENHANCER キーを押すと、「Not Available」と表示されます。
- コンプレストミュージックエンハンサーモードで再生中に、対応していないソースに入力を切り替えると、２チャンネルまたは７チャンネルステレオモードのまま、コンプレストミュージックエンハンサーモードの効果はオフになります。
- コンプレストミュージックエンハンサーモードは音場プログラムと同時に使用できません。

音場効果をかけずに再生する（ストレートデコードモード）

ストレートデコードモードを設定すると、入力された信号を音場効果をかけずにそのまま再生します。

リモコンの操作機器選択スイッチをスライドさせてアンプモードを選び、STRAIGHT／EFFECTキーを押す、または本体のSTRAIGHT／EFFECTキーを押します。

ストレートデコードモードで再生されます。

2チャンネルソースの場合

フロントL／Rスピーカーからステレオ音声で再生します。

マルチチャンネルソースの場合

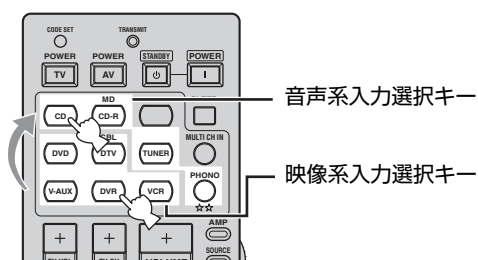
入力信号により、適切なデコーダーでデコードしたあと、マルチチャンネル音声で再生します。

ストレートデコードモードを解除してもとの状態（音場効果をかけた状態）に戻るには、もう一度STRAIGHT／EFFECTキーを押します。

音楽と映像で異なる入力ソースを楽しむ（バックグラウンドビデオ機能）

バックグラウンドビデオ機能とは、映像系入力ソースの映像と、音楽系入力ソースの音声を組み合わせて楽しむ機能です。例えばビデオを見ながら、クラシック音楽を楽しむことができます。

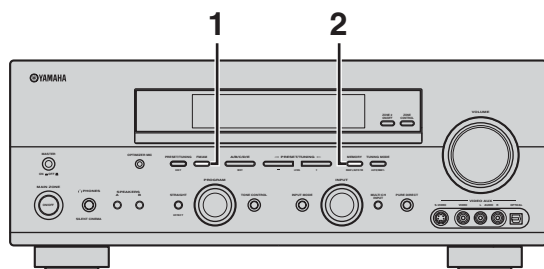
リモコンの入力選択キーで、映像系入力を選んでから、リモコンの入力選択キーで音声系入力を選びます。

ご注意

MULTI CH INPUT端子からの音声入力を映像とともにお楽しみいただくには、映像系入力ソースを選んでから、MULTI CH INキー（または本体のMULTI CH INPUTキー）を押してください。

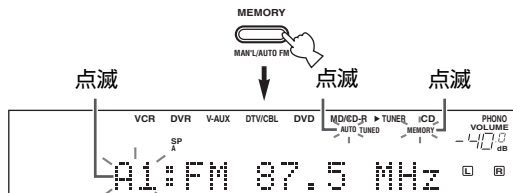
FM／AM放送局を登録する

オートプリセットやマニュアルプリセット機能を使ってFM／AM放送局を登録しておくと、あとで選局するときに便利です。はじめにリモコンのTUNERキーまたは本体のINPUTセレクターで、本機をチューナーモードにしてください。

FM放送局を自動登録する（オートプリセット）

FM放送局を自動的に40局（8局×5グループ、A1～E8）まで登録（プリセット）できます。
放送局を登録しておくと、あとは簡単な操作で選局することができ、便利です。

1 FM/AMキーを押して、FMを選ぶ。

2 MEMORY（MAN'L/AUTO FM）キーを約3秒押し続ける。

プリセット番号とMEMORYインジケーター、AUTOインジケーターが点滅します。数秒後に、周波数の低い方から放送局を探し始め、自動的に登録していきます。

オートプリセットが終了すると、最後に登録された放送局の周波数が表示されます。

ヒント

- 放送局が登録されると、放送局の周波数と受信モード（ステレオ、モノラル）も同時に登録されます。
- FM局の登録を始めるプリセット番号を指定したり、周波数の高い方から低い方へ向けて、自動登録を始めることもできます（右記参照）。
- 登録されたFM放送局の順序を、あとから手動で入れ替えることもできます（☞74ページ）。

ご注意

- 同じプリセット番号に新しい放送局を登録すると、前に登録されていた放送局は消え、新しい放送局に入れ替わります。
- オートプリセットでは、登録する放送局の数が40（A1～E8）に満たない場合には、全周波数帯域を一巡して停止します。
- オートプリセットでは、電波の強いFM放送局だけが登録されます。電波の弱いFM放送局を登録したいときは、手動で放送局を受信したあと、手動で登録してください（☞72ページ）。

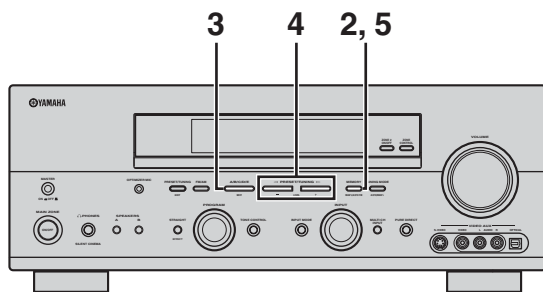
■ 登録を始めるプリセット番号を指定する場合

左に記載の「FM放送局を自動登録する（オートプリセット）」の手順2でMEMORY（MAN'L/AUTO FM）キーを約 3 秒間押したあと、A/B/C/D/E（NEXT）キーとPRESET/TUNING ◁／▷キーを使って、最初に登録するプリセットグループとプリセット番号を選びます。
数秒後に、選んだプリセット番号から登録を始めます。
放送局が40局（A1～E8）すべて登録されると、オートプリセットが停止します。

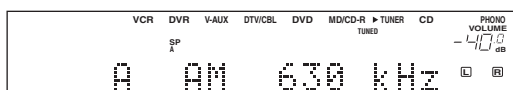
■ 周波数の高い方から低い方に向けて登録する場合

左に記載の「FM放送局を自動登録する（オートプリセット）」の手順2でMEMORY（MAN'L/AUTO FM）キーを約 3 秒間押したあと、PRESET/TUNING（EDIT）キーで「：」（コロン）を消してから、PRESET/TUNING ◁キーを押します。
周波数の高い方から放送局を探し始め、自動的に登録していきます。

手動で登録する（マニュアルプリセット）

放送局を40局（8局×5グループ、A1～E8）まで手動で登録（プリセット）することもできます。

ヒント
AM放送局は手動で登録してください。

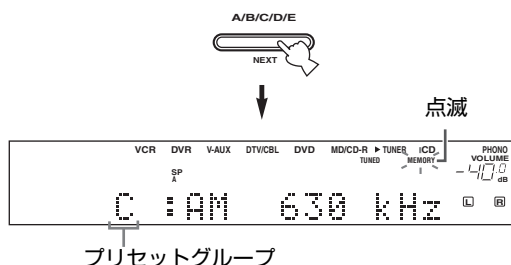
1 プリセットしたい放送局を選局する。

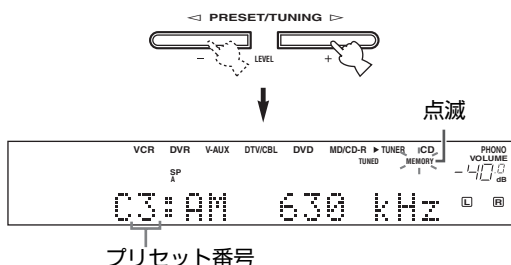
詳しくは、「FM ／ AM 放送を聴く」（☞49 ページ）をご覧ください。

フロントパネルディスプレイに、受信している局の周波数と放送局（FMまたはAM）が表示されます。

2 MEMORY（MAN'L/AUTO FM）キーを押す。

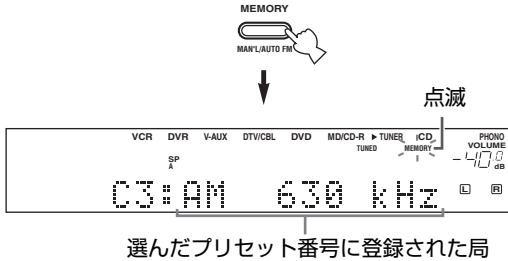
放送局が登録できる状態になります。フロントパネルディスプレイのMEMORYインジケーターが約5秒間点滅します。

3 MEMORYインジケーターの点滅中にA/B/C/D/E（NEXT）キーを押して、プリセットグループ（A～E）を選ぶ。

プリセットグループが表示されます。放送局の表示の横に「：」（コロン）が点灯していることを確認してください。
フロントパネルディスプレイに表示されるプリセットグループは、A/B/C/D/E（NEXT）キーを押すたびに切り替わります。

4 MEMORYインジケーターの点滅中にPRESET/TUNING ⊲／⊳ キーを押して、プリセット番号（1～8）を選ぶ。

⊳ キーを押すと番号の大きい方へ向かって、
⊲ キーを押すと番号の小さい方へ向かって切り替わります。

5 MEMORYインジケーターの点滅中に、MEMORY（MAN'L/AUTO FM）キーを押す。

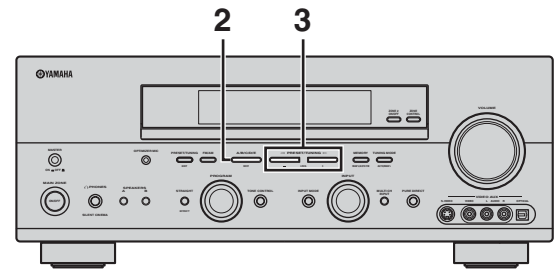
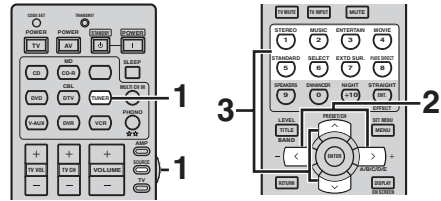
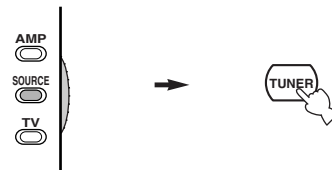
選んだプリセットグループ、プリセット番号と放送局（FMまたはAM）、周波数がディスプレイに表示されます。

選んだプリセット番号に登録された局

6 ほかの放送局を続けて登録するときは、手順１～５を繰り返す。

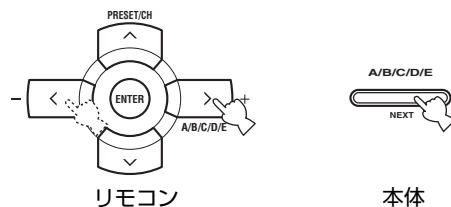
ご注意

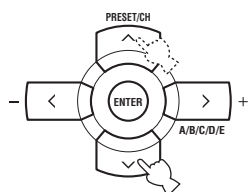
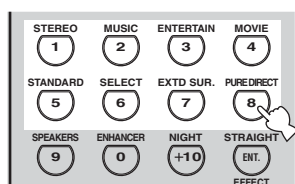
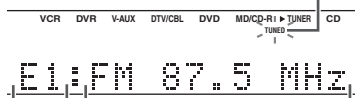
- 同じプリセット番号に新しい放送局を登録すると、前に登録されていた放送局は消え、新しい放送局に入れ替わります。
- 新しい放送局を登録すると、放送局の周波数と受信モード（ステレオ、モノラル）も同時に登録されます。

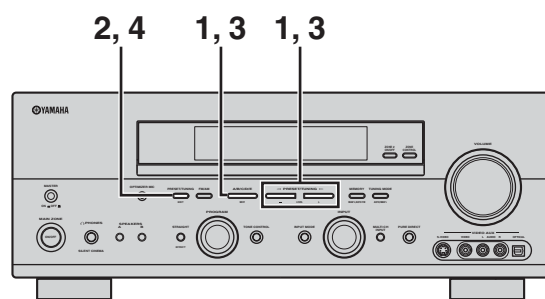
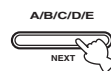
登録した放送局を選んで聴く（プリセット選局）

登録（プリセット）した放送局を簡単に選局することができます。

1 リモコンの操作機器選択スイッチをスライドさせてSOURCEを選び、TUNERキーを押してチューナーモードにする。

2 リモコンのA/B/C/D/E ＜／＞キーを押す、または本体のA/B/C/D/E（NEXT）キーを繰り返し押して、放送局をプリセットしたグループを選ぶ。

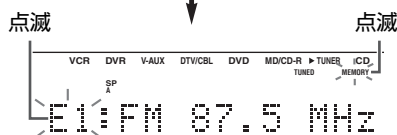
フロントパネルディスプレイに表示されるプリセットグループは、A/B/C/D/E（NEXT）キーを押すたびに切り替わります。リモコンの場合は、＜キーを押すとAのほうへ向かって、＞キーを押すとEのほうへ向かって切り替わります。

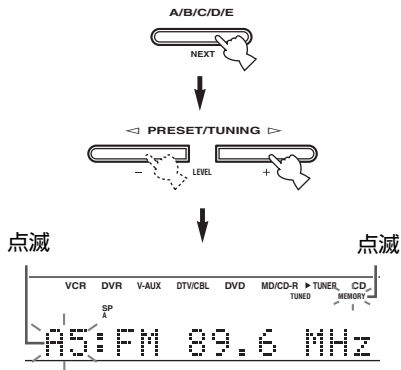
リモコン　本体

3 **リモコンのPRESET/CH ∧／∨キーかプリセット番号キー（1～8）を押す、または本体のPRESET/TUNING ⊲／⊳キーを押して、プリセット番号（1～8）を選ぶ。**

∧キー（または本体の⊳キー）を押すと番号の大きい方へ向かって、∨キー（または本体の⊲キー）を押すと番号の小さい方へ向かって切り替わります。プリセットグループとプリセット番号が、放送局（FMまたはAM）と周波数とともにフロントパネルディスプレイに表示され、TUNEDインジケーターが点灯します。

登録した放送局を入れ替える

オートプリセットやマニュアルプリセット機能を使って登録した放送局を入れ替えることができます。
ここでは例として、「E1」（E=プリセットグループ、1=プリセット番号）に登録した放送局を「A5」に、「A5」の放送局を「E1」に変更する場合の手順を説明します。

1 **「E1」に登録した放送局を、A/B/C/D/E（NEXT）キーとPRESET/TUNING ⊲／⊳キーを使って選局する。**

詳しくは、「登録した放送局を選んで聴く（プリセット選局）」をご覧ください（☞73 ページ）。

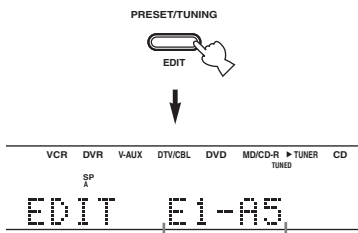
2 **本体のPRESET/TUNING（EDIT）キーを約3秒間押す。**

フロントパネルディスプレイのMEMORYインジケーターと「E1」が点滅します。

3 「A5」に登録した放送局を、A/B/C/D/E（NEXT）キーとPRESET/TUNING ◁／▷ キーを使って選局する。

フロントパネルディスプレイのMEMORYインジケーターと「A5」が点滅します。

4 本体のPRESET/TUNING（EDIT）キーを押す。

登録した局が入れ替わり、フロントパネルディスプレイに「EDIT」と入れ替えた放送局のプリセットグループ／プリセット番号が表示されます。
登録した局の入れ替えが完了したことを示しています。

入れ替えた放送局の
プリセットグループ／プリセット番号

いろいろな再生のしかた

セットメニュー一覧

本機では、お使いのシステムで最適な音声や映像をお楽しみいただけるように、セットメニューで設定を変更することができます。お使いの視聴環境にあわせて初期設定を変更してください。
セットメニューには、簡単に再生に適した設定を行う「AUTO SETUP」と、用途や機能別に分類されたカテゴリーを必要に応じて呼び出して設定する「MANUAL SETUP」の２つがあります。

AUTO SETUP

本機に搭載の「YPAO」（Yamaha Parametric Room Acoustic Optimizer）により、お使いになるスピーカーの配置や性能、お部屋の音響特性を測定し、最適な視聴空間を自動的に設定します。
「AUTO SETUP」の設定方法については40 ページをご覧ください。

MANUAL SETUP

「MANUAL SETUP」は、以下のように用途、機能別に３つのカテゴリーに分類されています。

■ SOUND MENU

スピーカーの音量や音色の調節など、音声の出力に関するメニューを設定、変更します。
以下の７つのメニューがあります。

A）SPEAKER SET（☞78 ページ）

ご使用になるスピーカーに合わせて、サイズや有無などを設定します。

B）SPEAKER LEVEL（☞81 ページ）

各スピーカーからの出力レベルを設定します。

C）SP DISTANCE（☞82 ページ）

各スピーカーからリスニングポジション（視聴位置）までの距離に合わせて、音の到達するタイミングを設定します。

D）EQUALIZER（☞83 ページ）

グラフィックイコライザーを使って、センタースピーカーの音色を調節します。

E）LFE LEVEL（☞84 ページ）

ドルビーデジタル、DTS およびAACでのLFE（低域効果音）信号の再生レベルを調節します。

F）DYNAMIC RANGE（☞84 ページ）

ドルビーデジタル、DTS およびAAC再生時のダイナミックレンジ（最大音量から最小音量までの幅）を調節します。

G）AUDIO SET（☞85 ページ）

ミュート時の音量、声と映像のずれの補正、トーンコントロールの経路、AACモノラル音声の出力を設定します。

■ INPUT MENU

入出力端子の割り当て変更など、信号の入出力に関するメニューを設定、変更します。
以下の４つのメニューがあります。

A）I/O ASSIGNMENT（☞86 ページ）

ご使用になる機器が、本機の入出力端子の機器名と異なる場合に、ご使用になる機器に合わせて端子を割り当てます。

B）INPUT MODE（☞87 ページ）

電源を入れたときの接続機器の入力モードを設定します。

C）INPUT RENAME（☞87 ページ）

入力に名前をつけてフロントパネルディスプレイに表示させます。

D）VOLUME TRIM（☞88 ページ）

入力ソースごとに異なる音声出力レベルを調節します。

■ OPTION MENU

「SOUND MENU」、「INPUT MENU」以外のいろいろなメニューを設定、変更します。
以下の４つのメニューがあります。

A）DISPLAY SET（☞89 ページ）

フロントパネルディスプレイの明るさなどを調節したり、ビデオコンバージョン機能を設定します。

B）MEMORY GUARD（☞90 ページ）

変更した設定値を保護します。

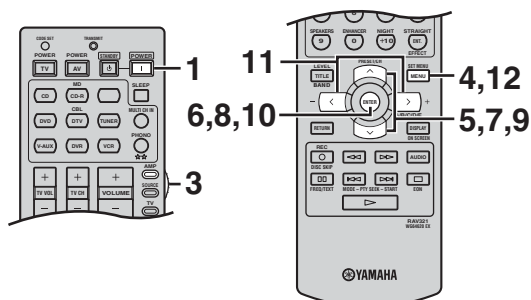
C）PARAM. INI（☞90 ページ）

音場プログラムパラメーターを初期設定に戻します。

D）MULTI ZONE SET（☞91 ページ）

FRONT SPEAKERS B端子に接続したスピーカーの設置場所や、ゾーン２で使用するアンプを設定します。

セットメニューの操作手順

セットメニューの操作について説明します。セットメニューはリモコンで操作します。セットメニューの各項目の詳細については78～91 ページをご覧ください。

ヒント

- 再生中でも、セットメニューで設定を変更できます。
- セットメニュー操作中に1つ前のメニュー表示に戻りたい場合は、リモコンのRETURNキーを押します。

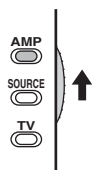
1 本機とテレビの電源を入れる。

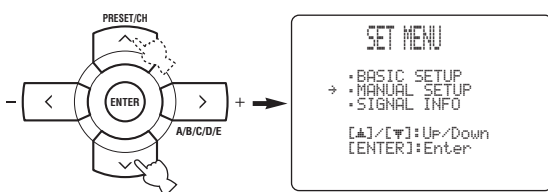
2 テレビの映像入力を切り替えて、本機の映像に合わせる。

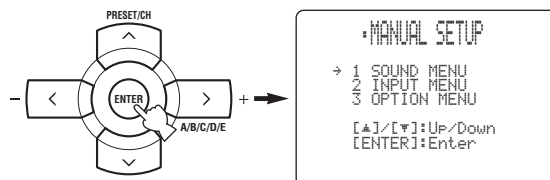
詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

ヒント

例えば、本機がテレビのビデオ入力端子２に接続されている場合は、ビデオ入力２を選びます。

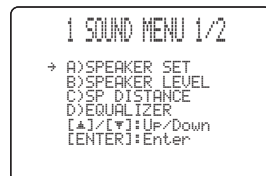
3 操作機器選択スイッチをスライドさせて、アンプモードを選ぶ。

4 SET MENUキーを押す。

5 ∧または∨キーを押して、MANUAL SETUPを選ぶ。

6 ENTERキーを押して決定する。

MANUAL SETUP画面に切り替わります。

7 ∧または∨キーを繰り返し押して、設定したい項目があるメニューを選ぶ。

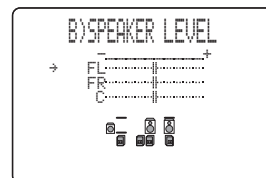
8 ENTERキーを押して決定する。

選んだメニュー内の項目が表示されます。

表示例：手順７でSOUND MENUを選んだとき

9 ∧または∨キーを繰り返し押して、設定したい項目を選ぶ。

10 ENTERキーを押して決定する。

選んだ項目の設定モードに入り、現在の設定がフロントパネルディスプレイに表示されます。項目によっては∧または∨キーを押して、サブメニューを選びます。

表示例：手順９でSPEAKER LEVELを選んだとき

11 <または>キーを繰り返し押して、設定を変更する。

設定を確定するには、ENTERキーを押します。

12 セットメニューを終了するときは、SET MENUキーを押す。

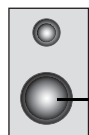
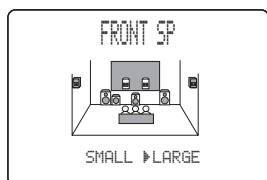
音声出力の設定を変更する（SOUND MENU）

音質や音色の調節など、音声の出力に関する設定を行います。

スピーカーのサイズを設定する（SPEAKER SET）

お使いになるスピーカーにあわせて、スピーカーのサイズ、有無などを設定します。
（MANUAL SETUP→SOUND MENU→SPEAKER SET）

ヒント

- 現在のスピーカーの低音に満足できないときにお好みに合わせて調節することができます。
- 目安として、スピーカーのウーファーの口径が16cm未満の場合は「SML（SMALL）」、16cm以上の場合は「LRG（LARGE）」に設定します。

■ FRONT SP

フロントL／Rスピーカーのサイズを設定します。

選択項目： SMALL（小）、LARGE（大）

初期設定： LARGE

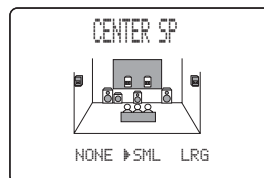
SMALL：小型のフロントスピーカーを使用するときに選択します。フロントL／Rチャンネル信号の低音域は、「LFE/BASS OUT」で選択したスピーカーから出力されます。

LARGE：大型のフロントスピーカーを使用するときに選択します。フロントL／Rチャンネル信号の低音域も、そのままフロントL／Rスピーカーから出力されます。

ヒント

「LFE/BASS OUT」が「FRNT」に設定されている場合、以下の成分はFRONT SPの設定にかかわらずフロントL／Rスピーカーから出力されます。

- ドルビーデジタルやDTS信号に含まれているLFE
- フロントL／Rチャンネルの低音域
- 「SPEAKER SET」で「SML」に設定した各チャンネルの低音域

■ CENTER SP

センタースピーカーのサイズ、有無を設定します。

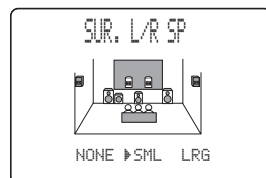
選択項目： NONE（なし）、SML（小）、LRG（大）

初期設定： SML

NONE：センタースピーカーを使用しないときに選択します。センターチャンネル信号は、フロントL／Rスピーカーに同じ音量レベルで振り分けられます。

SML：小型のセンタースピーカーを使用するときに選択します。センターチャンネル信号の低音域は、「LFE/BASS OUT」で選択したスピーカーから出力されます。

LRG：大型のセンタースピーカーを使用するときに選択します。センターチャンネル信号の低音域も、そのままセンタースピーカーから出力されます。

■ SUR. L/R SP

サラウンドL／Rスピーカーのサイズ、有無を設定します。

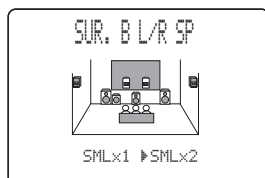
選択項目： NONE（なし）、SML（小）、LRG（大）

初期設定： SML

NONE：サラウンドL／Rスピーカーを使用しないときに選択します。この設定にすると、バーチャルシネマDSP機能が自動的に設定され、サラウンドバックL／Rスピーカー（SUR. B L/R SP）は自動的に「NONE」に設定されます。サラウンドL／Rチャンネル信号は、フロントL／Rスピーカーにそれぞれ振り分けられます。

SML：小型のサラウンドL／Rスピーカーを使用するときに選択します。サラウンドL／Rチャンネル信号の低音域は、「LFE/BASS OUT」で選択したスピーカーから出力されます。

LRG：大型のサラウンドL／Rスピーカーを使用するときに選択します。サラウンドL／Rチャンネル信号の低音域も、そのままサラウンドスピーカーから出力されます。

■ SUR. B L/R SP

サラウンドバックL／Rスピーカーのサイズ、有無を設定します。

選択項目： LRGx2（大2台）、SMLx2(小2台)、LRGx1（大1台）、SMLx1(小1台)、NONE（なし）

初期設定： SMLx2

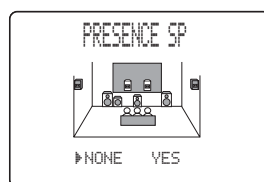
LRGx1／LRGx2：大型のサラウンドバックスピーカーを1本または2本使用するときに選択します。サラウンドバックチャンネル信号の低音域も、そのままサラウンドバックスピーカーに出力されます。

SMLx1／SMLx2：小型のサラウンドバックスピーカーを1本または2本使用するときに選択します。サラウンドバックチャンネル信号の低音域は、「BASS OUT」で選択したスピーカーから出力されます。

NONE：サラウンドバックスピーカーを使用しないときに選択します。サラウンドバックチャンネル信号は、サラウンドL／Rスピーカーに同じ音量レベルで振り分けられます。

ご注意

「SMLx1」または「LRGx1」を選んだ場合、スピーカーはSURROUND BACK（L）端子に接続してください。

■ PRESENCE SP

プレゼンスL／Rスピーカーの有無を設定します。

選択項目： NONE、YES

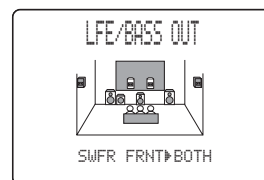
初期設定： NONE

NONE：プレゼンススピーカーを接続しない場合に設定します。

YES：プレゼンススピーカーを接続している場合に設定します。

ヒント

「YES」を選ぶと、会話など中央に定位する音の定位位置（上下方向）が自動的に調節されます。お好みの位置に調節する場合は、「DIALG.LIFT」（☞117ページ）を設定してください。

■ LFE/BASS OUT

LFE信号や低音域成分を出力するスピーカーを設定します。LFE信号とは、ドルビーデジタルやDTS、AACの音声に含まれる120Hz以下の低域効果音のことです。

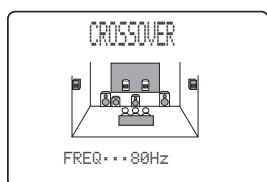
選択項目： SWFR（サブウーファー）、FRNT（フロント）、BOTH（両方）

初期設定： BOTH

SWFR：サブウーファーを接続している場合に設定します。LFE信号と、「SPEAKER SET」で「SML（SMALL）」に設定した各チャンネルの低音域がサブウーファーから出力されます。

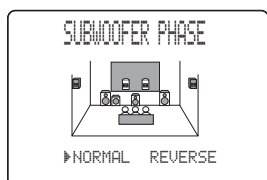
FRNT：サブウーファーを接続しない場合に設定します。LFE信号とフロントL／Rチャンネル、および「SPEAKER SET」で「SML」に設定した各チャンネルの低音域がフロントL／Rスピーカーから出力されます。

BOTH：サブウーファーを接続している場合に設定します。LFE 信号と、「SPEAKER SET」で「SML」に設定した、フロント L ／ R 以外の各チャンネルの低音域がサブウーファーから出力されます。フロント L ／ R チャンネルの低音域は、「FRONT SP」の設定にかかわらずフロント L ／ R スピーカーとサブウーファーから出力されます。CD を再生するときに、サブウーファーを使って低音域を補強したい場合などに設定すると効果的です。

■ CROSSOVER

サブウーファーに出力する低音域成分の、周波数の上限を設定します。設定した周波数以下の低音成分が、サブウーファーまたはフロントL／Rスピーカーに出力されます。

選択項目： 40Hz、60Hz、80Hz、90Hz、100Hz、110Hz、120Hz、160Hz、200Hz

初期設定： 80Hz

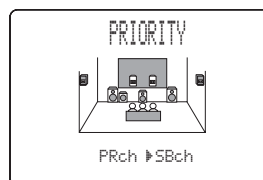
■ SUBWOOFER PHASE

お使いになるサブウーファーの位相を設定します。音色の好みに合わせて切り替えてください。

選択項目： NORMAL（正相）、REVERSE（逆相）

初期設定： NORMAL

NORMAL：サブウーファーの位相を逆転しません。

REVERSE：サブウーファーの位相を逆転します。

■ PRIORITY

ドルビーデジタルEX やDTS-ES などサラウンドバック成分があるソースを、シネマDSP 音場プログラムで再生するときに、優先的に音を出すスピーカーを選びます。

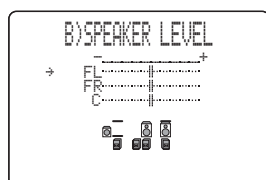
選択項目： PRch、SBch

初期設定： SBch

PRch：サラウンドバック成分があるソースを再生中でも、プレゼンス成分がプレゼンス L ／ R スピーカーから出力されます。
このとき、サラウンドバック成分はサラウンド L ／ R スピーカーに振り分けられて出力されます。

SBch：サラウンドバック成分があるソースを再生中は、サラウンドバックスピーカーから音を出します。
このとき、プレゼンス成分はフロント L ／ R スピーカーに振り分けられて出力されます。

スピーカーの音量を調節する（SPEAKER LEVEL）

リスニングポジションで聞こえる各スピーカーの音量が同じになるように、それぞれのスピーカーの音量を個別に調節します。
（MANUAL SETUP→SOUND MENU→SPEAKER LEVEL）

■ FL

フロントLスピーカーの音量を調節します。

可変範囲： − 10.0 ～+ 10.0dB

初期設定： 0.0dB

■ FR

フロントRスピーカーの音量を調節します。

可変範囲： − 10.0 ～+ 10.0dB

初期設定： 0.0dB

■ C

センタースピーカーの音量を調節します。
「SPEAKER SET」の設定で、「CENTER SP」が「NONE」のときは設定できません。

可変範囲： − 10.0 ～+ 10.0dB

初期設定： 0.0dB

■ SL

サラウンドLスピーカーの音量を調節します。
「SPEAKER SET」の設定で、「SUR. L/R SP」が「NONE」のときは設定できません。

可変範囲： − 10.0 ～+ 10.0dB

初期設定： 0.0dB

■ SR

サラウンドRスピーカーの音量を調節します。
「SPEAKER SET」の設定で、「SUR. L/R SP」が「NONE」のときは設定できません。

可変範囲： − 10.0 ～+ 10.0dB

初期設定： 0.0dB

■ SBL

サラウンドバックLスピーカーの音量を調節します。
「SPEAKER SET」の設定で、「SUR. B L/R SP」が「NONE」のときは設定できません。

可変範囲： − 10.0 ～+ 10.0dB

初期設定： 0.0dB

■ SBR

サラウンドバックRスピーカーの音量を調節します。
「SPEAKER SET」の設定で「SUR. B L/R SP」が「NONE」のときは設定できません。

可変範囲： − 10.0 ～+ 10.0dB

初期設定： 0.0dB

■ SWFR

サブウーファーの音量を調節します。
「SPEAKER SET」の設定で、「LFE/BASS OUT」が「FRNT」のときは設定できません。

可変範囲： − 10.0 ～+ 10.0dB

初期設定： 0.0dB

■ PL

プレゼンスLスピーカーの音量を調節します。
「SPEAKER SET」の設定で「PRESENCE SP」が「NONE」のときは設定できません。

可変範囲： − 10.0 ～+ 10.0dB

初期設定： 0.0dB

■ PR

プレゼンスRスピーカーの音量を調節します。
「SPEAKER SET」の設定で「PRESENCE SP」が「NONE」のときは設定できません。

可変範囲： − 10.0 ～+ 10.0dB

初期設定： 0.0dB

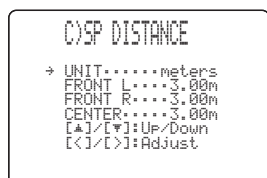
ご注意

「SPEAKER SET」の設定で「SUR. B L/R SP」が「LRGx1」または「SMLx1」の場合、「SBL」および「SBR」の代わりに「SB」と表示されます。サラウンドバックスピーカーの音量を調節するには「SB」を選択してください。

各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定する（SP DISTANCE）

各スピーカーからの音が同時にリスニングポジション（視聴位置）に届くように、スピーカーから音が出るタイミングを調節します。音が出るタイミングは、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定することで調節されます。
（MANUAL SETUP→SOUND MENU→
SP DISTANCE）

```
C)SP DISTANCE

→ UNIT······meters
  FRONT L····3.00m
  FRONT R····3.00m
  CENTER·····3.00m
  [▲]/[▼]:Up/Down
  [<]/[>]:Adjust
```

■ UNIT

設定する距離の単位を選びます。

選択項目： meters（m）、feet（ft）

初期設定： meters

■ FRONT L

フロントＬスピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲： 0.30 ～ 24.00m、1.0 ～ 80.0ft

初期設定： 3.00m、10.0ft

■ FRONT R

フロントＲスピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲： 0.30 ～ 24.00m、1.0 ～ 80.0ft

初期設定： 3.00m、10.0ft

■ CENTER

センタースピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。
「SPEAKER SET」の設定で、「CENTER SP」が「NONE」のときは設定できません。

可変範囲： 0.30 ～ 24.00m、1.0 ～ 80.0ft

初期設定： 3.00m、10.0ft

■ SUR. L

サラウンドＬスピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。
「SPEAKER SET」の設定で、「SUR. L/R SP」が「NONE」のときは設定できません。

可変範囲： 0.30 ～ 24.00m、1.0 ～ 80.0ft

初期設定： 3.00m、10.0ft

■ SUR. R

サラウンドＲスピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。
「SPEAKER SET」の設定で、「SUR. L/R SP」が「NONE」のときは設定できません。

可変範囲： 0.30 ～ 24.00m、1.0 ～ 80.0ft

初期設定： 3.00m、10.0ft

■ SB L

サラウンドバックＬスピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。
「SPEAKER SET」の設定で、「SUR. B L/R SP」が「NONE」のときは設定できません。

可変範囲： 0.30 ～ 24.00m、1.0 ～ 80.0ft

初期設定： 2.10m、7.0ft

■ SB R

サラウンドバックＲスピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。
「SPEAKER SET」の設定で、「SUR. B L/R SP」が「NONE」のときは設定できません。

可変範囲： 0.30 ～ 24.00m、1.0 ～ 80.0ft

初期設定： 2.10m、7.0ft

■ SWFR

サブウーファーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。
「SPEAKER SET」の設定で、「LFE/BASS OUT」が「FRNT」のときは設定できません。

可変範囲： 0.30 ～ 24.00m、1.0 ～ 80.0ft

初期設定： 3.00m、10.0ft

■ PRNS L

プレゼンスＬスピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。
「SPEAKER SET」の設定で、「PRESENCE SP」が「NONE」のときは設定できません。

可変範囲： 0.3 ～ 24.0m、1.0 ～ 80.0ft

初期設定： 3.0m、10.0ft

■ PRNS R

プレゼンスRスピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。
「SPEAKER SET」の設定で、「PRESENCE SP」が「NONE」のときは設定できません。

可変範囲： 0.3 ～ 24.0m、1.0 ～ 80.0ft

初期設定： 3.0m、10.0ft

ご注意

セットメニュー「SPEAKER SET」の設定で「SUR. B L/R SP」が「LRGx1」または「SMLx1」の場合、「SB L」および「SB R」の代わりに「SUR. B」と表示されます。サラウンドバックスピーカーの音量を調節するには「SUR. B」を選択してください。

センタースピーカーの音色を調節する（EQUALIZER）

各周波数帯のレベルを手動で調節して、センタースピーカーの音色をフロントLスピーカーに合わせます。
(MANUAL SETUP→SOUND MENU→EQUALIZER)

■ EQ TYPE SELECT

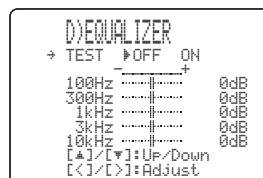
イコライザーの調節方法を選びます。

選択項目： AUTO PEQ、CENTER GEQ、EQ OFF

初期設定： CENTER GEQ

AUTO PEQ：AUTO SETUP で調節したパラメトリックイコライザーの値を適用します。

CENTER GEQ：テストトーンまたは出力している音声を使って、センターチャンネルのグラフィックイコライザーの値を調節します。調節方法については、下記の「EQUALIZER」をご覧ください。

EQ OFF：イコライザーを無効にします。

■ EQUALIZER

TEST

ONを選ぶと、テストトーンを使ってセンタースピーカーの音色がフロントLスピーカーに合うように調節します。OFFを選ぶと、選択している入力ソースの音声が出力されます。

選択項目： ON、OFF

初期設定： OFF

∧／∨キーで周波数帯を選び、<／>キーでレベルを調節します。

周波数帯域： 100Hz、300Hz、1kHz、3kHz、10kHz

可変範囲： − 6.0 ～＋ 6.0dB

初期設定： 0.0dB

低域効果音の音量を調節する（LFE LEVEL）

ドルビーデジタル、DTS および AAC 信号に含まれる、LFE（低域効果音）の音量を調節します。スピーカーで音を聴く場合と、ヘッドホンで音を聴く場合を個別に調節できます。
（MANUAL SETUP→SOUND MENU→LFE LEVEL）

```
E)LFE LEVEL

→ SPEAKER······0dB
  HEADPHONE····0dB

  [▲]/[▼]:Up/Down
  [<]/[>]:Adjust
```

■ SPEAKER

スピーカーで音を聴く場合のLFEの音量を調節します。

可変範囲： − 20 〜 0dB

初期設定： 0dB

■ HEADPHONE

ヘッドホンで音を聴く場合のLFEの音量を調節します。

可変範囲： − 20 〜 0dB

初期設定： 0dB

ご注意

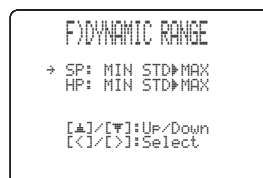
- お使いになるサブウーファーやヘッドホンの性能に応じて調節してください。
- LFE LEVEL の設定によってはサブウーファーから音が出ない場合があります。

ダイナミックレンジを設定する（DYNAMIC RANGE）

ドルビーデジタル／DTS 再生時のダイナミックレンジ（最大音量から最小音量までの幅）を、3 段階から選びます。スピーカーで音を聴く場合と、ヘッドホンで音を聴く場合を個別に選べます。
（MANUAL SETUP→SOUND MENU→DYNAMIC RANGE）

```
F)DYNAMIC RANGE

→ SP: MIN STD▶MAX
  HP: MIN STD▶MAX

  [▲]/[▼]:Up/Down
  [<]/[>]:Select
```

■ SP

スピーカーで音を聴く場合のダイナミックレンジを選びます。

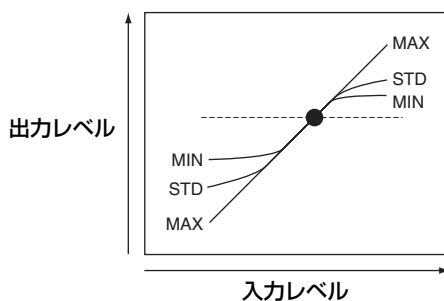
選択項目： MIN（最小）、STD（標準）、MAX（最大）、

初期設定： MAX

■ HP

ヘッドホンで音を聴く場合のダイナミックレンジを選びます。

選択項目： MIN（最小）、STD（標準）、MAX（最大）、

初期設定： MAX

MIN：小音量でも聴きやすく、夜間に音声を楽しむのに適したダイナミックレンジです。

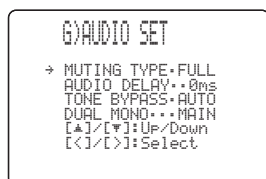
STD：一般的な家庭用として推奨するダイナミッククレンジです。

MAX：入力された信号をリニアに再生するダイナミックレンジです。長編映画などの鑑賞に適しています。

その他の音声出力を設定する（AUDIO SET）

音声と映像のずれを補正したり、AACモノラル音声の出力を設定します。
（MANUAL SETUP→SOUND MENU→AUDIO SET）

```
G)AUDIO SET

→ MUTING TYPE・FULL
  AUDIO DELAY・・0ms
  TONE BYPASS・AUTO
  DUAL MONO・・・MAIN
  [▲]/[▼]:Up/Down
  [<]/[>]:Select
```

■ MUTING TYPE

ミュート（消音）時に下げる音量を調節します。

選択項目： FULL、－20dB

初期設定： FULL

FULL：完全に消音し、無音にします。

－20dB：いま聴いている音量よりも、20dB下げて再生します。

■ AUDIO DELAY

デジタル処理された映像が、音声よりも遅れて出力されることがあります。この出力タイミングのずれを、音声を遅らせて出力することにより補正します。音を遅らせる時間を設定します。

可変範囲： 0～160ms

初期設定： 0ms

■ TONE BYPASS

BASS（低音）とTREBLE（高音）の設定が0dBのときに、トーンコントロールの経路を選びます。

選択項目： AUTO、OFF

初期設定： AUTO

AUTO：トーンコントロールの経路をバイパスします。

OFF：トーンコントロールの経路をバイパスしません。

■ DUAL MONO

BS／地上波デジタル放送などで使われている、モノラル二重音声入力時に、どの音声を出力するか設定します。

選択項目： MAIN（主音声）、SUB（副音声）、ALL（主音声＋副音声）

初期設定： MAIN

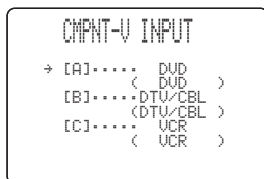
入出力の設定を変更する（INPUT MENU）

入出力端子の割り当てや、デジタル信号の入出力に関する設定などを行います。

入出力端子の割り当てを変更する（I/O ASSIGNMENT）

お使いになる機器と、本機のD4／コンポーネントビデオ入力端子やデジタル入出力端子の機器名が異なる場合に、お使いになる機器に合わせて端子を割り当てることができます。割り当てを変更すると、変更後の機器を入力選択キーで選べます。
（MANUAL SETUP→INPUT MENU→I/O ASSIGNMENT）

「例」では、各端子にDVDレコーダーを接続し、割り当てを「DVR」に変更する場合を説明しています。変更後は入力選択キーの「DVR」を押すと、DVDレコーダーを選べます。

■ CMPNT-V INPUT [A]／[B]／[C]

D4／コンポーネントビデオ入力端子の割り当てを変更します。

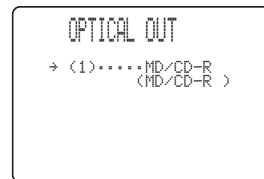
選択項目： DVD、DVR、V-AUX、DTV/CBL、VCR

初期設定： ［A］DVD
［B］DTV/CBL
［C］DVR

例：D4／コンポーネントビデオ入力（DVD）端子にDVDレコーダーを接続した場合、［A］の設定を「DVR」に変更します。

ご注意

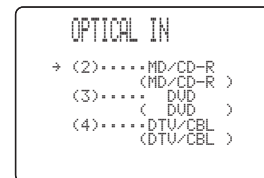
- CMPNT-V INPUT [A]／[B]／[C]には同じ選択項目を設定することはできません。
- D4ビデオ入力端子とコンポーネントビデオ入力端子には同じ選択項目が割り当てられます。端子ごとに設定を変更することはできません。

■ OPTICAL OUT（1）

光デジタル出力端子の割り当てを変更します。

選択項目： MD/CD-R、CD、DVR、V-AUX、DTV/CBL、DVD、PHONO、VCR

初期設定： MD/CD-R

例：光デジタル出力（MD/CD-R）端子にDVDレコーダーを接続した場合、設定を「DVR」に変更します。

■ OPTICAL IN (2)／(3)／(4)

光デジタル入力端子の割り当てを変更します。

選択項目： CD、DVR、DTV/CBL、DVD、MD/CD-R、PHONO、VCR

初期設定：（2）MD/CD-R
（3）DVD
（4）DTV/CBL

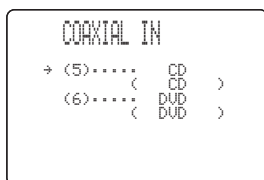
例：光デジタル入力（MD/CD-R）端子にDVDレコーダーを接続した場合、(2)の設定を「DVR」に変更します。

ご注意

OPTICAL IN (2)／(3)／(4)には同じ選択項目を設定することはできません。

■ COAXIAL IN (5) ／ (6)

```
COAXIAL IN

→ (5)·····    CD
        (    CD    )
  (6)·····   DVD
        (   DVD    )
```

同軸デジタル入力端子の割り当てを変更します。

選択項目： CD、DVR、V-AUX、DTV/CBL、DVD、MD/CD-R、PHONO、VCR

初期設定： （5）CD
（6）DVD

例：同軸デジタル入力（DVD）端子に DVD レコーダーを接続した場合、設定を「DVR」に変更します。

ご注意

１つの外部機器を本機の同軸（COAXIAL）と光（OPTICAL）両方のデジタル端子に接続している場合は、同軸デジタル端子からの入力が優先されます。

電源を入れたときに適用する入力モードを設定する（INPUT MODE）

電源を入れたときに適用するデジタル端子の入力モードを設定します。
（MANUAL SETUP→INPUT MENU→INPUT MODE）

```
B)INPUT MODE

 >AUTO  LAST

[<]/[>]:Select
[ENTER]:Return
```

選択項目： AUTO、LAST

初期設定： AUTO

AUTO：デジタル入力端子の種類にあわせて、最適な入力モードを設定します。

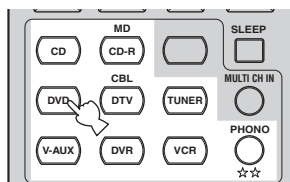
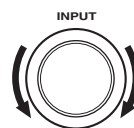
LAST：前回使っていた入力モードを適用します。

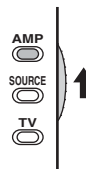
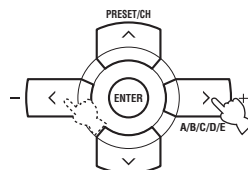
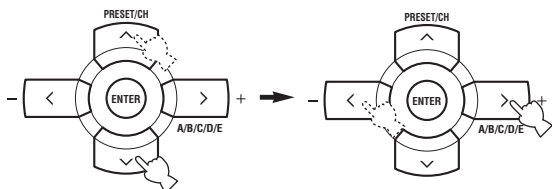
ご注意

「LAST」に設定しても、EXTD SUR. キーで設定した内容は記憶されません。

入力に名前をつける（INPUT RENAME）

リモコンの入力選択キーや本体の INPUT セレクターで選ぶ入力に名前をつけて、フロントパネルディスプレイに表示することができます。
（MANUAL SETUP→INPUT MENU→INPUT RENAME）

1 リモコンの入力選択キーを押す、または本体の INPUT セレクターを回して、名前をつけたい入力を選ぶ。

リモコン

本体

2 リモコンの操作機器選択スイッチをスライドさせて AMP モードにする。

3 ＜／＞キーを押して「 _ 」（下線）を変更したい文字の位置へ動かす。

4 **∧／∨キーを押して文字を選び、<／>キーを押して「 _ 」（下線）を動かして、次の文字を選び名前をつける。**

－最長８文字の名前をつけることができます。
－∨キーを押すと以下の順序で文字や記号が表示されます。∧キーを押すと逆の方向へ戻ります。
A～Z→（スペース）→0～9→（スペース）→a～z→（スペース）→
記号（♯、＊、＋など）

5 **ほかの入力に名前をつけるときは手順１～４を繰り返す。**

6 **SET MENUキーを押して終了する。**

入力ごとの音量差を補正する（VOLUME TRIM）

入力ソースによって異なる音量のばらつきを補正します。これにより、入力を切り替えるたびに音量を微調整する必要がなくなります。
補正する入力ソースは、リモコンの入力選択キーを押すか、本体のINPUTセレクターを回して選択してください。MULTI CH INPUTを選択する場合は、MULTI CH INPUTキーを押します。
（MANUAL SETUP→INPUT MENU→VOLUME TRIM）

```
D)VOLUME TRIM

       DVD
 DVD ->    0.0dB

[<]/[>]:Adjust
[RETURN]:Exit
```

選択項目： CD、MD/CD-R、TUNER、DVD、DTV/CBL、V-AUX、DVR、PHONO、VCR、MULTI CH INPUT

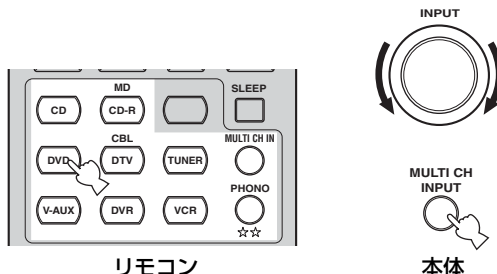
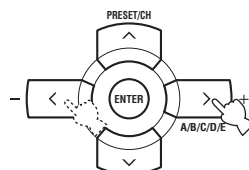
可変範囲： －6.0～＋6.0dB

初期設定： 0.0dB

1 **リモコンの入力選択キーを押す、または本体のINPUTセレクターを回して、補正したい入力を選ぶ。**

MULTI CH INPUTを選択する場合は、リモコンのMULTI CH INキーまたは本体のMULTI CH INPUTキーを押します。

リモコン

本体

2 **<／>キーを押して、補正する音量を調節する。**

その他の設定を変更する（OPTION MENU）

お好みに応じて表示の設定を変更したり、変更した設定値を保護できます。

表示の設定を変更する（DISPLAY SET）

フロントパネルディスプレイの明るさなどを調節します。
（MANUAL SETUP→OPTION MENU→DISPLAY SET）

```
A)DISPLAY SET

→ DIMMER.........0
  VIDEO CONV.....ON
  OSD SHIFT......0
  GRAY BACK....AUTO

  [▲]/[▼]:Up/Down
  [<]/[>]:Select
```

■ DIMMER（ディスプレイの明るさ）

フロントパネルディスプレイ表示の明るさを調節します。
数値が小さいほど表示が暗くなり、数値が大きいほど表示が明るくなります。

可変範囲： －４～０

初期設定： ０

■ VIDEO CONV.（ビデオコンバージョン機能）

本機のＳビデオまたはコンポジットビデオ端子に入力した映像信号を映像出力端子から出力するときに、信号方式を変換するか変換しないかを設定します。

選択項目： ON、OFF

初期設定： ON

ON：信号方式を変換します。S ビデオ信号はコンポーネント信号またはコンポジットビデオ信号に、コンポジットビデオ信号は S ビデオ信号またはコンポーネントビデオ信号に変換されるため、コンポーネントビデオ、S ビデオ、コンポジットビデオのいずれの端子からも出力することができます。

OFF：変換しません。入力された信号は、入力端子と同じ種類の出力端子からのみ出力されます。

ご注意

- 変換された映像信号は、MONITOR OUT 端子へのみ出力されます。外部機器を使って録画するときは、プレーヤーと同じ種類のビデオ接続（例：S VIDEO と S VIDEO など）を行ってください。
- 「OFF」に設定すると、オンスクリーン画面は表示されません（☞38 ページ）。
- お手持ちのビデオデッキを本機に接続しているとき、コンポジットビデオ信号またはＳビデオ信号をコンポーネント信号に変換すると、ビデオデッキの種類によっては画質が劣化する場合があります。
- 「OFF」に設定した場合でも、セットメニューを表示させるときは、各信号が上位変換されて出力されます。
- 特殊な信号を出力する機器と接続した場合、映像が正しく出力されなかったり、「ON」に設定しても入力信号が変換されない場合があります。このような場合は、「OFF」に設定してください。

■ OSD SHIFT

オンスクリーン表示を表示する上下位置を調節します。

可変範囲： －５（上方）～＋５（下方）

初期設定： ０

■ GRAY BACK

映像信号が入力されていない場合のオンスクリーン表示の設定をします。

選択項目： AUTO、OFF

初期設定： AUTO

AUTO：映像信号が入力されていない場合は、グレーの背景を表示して、オンスクリーン画面を表示します。

OFF：映像信号が入力されていない場合は、オンスクリーン画面を表示しません。

ご注意

入力された映像信号や、テレビの映像信号方式（NTSC／PAL）によっては、オンスクリーン画面が乱れる場合があります。そのような場合は、「OFF」に設定してください。

変更した設定値を保護する（MEMORY GUARD）

変更した設定値を保護します。「ON」に設定すると、誤操作による設定値の変更を防ぐことができます。
(MANUAL SETUP→OPTION MENU→MEMORY GUARD)

```
B)MEMORY GUARD
▶OFF   ON

[<]/[>]:Select
[ENTER]:Return
```

選択項目： OFF、ON

初期設定： OFF

「ON」に設定すると、以下の設定が保護されます。
- 音場プログラムパラメーターの設定
- 「MEMORY　GUARD」以外のセットメニューの設定
- 各スピーカーの音量レベル

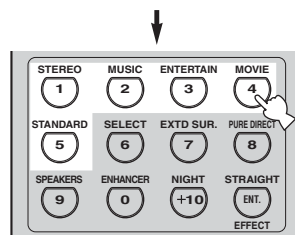
ご注意

「ON」に設定すると、ほかのセットメニューは呼び出せません。

音場プログラムパラメーターを初期化する（PARAM. INI）

変更した音場プログラムパラメーター（☞116ページ）を、初期設定に戻します。
この機能を使って音声プログラムパラメーターを初期化すると、そのプログラム内のサブプログラムの設定もすべて初期化されます。
(MANUAL SETUP→OPTION MENU→PARAM. INI)

設定が変更されている音場プログラムは、プログラム名の前に＊（アスタリスク）が表示されます。リモコンの音場プログラムキーで、パラメーターを初期設定に戻したい音場プログラムを選んでください。

選んだ音場プログラムのパラメーターが初期設定に戻ります。

ご注意

- １度初期化すると、初期化前の状態には戻せません。誤って初期化してしまったときのために、パラメーターを変更したときは記録しておいてください。
- サブプログラムごとに、初期設定に戻すことはできません。
- セットメニュー「MEMORY GUARD」を「ON」に設定している場合は、初期設定に戻すことはできません。

マルチゾーンを設定する（MULTI ZONE SET）

リアパネルのFRONT SPEAKERS B端子に接続したスピーカーの設置場所を設定します。
（MANUAL SETUP→OPTION MENU→MULTI ZONE SET）

```
D)MULTI ZONE SET

→ SP B･･･････FRONT
  ZONE2 AMP････EXT

  [<]/[>]:Select
  [ENTER]:Return
```

■ SP B

リアパネルのFRONT SPEAKERS B端子に接続したスピーカー（スピーカー B）を、メインリスニングルームで使うか､別の部屋で使うかを設定します。

選択項目： FRONT、ZONE B

初期設定： FRONT

FRONT：メインリスニングルームでお使いになるときの設定です。リモコンの SPEAKERS キーまたは本体の SPEAKERS A ／ B スイッチでスピーカー A と B を使い分けてください。

ZONE B：別の部屋でお使いになるときの設定です。スピーカー A の出力をオフ、スピーカー B の出力をオンにすると、メインルームに設置しているすべてのスピーカーから、音が出なくなります。

ヒント

- ZONE Bに設定してお使いの場合、本機のPHONES端子にヘッドホンを差し込むと、ヘッドホンとスピーカーBの両方から音声が出力されます。
- ZONE Bに設定して、スピーカーAをオフ、スピーカーBをオンにした場合、音場プログラムを選んで音場効果をかけると、自動的にバーチャルシネマDSPモードでの再生になります。

■ ZONE2 AMP

ゾーン２への音声出力に使用するアンプを設定します。

選択項目： INT、EXT

初期設定： EXT

INT：本機の内部アンプを使って音声を出力します。リアパネルの PRESENCE/ZONE2 スピーカー端子に接続したスピーカーをゾーン２用のスーピーカーとして使う場合に選択します。

EXT：外部アンプを使って音声を出力します。リアパネルの ZONE2 OUT 端子に、ゾーン２で使うアンプを接続するときに使います。

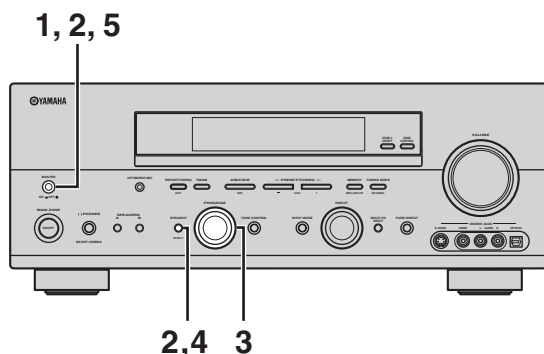
本機の設定を変更する（ADVANCED SETUP）

ADVANCED SETUPにより、本機の設定を初期設定に戻したり、リモコンIDを変更することができます。

ご注意

- ADVANCED SETUPの操作をしているあいだは、本機から音が出なくなります。
- ADVANCED SETUPの操作をはじめると、本体のMASTER ON／OFFスイッチ、STRAIGHT／EFFECTキー、PROGRAMセレクター以外は機能しません。

ADVANCED SETUPの操作手順

本体フロントパネルで操作します。

1 MASTER ON／OFFスイッチを押して、本機の電源をオフにする。

2 STRAIGHT／EFFECTキーを押しながら、もう1度MASTER ON／OFFスイッチを押す。

本機の電源がオンになり、フロントパネルディスプレイにADVANCED SETUPのメニューが表示されます。

を押しながら

3 PROGRAMセレクターを回して設定したいメニューを選ぶ。

詳しくは右記の「ADVANCED SETUPの メニューと項目」をご覧ください。

4 STRAIGHT／EFFECTキーを繰り返し押して、設定したい項目を選ぶ。

5 MASTER ON／OFFスイッチを押す。

電源がオフになり、手順3～4で設定した内容が記憶されます。

手順5を行うと、ADVANCED SETUPの手順は終了します。
電源をオンにすると、選んだ設定が有効になります。

ADVANCED SETUPのメニューと項目

必要に応じて初期設定を変更してください。

■ PRESET（初期設定に戻す）

変更したセットメニューの設定や音場プログラムパラメーター、登録（プリセット）されたFM／AM放送局などをすべて初期設定に戻すことができます。詳しくは、「すべての設定を初期設定に戻す」（☞93 ページ）をご覧ください。

ご注意

ADVANCED SETUPの設定は初期設定に戻りません。

■ REMOTE AMP（アンプ用リモコン ID）

本体のアンプ用リモコンIDをリモコンのアンプライブラリーコードの設定に合わせて切り替えます。

選択項目： ID1、ID2
初期設定： ID1

ID1：アンプライブラリーコードが「00001」に設定されているときに選びます。

ID2：アンプライブラリーコードが「00002」に設定されているときに選びます。

■ REMOTE TUN（チューナー用リモコン ID）

本体のチューナー用リモコンIDをリモコンのチューナーライブラリーコードの設定に合わせて切り替えます。

選択項目： ID1、ID2
初期設定： ID1

ID1：チューナーライブラリーコードが「81916」に設定されているときに選びます。

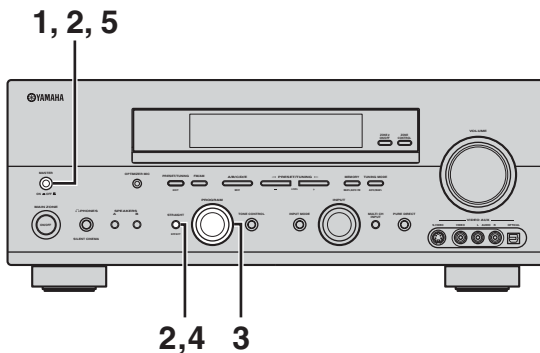
ID2：チューナーライブラリーコードが「81917」に設定されているときに選びます。

ご注意

リモコンのライブラリーコードの設定もあわせてご確認ください。詳しくは、「ライブラリーコードを変更する」（☞102ページ）をご覧ください。

すべての設定を初期設定に戻す

変更したセットメニューの設定や音場プログラムパラメーター、登録（プリセット）されたFM／AM放送局などをすべて初期設定に戻すことができます。

本体フロントパネルで操作します。

1 本機の電源をオフにする。

2 STRAIGHT／EFFECTキーを押しながら、MASTER ON／OFFスイッチを押す。

本機の電源がオンになり、フロントパネルディスプレイにADVANCED SETUPのメニューが表示されます。

を押しながら

3 PROGRAMセレクターを回して、PRESETを選ぶ。

4 STRAIGHT／EFFECTキーを押して、PRESET－CANCELまたはPRESET－RESETを選ぶ。

CANCEL：初期設定に戻しません。
RESET：すべての設定を初期設定に戻します。

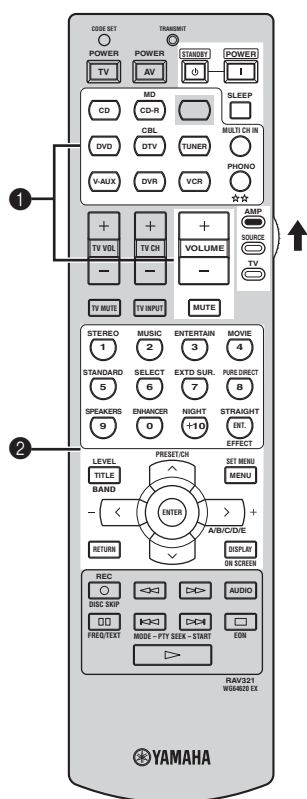
5 MASTER ON／OFFスイッチを押す。

「CANCEL」を選んだ場合は初期設定に戻らずに、本機の電源はそのままオフになります。
「RESET」を選んだ場合は、すべての設定が初期設定に戻り、本機の電源はオフになります。

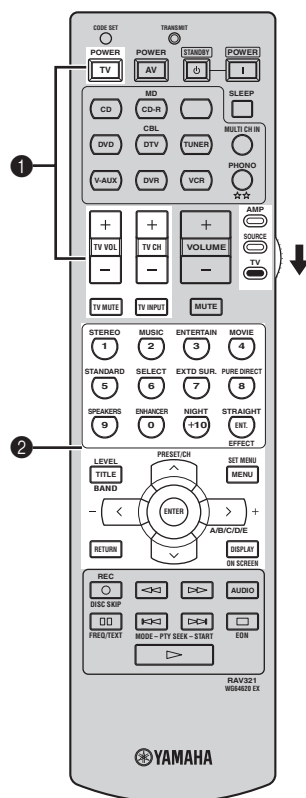
リモコンのはたらき

リモコンコードを設定することにより、本機のリモコンでDVDプレーヤーやCDプレーヤー、テレビなど、本機以外のAV機器を操作できます。

本機を操作する

リモコンで本機を操作したいときは、操作機器選択スイッチをAMPにセットします。本機の操作に使うキーは、下図の白色で示した部分です。

❶ 操作機器選択スイッチの位置にかかわらず、本機のアンプ機能を操作できます。
❷ 操作機器選択スイッチをAMPにセットしたときに、本機のアンプ機能を操作できます。

テレビを操作する

本機に関係なくテレビのリモコンとして使う場合は、操作機器選択スイッチをTVにセットします。DTV/CBLまたはPHONOキーにテレビのリモコンコードを設定してください(☞96ページ)。両方のキーにリモコンコードを設定した場合は、DTV/CBLキーに設定したリモコンコードが優先されます。テレビの操作に使うキーは、下図の白色で示した部分です。

❶ 操作機器選択スイッチの位置にかかわらず、テレビを操作するときに使用します。

TV POWER：テレビの電源を切り替えます。
TV VOL +/ –：テレビの音量を操作します。
TV CH +/ –：テレビのチャンネルを切り替えます。
TV MUTE：テレビの音量を一時的に消音します。
TV INPUT：テレビの入力を切り替えます。

❷ 操作機器選択スイッチをTVにセットしたときに、テレビを操作できます。各キーの操作内容については、95ページの表中の「テレビ」欄をご覧ください。

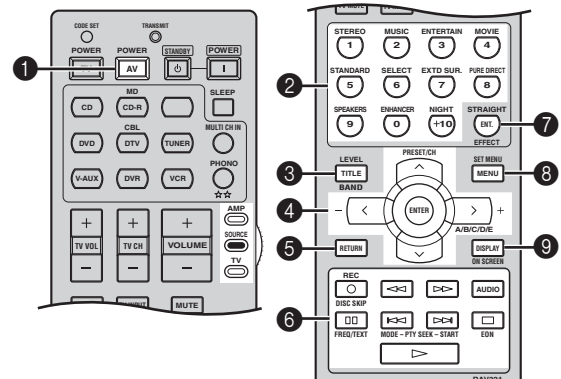
他の機器を操作する

リモコンで他の機器を操作したいときは、操作機器選択スイッチをSOURCEにセットします。他の機器の操作に使うキーは、右図の白色で示した部分です。工場出荷時、CD、MD/CD-R、TUNER、DVDキーとブランクキー（空白のキー）にはヤマハリモコンコードがあらかじめ設定されています。他社製の機器を操作する場合は、リモコンコードを変更する必要があります。また、上記以外の機器を操作するには、あらたにリモコンコードを設定してください（☞96ページ）。

ご注意

- お使いの機器によっては、いくつかのキーが機能しないことがあります。このような場合には、お使いの機器に付属するリモコンをお使いください。
- お使いの機器によっては、キー操作と説明が一致しないことがあります

ヒント

ヤマハ製ドック（別売YDS-10など）にセットしたiPodの操作に関しては「iPodを操作する」（☞109ページ）をご覧ください。

機器 / リモコンのキー	DVDプレーヤー／DVDレコーダー	ビデオデッキ	テレビ	LDプレーヤー	CDプレーヤー	CDレコーダー／MDレコーダー	チューナー
❶ AV POWER	*1POWER	*1POWER	*2（ビデオデッキ）POWER	*1POWER	*1POWER	*1POWER	–
❷ 1～9、0、+10	数字キー	数字キー	数字キー	数字キー	数字キー	数字キー	登録局選択（1～8）
❸ TITLE	タイトルメニュー	–	–	–	–	–	バンド切り替え
❹ PRESET/CH ∧	選択（上へ）	チャンネル選択（＋）	–	–	–	–	登録局（1～8）選択（＋）
PRESET/CH ∨	選択（下へ）	チャンネル選択（－）	–	–	–	–	登録局（1～8）選択（－）
＞	選択（右へ）	–	–	–	–	–	プリセットグループ選択（A→E）
＜	選択（左へ）	–	–	–	–	–	プリセットグループ選択（A←E）
ENTER	メニュー決定	–	–	–	–	–	–
❺ RETURN	前の画面へ戻る	–	前の画面へ戻る	–	–	–	–
❻ REC ／ DISC SKIP	*3（プレーヤー）ディスクスキップ *4（レコーダー）録画	*4 録画	*2*4（ビデオデッキ）録画	–	*3 ディスクスキップ	*4 録音（MD）	–
▷	再生	再生	*2（ビデオデッキ）再生	再生	再生	再生	–
◁◁	早戻し	巻き戻し	*2（ビデオデッキ）巻戻し	早戻し	早戻し	早戻し	–
▷▷	早送り	早送り	*2（ビデオデッキ）早送り	早送り	早送り	早送り	–
AUDIO	オーディオメニュー	オーディオメニュー	*2 オーディオメニュー	サウンドメニュー	–	–	–
▯▯	一時停止	一時停止	*2（ビデオデッキ）一時停止	一時停止	一時停止	一時停止	–
|◁◁	チャプタースキップ（－）	チャプタースキップ（－）	*2 チャプタースキップ（－）	スキップ（－）	スキップ（－）	スキップ（－）	–
▷▷|	チャプタースキップ（＋）	チャプタースキップ（＋）	*2 チャプタースキップ（＋）	スキップ（＋）	スキップ（＋）	スキップ（＋）	–
□	停止	停止	*2（ビデオデッキ）停止	停止	停止	停止	–
❼ ENT.	タイトル／インデックス表示	決定	決定	チャプター／時間表示	インデックス表示	インデックス表示	–
❽ MENU	メニュー	–	メニュー	–	–	–	–
❾ DISPLAY	ディスプレイ表示	ディスプレイ表示	ディスプレイ表示	ディスプレイ表示	ディスプレイ表示	ディスプレイ表示	–

*1 機器に付属のリモコンにPOWERキーがあるときのみ機能します。
*2 DVRにビデオデッキまたはDVDレコーダーのリモコンコードが設定されているときは、入力を切り替えなくてもビデオデッキまたはDVDレコーダーを操作できます。
*3 ディスクチェンジャー機能がある機器のみ、機能します。
*4 2回続けてキーを押してください。

リモコンを使いこなす

操作機器選択スイッチの役割

２つ以上の役割を持つキー（11 ページ図の灰色部分のキー）の操作内容を切り替えます。

音場プログラムキーなど、本機のアンプ機能の操作主体で使う場合：
「AMP」にセットします。

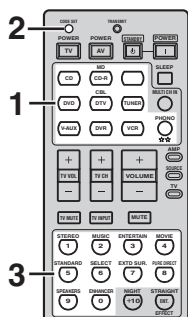
数字キーなど、他の機器の操作や本機のチューナー機能主体で使う場合：
「SOURCE」にセットします。

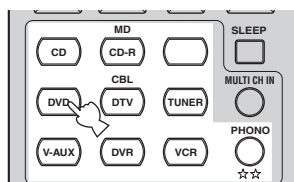
本機に関係なく、テレビのリモコンとして使う場合：
「TV」にセットします。
DTV/CBLまたは PHONOキーにテレビのリモコンコードを設定してください。両方のキーにリモコンコードを設定した場合は、DTV/CBL キーに設定したリモコンコードが優先されます。

本機のリモコンで他の機器を操作する

本機のリモコンで他の機器を操作するための設定について説明します。

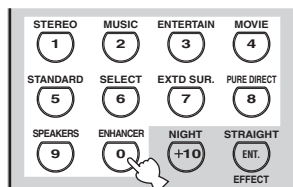
リモコンで操作する機器を設定する

リモコンコードを設定することにより、本機のリモコンでほかのメーカーの機器を操作することができます。リモコンコードは各入力選択キーまたはブランクキーに設定することができます。

1 リモコンコードを設定したい入力選択キーまたはブランクキーを押す。

例：DVD プレーヤーを本機のリモコンで操作したい場合は、DVD キーを押します。

2 CODE SET ボタンを押す。

ボールペンなど先の細いもので押します。
リモコンのTRANSMIT インジケーターが２回点滅します。

3 数字キーを押して、お使いになる機器のリモコンコード（５桁の数字）を入力する。

１桁入力するごとにTRANSMIT インジケーターが１回点滅します。
５桁分が正しく入力された場合は、最後にTRANSMIT インジケーターが１回点滅します。
リモコンコードについては、「リモコンコード一覧」をご覧ください（☞98 ページ）。

ヒント

- お使いの機器のメーカーによっては複数のリモコンコードが記載されています。正しく操作できるコードをお使いください。
- TRANSMIT インジケーターが素早く６回点滅した場合は、リモコンコードが正しく入力されていません。もう１度入力し直してください。

ご注意

- 手順３は、手順２の操作後 30 秒以内に操作してください。30 秒以上経過するとリモコンコード設定が自動的に中止されます。この場合は、手順２から操作し直してください。
- 付属のリモコンは、市販されているすべての AV 機器（ヤマハ製の AV 機器を含む）のリモコンコードを内蔵しているわけではありませんので、お手持ちの AV 機器を操作できない場合があります。いずれのリモコンコードでも操作ができない場合は、お使いの機器に付属のリモコンをお使いください。
- １つの入力選択キーに対して、リモコンコードは１つだけ設定できます。

■ 工場出荷時のリモコンコード設定

下表のように、CD、MD/CD-R、TUNER、DVD の入力選択キーとブランクキーには工場出荷時にあらかじめヤマハのリモコンコードが設定されています。詳しくは下記の表をご覧ください。

入力選択キー	ライブラリー	メーカー名	リモコンコード
CD	CD	YAMAHA	61907
MD/CD-R	MD	YAMAHA	70888
TUNER	TUNER	YAMAHA	81916
DVD	DVD	YAMAHA	40539
DTV/CBL	–	–	–
V-AUX	–	–	–
DVR	–	–	–
VCR	–	–	–
PHONO	–	–	–
ブランク	TAPE	YAMAHA	70524

ご注意

お使いのヤマハ製機器によっては、初期設定されているヤマハのリモコンコードでは、操作できない場合があります。この場合は、ヤマハの別のリモコンコードをお試しください。

リモコンコード一覧

本機のリモコンに内蔵されているリモコンコードは全世界対応です。下表は主に日本で流通しているメーカーのリモコンコードです。下表のメーカー製品であっても形式、年式によって使用できないものがあります。他社のリモコンコードを設定した場合、機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。この場合は、お使いの機器専用のリモコンをご利用ください。

TV

メーカー名	リモコンコード
AIWA	21180
AKAI	20009, 20035, 20037, 20163, 20178, 20208, 20218, 20264, 20361, 20371, 20433, 20473, 20480, 20516, 20548, 20556, 20602, 20606, 20631, 20696, 20714, 20715, 20729, 20745, 20753, 21207
DAEWOO	20009, 20037, 20218, 20374, 20556, 20634, 20865, 20880, 21307, 21909
DENON	20145, 20511
FUJITSU	20009, 20683, 20853
FUNAI	20264, 20668
HITACHI	20037, 20105, 20108, 20109, 20145, 20163, 20178, 20225, 20473, 20480, 20481, 20492, 20516, 20548, 20578, 20634, 20744, 20797, 21037, 21149, 21194, 21576
JVC	20053, 20093, 20218, 20371, 20418, 20606, 20650, 20653, 20683, 20731
LG	20037, 20178, 20442, 20556, 20698, 20714, 20715, 20829, 21146, 21148, 21191
MARANTZ	20037, 20054, 20412, 20556, 20704
MITSUBISHI	20037, 20093, 20108, 20178, 20250, 20512, 20556, 21037
NATIONAL	20226
NEC	20009, 20053, 20156, 20170, 20374, 20455, 20587, 20704, 21704
PANASONIC	20037, 20163, 20226, 20250, 20361, 20367, 20516, 20548, 20650, 20853, 21210, 21310
PHILIPS	20009, 20037, 20054, 20200, 20361, 20374, 20556, 20772, 21756
PIONEER	20037, 20109, 20163, 20361, 20486, 20512, 20679, 20760
SAMSUNG	20009, 20037, 20060, 20163, 20178, 20208, 20264, 20370, 20482, 20556, 20587, 20618, 20644
SANSUI	20037, 20727, 20729, 20861
SANYO	20088, 20108, 20170, 20208, 20370, 20555, 20704, 20735
SHARP	20053, 20093, 20200, 20491, 20516, 21163, 21193
SONY	20000, 20037, 20053, 20093, 20145, 20156, 20170, 20250, 20353, 21100, 21505, 21751
TEAC	20009, 20037, 20170, 20178, 20264, 20412, 20418, 20455, 20512, 20668, 20698, 20712, 21037, 21149, 21755, 21909
TECHNICS	20250, 20556, 20650
TOSHIBA	20035, 20060, 20109, 20156, 20195, 20241, 20508, 20618, 20650, 20714, 20736, 21163, 21164, 21704
VICTOR	20053, 20653
YAMAHA	20650, 20769, 20797, 21405, 21406, 21407, 21576

ケーブルTVチューナー

メーカー名	リモコンコード
FUJITSU	11497
NEC	11496
PANASONIC	10375, 11488
PHILIPS	10817
PIONEER	11021, 11500
SAMSUNG	11060, 11666
SONY	11460
TOSHIBA	11509

BSデジタルチューナー

メーカー名	リモコンコード
AIWA	11514, 11515
DAEWOO	10713, 11111, 11296, 11743
HITACHI	11250, 11284, 11518, 11523, 11525
JVC	11507, 11531, 11532
KENWOOD	10853
LG	11075, 11226
MARANTZ	10200
NEC	11270, 11519
PANASONIC	10847, 11104, 11304, 11320, 11404, 11508, 11526, 11527, 11528
PHILIPS	10099, 10133, 10173, 10200, 10292, 10818, 10853, 10898, 11114, 11118, 11672
PIONEER	10292, 10329, 10352, 10853, 11308
SAMSUNG	10853, 11017, 11206, 11243, 11293, 11458, 11570
SANYO	11219
SHARP	10541, 11489, 11513, 11517
SONY	10282, 10292, 10639, 10847, 10853, 11524, 11558
TEAC	11225, 11227, 11251, 11322
TOSHIBA	11501, 11516, 11530

DVD プレーヤー

メーカー名	リモコンコード
AIWA	40533, 40641
AKAI	40766, 40770, 40788, 40790, 40898, 41115, 41233
DAEWOO	40705, 40714, 40770, 40833, 40869, 40872
DENON	40490, 40634, 41282, 41634
FUNAI	40675, 40695
HITACHI	40573, 40664, 40713
JVC	40503, 40539, 40558, 40623, 40867
KENWOOD	40490, 40534
LG	40591, 40741, 40790, 40801, 40869
MARANTZ	40539
MITSUBISHI	40713, 41521
NEC	40785, 40869
ONKYO	40503, 40627, 40792
PANASONIC	40490, 41282
PHILIPS	40503, 40539, 40675
PIONEER	40525, 40571, 41571
SAMSUNG	40490, 40573, 40744, 41075
SANSUI	40695, 40751, 40768
SANYO	40670, 40695, 40713, 40873
SHARP	40630, 40675, 40713, 41256
SONY	40533, 40573, 40772, 40864, 41033, 41633
TEAC	40516, 40571, 40695, 40741, 40759, 40768, 40790, 40809, 40833, 41006, 41197, 41483
TECHNICS	40490
TOSHIBA	40503, 40695
YAMAHA	40490, 40539, 41282, 41543

DVD レコーダー

メーカー名	リモコンコード
DENON	50490
FUNAI	50675
HITACHI	51664
JVC	51164, 51275
LG	50741
MITSUBISHI	51403
NEC	51404
PANASONIC	50490, 51010, 51011
PHILIPS	50646, 51158, 51818
PIONEER	50631, 51475, 51476
SAMSUNG	50490
SHARP	50630, 50675, 51419, 51550, 51556
SONY	51033, 51069, 51070, 51433
TOSHIBA	51510
VICTOR	51275

ビデオデッキ

メーカー名	リモコンコード
AIWA	30000, 30032, 30037, 30307, 30348, 30352
AKAI	30041, 30106, 30240, 30315, 30348, 30352, 30642
DAEWOO	30045, 30278, 30352, 30637, 30642
DENON	30042
FUJITSU	30000, 30045
FUNAI	30000
HITACHI	30000, 30037, 30041, 30042, 30081, 30166, 30240
JVC	30041, 30067, 30206, 31008, 31279
KENWOOD	30038, 30041, 30067
LG	30037, 30480
MARANTZ	30038, 30081
MITSUBISHI	30043, 30048, 30067, 30081, 30480, 30642
NEC	30037, 30038, 30041, 30067, 30104, 30278
PANASONIC	30162, 30226, 30836, 31244, 31562, 31807, 31808, 31809
PHILIPS	30081
PIONEER	30042, 30067, 30081, 30162
SAMSUNG	30045, 30240
SANSUI	30000, 30041, 30067, 30072, 30106
SANYO	30048, 30067, 30104, 30240
SHARP	30037, 30048
SHINTOM	30072, 30104
SONY	30000, 30032, 30033, 30034, 30106, 31032, 31636, 31972
TEAC	30000, 30037, 30041, 30278, 30307, 30637, 30642
TECHNICS	30081, 30162, 30226
TOSHIBA	30041, 30042, 30043, 30045, 30081, 30352, 30828, 31008, 31972
VICTOR	30041, 30067
YAMAHA	30038

CD プレーヤー

メーカー名	リモコンコード
AIWA	60157
AKAI	60156, 60362, 60643
DENON	60003, 60034, 60626
HITACHI	60032
KENWOOD	60028, 60157, 60190, 60626
LG	71208
MARANTZ	60029, 60157, 60626
MITSUBISHI	60156
ONKYO	60101, 61327
PANASONIC	60029, 60303
PHILIPS	60157, 60626
PIONEER	60032, 60101
SAMSUNG	60524
SANSUI	60157, 60625
SANYO	60179
SHARP	60034
SONY	60000
TEAC	60362, 60393, 60625, 60643
TECHNICS	60029, 60207, 60303
TOSHIBA	60299, 60481
YAMAHA	60036, 61907

CD レコーダー

メーカー名	リモコンコード
DENON	70626, 70766
JVC	71294
KENWOOD	70626
LG	71208
MARANTZ	70626
PHILIPS	70626
PIONEER	70192, 71087
SONY	70000
TEAC	70420
VICTOR	70072, 71294
YAMAHA	70888, 71292

MD プレーヤー

メーカー名	リモコンコード
DENON	70873
KENWOOD	70681
PIONEER	71063
SHARP	70861, 71684
SONY	70490
TECHNICS	71078
YAMAHA	70490, 70888, 71909

カセットデッキ

メーカー名	リモコンコード
AIWA	70029, 70197
AKAI	70189, 70283
DENON	70076
JVC	70244, 70273
KENWOOD	70070, 70205
MARANTZ	70029
MITSUBISHI	70189, 70283
ONKYO	70135, 70282
PANASONIC	70229
PHILIPS	70029, 70229
PIONEER	70027, 70220
SANSUI	70029
SHARP	70205, 70231
SONY	70170, 70243
TEAC	70283, 70289, 70308, 70309
TECHNICS	70229
VICTOR	70244, 70273
YAMAHA	70097, 70205, 70524

LD プレーヤー

メーカー名	リモコンコード
AIWA	40203
DENON	40059
FUNAI	40203
HITACHI	40395
KENWOOD	40258
MARANTZ	40064, 40194
MITSUBISHI	40059
PANASONIC	40204
PHILIPS	40064, 40194
PIONEER	40059
SHARP	40001
SONY	40193, 40201
TECHNICS	40204
VICTOR	40245
YAMAHA	40217

チューナー

メーカー名	リモコンコード
AIWA	80158, 80189
AKAI	80115, 80609
DENON	80004, 80273
JVC	80074
KENWOOD	80027, 80645
LG	80281
MARANTZ	80189
ONKYO	80103, 80119
PANASONIC	80309, 80518
PHILIPS	80189
PIONEER	80014
SANSUI	80189, 80609
SONY	80158
TEAC	80110, 80609
TECHNICS	80309, 80518, 81135
VICTOR	80074
YAMAHA	80293, 81908
	81916 (TUNER ID1), 81917 (TUNER ID2)

その他の機器

メーカー名	リモコンコード
YAMAHA (iPod)	81981

ライブラリーコードを変更する

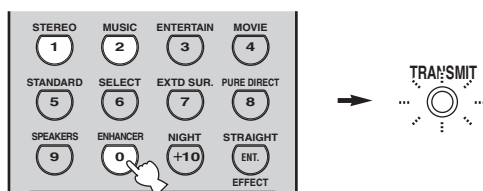
本機と本機以外のヤマハ製のアンプやチューナーを同時にお使いの場合、初期設定のライブラリーコードのままリモコンを使うと、本機以外のアンプやチューナーも動作してしまう場合があります。
本機のみをリモコンで操作できるように、ライブラリーコードの設定を変更することをおすすめします。

■ アンプライブラリーコードの設定

1 CODE SETボタンを押す。

ボールペンなどの先の細いもので押します。
リモコンのTRANSMITインジケーターが2回点滅します。

2 数字キーを押して「00001」または「00002」を入力する。

1桁入力するごとにTRANSMITインジケーターが1回点滅します。
5桁分が正しく入力された場合は、最後にTRANSMITインジケーターが1回点滅して、ライブラリーコードの設定が変わります。
正しく入力されなかった場合は、6回点滅します。

アンプライブラリーコード（リモコンの設定）	機能	アンプ用リモコンID（本体の設定）
00001（初期設定）	通常のライブラリーコードを使って本機を操作する。	ID1（初期設定）
00002	別系統のライブラリーコードを使って本機を操作する。	ID2

ご注意
アドバンストセットアップメニューの「REMOTE AMP（アンプ用リモコンID）」で、本体のアンプ用リモコンIDもあわせて設定する必要があります（☞92ページ）。

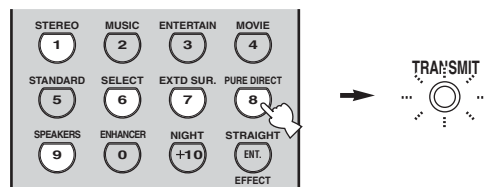
■ チューナーライブラリーコードの設定

1 TUNERキーを押す。

2 CODE SETボタンを押す。

ボールペンなどの先の細いもので押します。
リモコンのTRANSMITインジケーターが2回点滅します。

3 数字キーを押して「81916」または「81917」を入力する。

1桁入力するごとにTRANSMITインジケーターが1回点滅します。
5桁分が正しく入力された場合は、最後にTRANSMITインジケーターが1回点滅して、ライブラリーコードの設定が変わります。
正しく入力されなかった場合は、6回点滅します。

チューナーライブラリーコード（リモコンの設定）	機能	チューナー用リモコンID（本体の設定）
81916（初期設定）	通常のライブラリーコードを使って本機を操作する。	ID1（初期設定）
81917	別系統のライブラリーコードを使って本機を操作する。	ID2

ご注意
アドバンストセットアップメニューの「REMOTE TUN（チューナー用リモコンID)」で、本体のチューナー用リモコンIDもあわせて設定する必要があります（☞92ページ）。

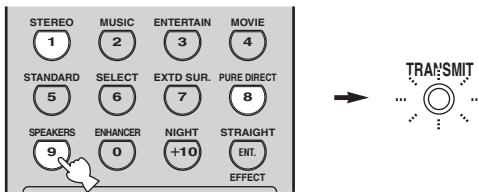
リモコンを初期化する

設定したリモコンコードを取り消して、初期状態に戻すことができます。

1 CODE SET ボタンを押す。

ボールペンなどの先の細いもので押します。
リモコンのTRANSMITインジケーターが2回点滅します。

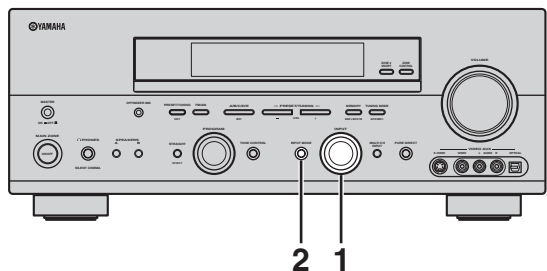
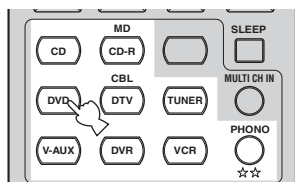
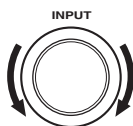
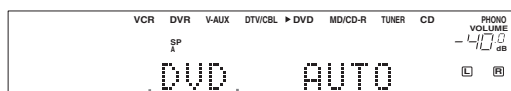
2 数字キーを押して、「9981」と入力する。

1桁入力するごとにTRANSMITインジケーターが1回点滅します。
4桁分が正しく入力された場合は、最後にTRANSMITインジケーターが1回点滅し、すべてのリモコンコードが取り消されます。

ヒント

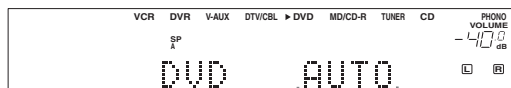
- 上記の手順1のあとに30秒以内にキーを押さないと、操作は取り消されます。この場合はもう1度手順1からやり直してください。
- 設定したリモコンコードを入力ごとに初期化したい場合は、「リモコンで操作する機器を設定する」の手順3で「9980」と入力します。

リモコンを使いこなす

デジタル信号／アナログ信号を切り替える（入力モード切り替え）

本機は、さまざまな種類の入力端子を装備しています。入力モードを切り替えることにより、入力信号のアナログ／デジタルの優先順位を設定したり、DTSなどの特定の信号に固定することができます。

1 本体のINPUTセレクターを回して入力ソースを選ぶ。またはリモコンの入力選択キーを押す。

リモコン　本体

入力ソース

2 本体のINPUT MODEキーを繰り返し押して入力モードを選ぶ。

通常はAUTOを選択します。

入力モード

AUTO：アナログ信号よりデジタル信号（*）が優先して選ばれます。

* ドルビーデジタル、DTS、AAC信号のいずれかが入力されると、自動的に最適なデコーダーに切り換わります。

DTS：DTS信号に固定されます。DTS信号以外の信号が入力されても再生されません。

AAC：AAC信号に固定されます。AAC信号以外の信号が入力されても再生されません。

ANALOG：アナログ信号に固定されます。デジタル信号が同時に入力されても再生されません。

ヒント

セットメニュー「INPUT MODE」の設定で、本機の電源を入れたときに、前回使っていた入力モードをそのまま使うか、AUTOに戻すかを設定できます（☞87ページ）。

■ デジタル信号のサンプリング周波数について

本機のデジタル入力端子は、サンプリング周波数96kHzまでのデジタル信号に対応しています。48kHzを超えるデジタル信号にHiFi DSPおよびCINEMA DSP音場プログラムの音場効果を付加する場合、またはナイトリスニングモードを適用する場合、サンプリング周波数は48kHz以下に変換されます。

■ DTS CD ／ DTS LDの再生について

- DTS CD、DTS LDを再生しているときは、入力モードをDTSに設定してください。
- プレーヤーから出力されるデジタル信号に、音量可変などの処理がされている場合は、本機とプレーヤーをデジタル接続してもDTS音声は再生されません。

スピーカーの音量を調節する

再生音を聴きながら、各スピーカーの音量を調節します。

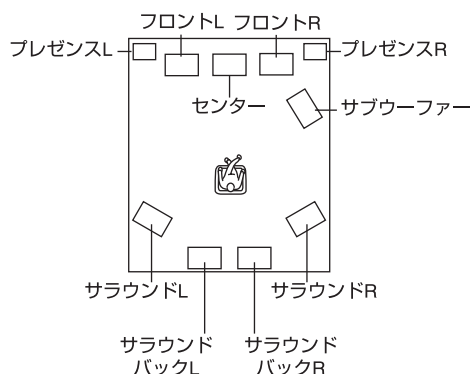
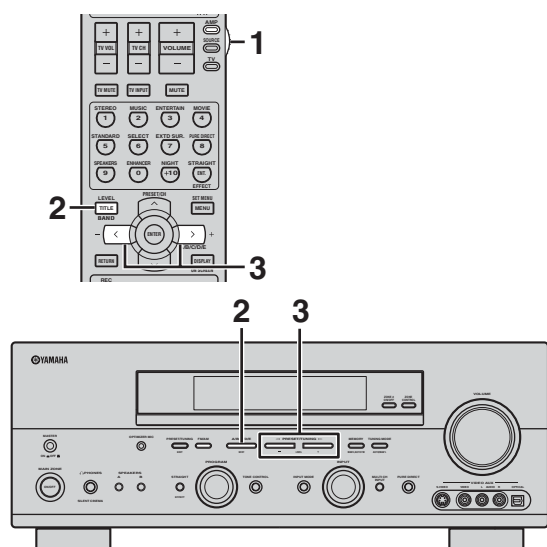
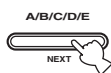
1 **操作機器選択スイッチをスライドさせて、アンプモードにする。**

2 **リモコンのLEVELキーを繰り返し押して、調節したいスピーカーを選ぶ。**
または本体のA/B/C/D/E（NEXT）キーを繰り返し押す。

リモコンのLEVELキーを1度押したあとは、∧／∨キーを使って選ぶこともできます。

リモコン　　本体

表示	スピーカー
FRONT L	フロントL
CENTER	センター
FRONT R	フロントR
SUR.R	サラウンドR
SUR.B L	サラウンドバックL
SUR.B R	サラウンドバックR
SUR.L	サラウンドL
SWFR	サブウーファー
PRNS L	プレゼンスL
PRNS R	プレゼンスR

ヒント

セットメニュー「SPEAKER SET」の「SUR. B L/R SP」を「LRGx1」または「SMLx1」に設定した場合、「SUR.B R」および「SUR.B L」は表示されません。かわりに「SUR.B」と表示され、1台のみの調節になります（☞65ページ）。

3 **リモコンの<または>キーを押して、スピーカーの音量を調節する。**
または本体のLEVEL −／＋キーを押す。

音量の調節範囲は、−10〜+10dBです。

リモコン　　本体

ヒント

- 「AUTO SETUP」（☞40ページ）やセットメニュー「SPEAKER LEVEL」（☞81ページ）で調節された音量は無効になります。
- MULTI CH INPUT端子に接続した機器を再生しているときは、独立して音量を調節できます。

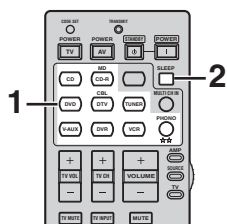
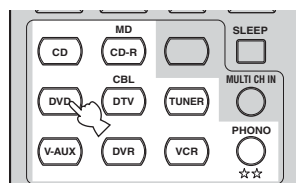
ご注意

- セットメニュー「SPEAKER SET」で「NONE」に設定されているスピーカーの音量は調節できません（☞78ページ）。
- セットメニュー「SPEAKER SET」の「LFE/BASS OUT」を「FRNT」に設定している場合、サブウーファーの調節はできません（☞79ページ）。

一定時間後に自動的にスタンバイにする（スリープタイマー）

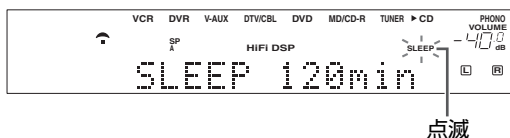
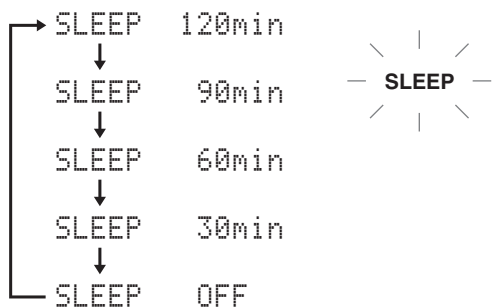
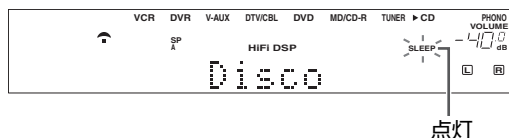
設定した時間が経過すると、自動的にスタンバイになるように設定します。聴きながら、または録音しながらおやすみになりたいときなどに便利です。スリープタイマーが作動すると、本機背面のACアウトレット（☞37 ページ）に接続した機器の電源も切れます。

スリープタイマーを設定する

リモコンで操作します。

1 リモコンの入力選択キーまたは本体のINPUTセレクターで入力（ソース）を選んで、再生をはじめる。

リモコン

2 リモコンのSLEEPキーを繰り返し押して、スタンバイになるまでの時間を選ぶ。

SLEEPキーを押すごとに、下記のように時間が切り替わります。その間はSLEEPインジケーターが点滅します。

点滅

SLEEPインジケーターが点灯に変わると、スリープタイマーの時間設定が完了し、ディスプレイは音場プログラム表示に戻ります。

点灯

スリープタイマーを解除する

「SLEEP OFF」の表示が出るまで、SLEEPキーを繰り返し押します。

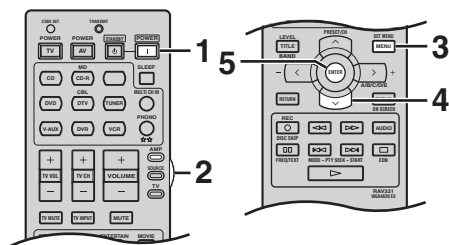
SLEEPインジケーターが消灯し、「SLEEP OFF」が数秒間表示されたあと、音場プログラムの表示に戻ります。

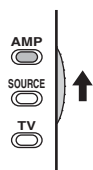
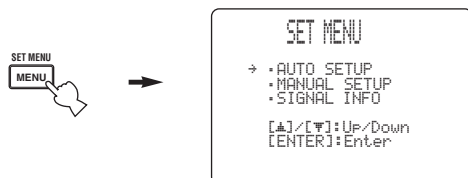
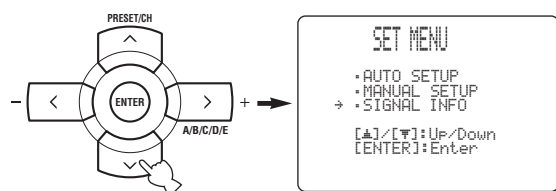
ヒント

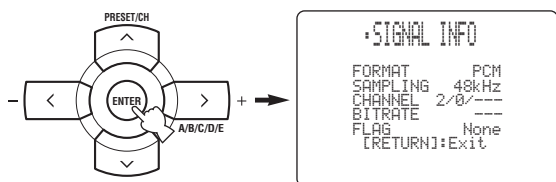
以下の操作をすると、スリープタイマーは解除されます。

- リモコンのSTANDBYキーを押す
- 本体のMAIN ZONE ON/OFFスイッチを押す
- 本体のMASTER ON／OFFスイッチを押す
- 電源コードを抜く

入力信号情報を表示する

入力信号のフォーマット、チャンネル数やサンプリング周波数などの情報を表示させることができます。

1 本機の電源を入れる。

2 操作機器選択スイッチをスライドさせて、アンプモードを選ぶ。

3 SET MENUキーを押す。

4 ∨キーを押して、SIGNAL INFOを選ぶ。

5 ENTERキーを押す。

入力信号の情報が表示されます。

ヒント

入力信号の情報は、フロントパネルディスプレイでも表示させることができます。

1 本機の電源を入れる。
2 操作機器選択スイッチをスライドさせて、アンプモードにする。
3 リモコンの入力選択キーを押して、情報を見たい入力を選ぶ。
4 リモコンのSTRAIGHT／EFFECTキーを押す。
5 リモコンの∧または∨キーを押す。

FORMAT

入力信号の種類をあらわします。

表示	フォーマット
Analog	アナログ
PCM	PCM
DolbyD	ドルビーデジタル
DTS	DTS
AAC	AAC
Unknown Digital	不明な信号

SAMPLING

入力信号のサンプリング周波数(デジタル信号入力時のみ)です。サンプリング周波数が不明の場合は、「−−−」と表示されます。

CHANNEL

入力信号の音声チャンネル数（ドルビーデジタル／DTS／AAC入力時のみ）です。例えば、「3/2/0.1」と表示された場合は、「フロント３チャンネル／サラウンド２チャンネル／LFE0.1チャンネル」を示しています。また、二カ国語放送などの主＋副の２チャンネル音声は「１＋１」と表示されます。

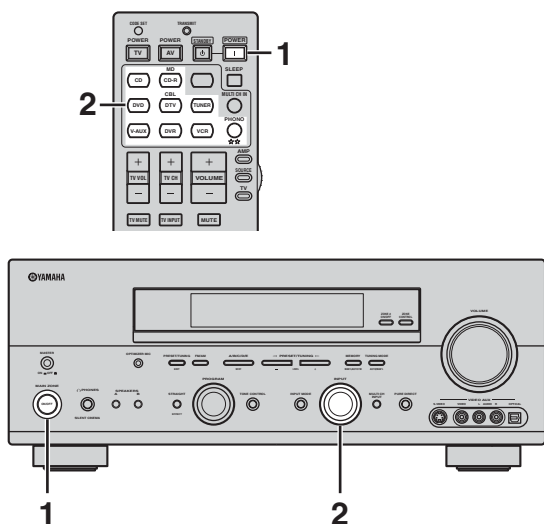
BITRATE

入力信号の１秒あたりのデータ量＝ビットレート(ドルビーデジタル／DTS／AAC入力時のみ)をあらわします。

FLAG

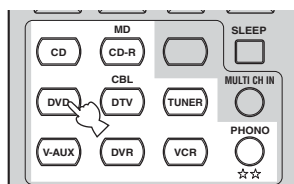
入力信号に含まれている、ある動作をさせるための識別信号=フラグ(ドルビーデジタル／DTS／PCMのみ)をあらわします。

外部機器で録音／録画する

本機に接続した録音／録画機器で、音声や映像を録音／録画できます。

1 **本機と本機に接続されているすべての機器の電源を入れる。**

リモコン　　本体

2 **リモコンの入力選択キー、または本体のINPUT セレクターで録音／録画したい入力（ソース）を選ぶ。**

リモコン　　本体

3 **録音／録画する音声や映像を再生する。**

再生する機器の取扱説明書をご覧ください。
FM／AM 放送を録音したいときは、放送局を選局します（☞49 ページ）。

4 **録音／録画を開始する。**

録音／録画する機器の取扱説明書をご覧ください。

ヒント

- 録音／録画する前に、あらかじめ「試し録音」「試し録画」をしてください。

- 録音されるレベルの調節や操作は、それぞれの録音機器で行います。お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- 本機をスタンバイにすると、接続した機器間で録音／録画できません。
- 入力ソースの出力端子からは、信号は出力されません（例：DVR入力端子へ入力された信号は、DVR出力端子から出力されません）。
- 本機のDSP処理による音場効果は、録音できません。
- 録音中に以下の操作を行っても、録音される音声には影響しません。
  －音量を調節する。
  －音質を調節する（TONE CONTROL機能）。
  －スピーカーレベルを変更する。
  －音場プログラムを変更する。
- MULTI CH INPUT端子に入力された信号は、録音できません。
- アナログ音声出力端子から、アナログで録音する場合は、録音したい入力ソースをアナログで接続します。また、光デジタル出力端子から、デジタルで録音する場合は、録音したい入力ソースをデジタルで接続します。
- Sビデオ入力端子に入力されたSビデオ信号は、Sビデオ出力端子からのみ録画できます。同様に、ビデオ入力端子に入力されたコンポジットビデオ信号は、ビデオ出力端子からのみ録画できます。ビデオコンバージョン機能は作動しません。
- あなたが録音したものは、個人で楽しむ場合以外は、著作権者に無断で使用することはできません。
- コピー防止機能のあるビデオを再生すると、画像が乱れる場合があります。

■ DTS CD ／ DTS DVD 音声の録音／再生について

DTS信号はデジタルビットストリームで伝送されるため、DTS信号をデジタル録音したものをデコーダーを通さずに再生するとノイズだけが再生されます。

- DTS CDまたはDTS DVDの音声をデジタル録音したものを再生する場合は、デコーダーを通して再生してください。
- DTS CDの音声を録音する場合は、DTSデコーダー内蔵のDVDプレーヤーからアナログで録音することをおすすめします。

詳しくは、お使いのプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

iPod® の再生を楽しむ

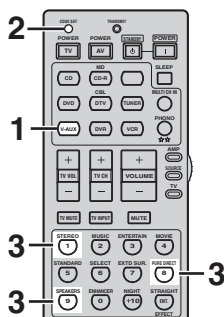
リアパネルのDOCK端子にヤマハ製ドック（別売YDS-10など）を接続し、iPod（クリックホイール、nano、mini）をセットすることでiPodに保存された音楽や映像を楽しむことができます。iPodの操作は、iPod本体で行うほかに、本機のリモコンで操作したり、OSD画面を見ながら操作することもできます。ヤマハ製ドックの接続については、「ヤマハ製ドックを接続する」（☞34 ページ）をご覧ください。

ヒント
- 本機の電源がオンのときは、ヤマハ製ドック（別売YDS-10など）にセットしたiPodは自動的に充電されます。
- コンプレストミュージックエンハンサーモードで、よりダイナミックな再生音を楽しめます（☞69 ページ）。

ご注意

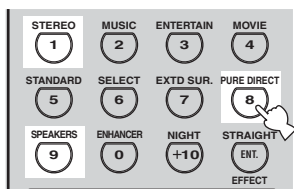
iPodの種類やソフトウェアのバージョンにより、一部の機能が使えない場合があります。

リモコンにiPod操作用のコードを設定する

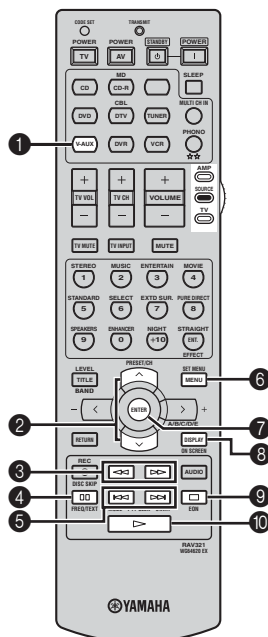
リモコンでiPodを操作するための設定をします。

1 リモコンのV-AUXキーを押す。

2 CODE SETボタンを押す。

ボールペンなど先の細いもので押します。
リモコンのTRANSMITインジケーターが2回点滅します。

3 数字キーを押して、「81981」を入力する。

TRANSMITインジケーターが素早く6回点滅した場合は、数字が正しく入力されていません。もう1度入力し直してください。

iPodを操作する

リモコンでiPodを操作したいときは、操作機器選択スイッチをSOURCEにセットします。iPodの操作に使うキーは、下図の白色で示した部分です。

❶ ヤマハ製ドックにセットしたiPodを入力選択します。
❷ 上 / 下のメニューにカーソルを移動します。
❸ 巻き戻し / 早送りします（長押し）。
❹ 一時停止します。
❺ 再生中の曲の先頭または次の曲の先頭にスキップします（2回押すと、前の曲の先頭にスキップします）。
❻ 1つ前の表示に戻ります。
❼ 選択したメニューに入ります。
❽ OSDモードに入ったり、終了したりします。
❾ 再生を停止します。
❿ 再生します。

ノーマルモードで操作する

iPodをヤマハ製ドック（別売YDS-10など）にセットすると、ノーマルモードに入ります。ノーマルモードでは、OSDを表示させずに、以下の基本的な操作をすることができます。
- 再生
- 停止
- 巻戻し
- 早送り
- スキップ
- メニュー画面の操作

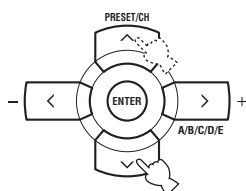
ヒント
iPod本体でも基本的な操作をすることができます。

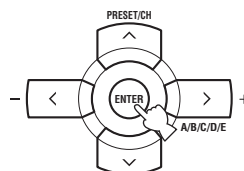
OSDモードで操作する

OSDに表示されるメニュー画面を見ながら、基本的な操作をしたり、お好みに合わせて設定を変更することができます。また、コンテンツの情報を見たり、本機の動作状況などを確認することもできます。
操作にはリモコンを使用します。

ご注意
- 映像系のファイルはOSDモードで選択できません。ノーマルモードで再生してください。
- 本機が認識できない文字は「 _ 」（アンダーバー）と表示されます。

1 DISPLAYキーを押す。

2 ∧または∨キーを繰り返し押して、設定したいメニューを選ぶ。

3 ENTERキーを押す。

選択したメニューに入ります。

選択項目： Playlists（プレイリスト）
Artists（アーティスト）
Albums（アルバム）
Songs（曲名）
Genres（ジャンル）
Composers（作曲者）
Setup（設定）

- Playlists → Songs
- Artists → Albums → Songs
- Albums → Songs
- Songs
- Genres → Artists → Albums → Songs
- Composers → Albums → Songs
- Setup → Shuffle、Repeat、Onscreen、FL Scroll

■ Shuffle

曲やアルバムの順番をランダムに再生します。

選択項目： Off、Songs、Albums

Off：ランダム再生しません。

Songs：曲の順番をランダムに再生します。

Albums：アルバムの順番をランダムに再生します。

ヒント
「Songs」または「Albums」を選択しているときは、OSD画面右上に「S」が反転表示されます。

■ Repeat

曲やアルバムを繰り返し（リピート）再生します。

選択項目： Off、One、All

Off：リピート再生しません。

One：選んだ曲をリピート再生します。

All：すべての曲をリピート再生します。

ヒント
「One」または「All」を選択しているときは、OSD画面右上に「R」が反転表示されます。

■ Onscreen

iPodを操作したときに、OSDを表示する時間を設定します。

選択項目： Always、5s、10s

初期設定： Always

Always：iPodを選択しているときは常に表示します。

5s：5秒間表示します。

10s：10秒間表示します。

■ FL Scroll

コンテンツの情報などがフロントパネルディスプレイに表示されるときに、14文字を超える場合の表示方法を設定します。

選択項目： Cont、Once

初期設定： Cont

Cont：すべての文字をスクロールしながら表示します。

Once：最初の文字から14文字目までを1度に表示します。

4 OSDモードを終了するときは、DISPLAYキーを押す。

■ iPod接続時のメッセージについて

本機に接続したヤマハ製ドック（別売YDS-10など）にiPodをセットしたときに、フロントパネルディスプレイに表示されるメッセージの一覧です。

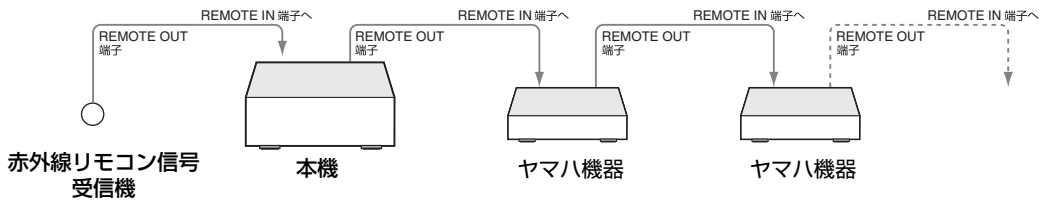
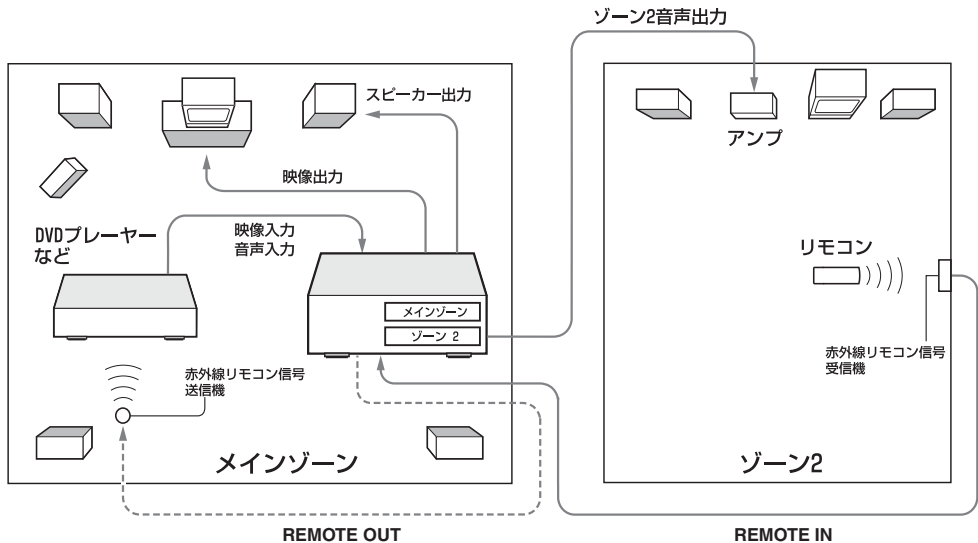
メッセージ	内容
Loading...	iPodとの接続を確認中です。 iPodから曲リストを取得中です。
Connect error	iPodが正しく接続されていません。 iPodとの通信に問題が発生しています。
Unknown iPod	本機に対応していない種類のiPodが接続されています。
iPod connected	iPodがヤマハ製ドックに正しく接続されました。
Disconnected	iPodがヤマハ製ドックから取り外されました。
Unable to play	何らかの原因で再生できません。

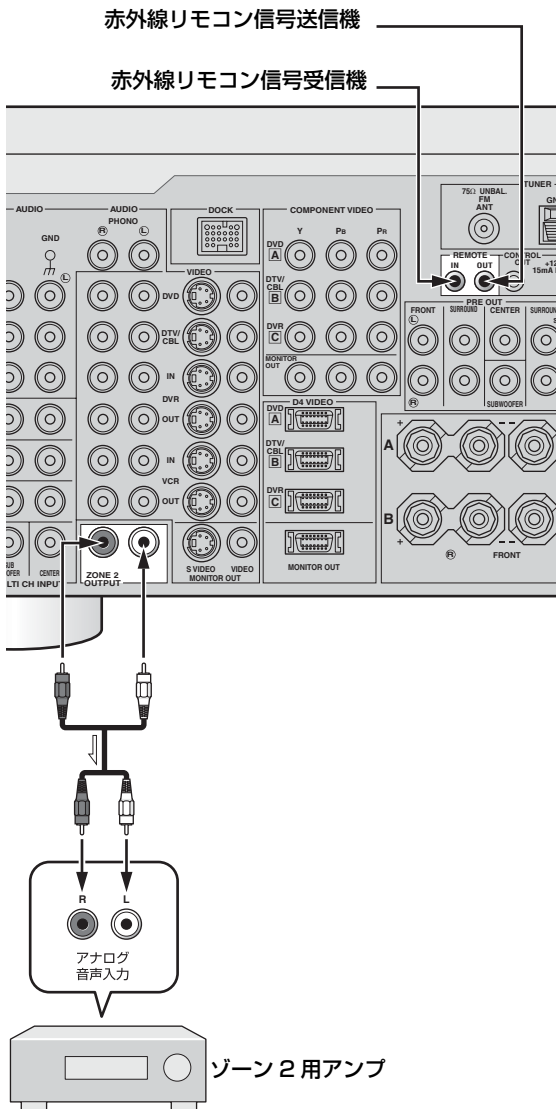
マルチゾーン機能

本機を使って、本機を設置した部屋（メインルーム）とほかの部屋（ゾーン２）で、異なるソースを楽しむことができます。たとえば、メインルームでDVDを見ているときに、ゾーン2ではCDを聴くことができます。

ゾーン２との接続

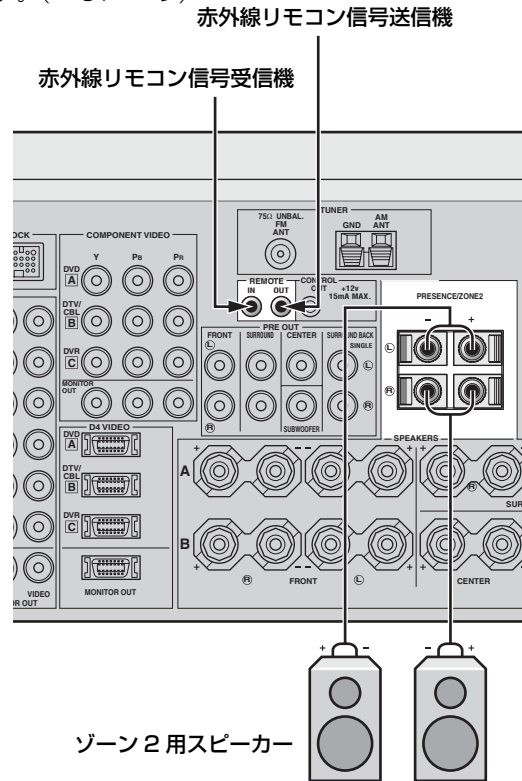
外部アンプを使う場合はゾーン２用アンプを、内部アンプを使う場合はゾーン２用スピーカーを接続します。
マルチゾーン機能を使うには、以下の機器が必要です。
- 赤外線リモコン信号受信機（ゾーン２に設置します。）
- 赤外線リモコン信号送信機（メインゾーンに設置します。）
- アンプとスピーカー（ゾーン２に設置します。）

ヒント
- 本機をマルチゾーンでお使いになるときには、お買上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点にご相談されることをおすすめします。
- 本機のREMOTE OUT端子に直接接続することができるヤマハ製品をお持ちの場合は、赤外線リモコン信号送信機は必要ありません。また、６台までのヤマハ製品を下図のように接続できます。

■ ゾーン２の設置・接続例

■ ゾーン２用アンプを接続する

本機のZONE 2 AUDIO OUTPUT端子を、外部アンプのアナログ音声入力端子に接続します。
セットメニュー「MALTI ZONE SET」の「ZONE2 AMP」を「EXT」に設定してください。（☞91 ページ）

ご注意

- メインルームで本機を使用していないときは、メインゾーンの電源をオフにしてください。ゾーン２の音量および音質は、ゾーン２に設置したアンプで調節してください。
- 本機のZONE 2 AUDIO OUTPUT端子からは、本機のアナログ音声入力端子へ接続した機器の音声のみ出力されます。
- ゾーン２でDTS-CDを再生しないでください。ノイズが出力されることがあります。

■ ゾーン２用スピーカーを接続する

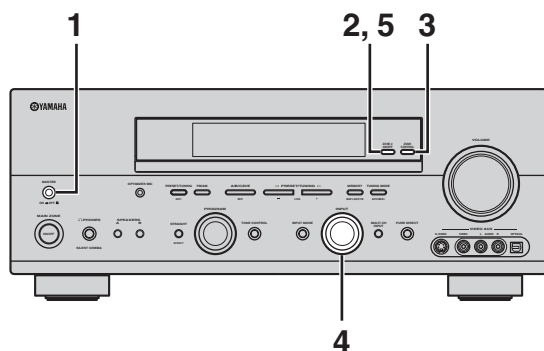
ゾーン２用スピーカーをPRESENCE／ZONE2端子に直接接続します。セットメニュー「MALTI ZONE SET」の「ZONE2 AMP」を「INT」に設定してください。（☞91 ページ）

安全上のご注意

本機のPRESENCE/ZONE2端子に、スピーカーセレクターを接続しないでください。また、同端子の各チャンネルに２本以上のスピーカーを接続しないでください。インピーダンスが低下して本機が故障する原因になります。
この取扱説明書をよく読み、正しく接続してください。この際、すべてのチャンネルのインピーダンス下限値を必ず守ってください。インピーダンス下限値は、本機のリアパネルに表示されています。

ゾーン２を操作する

フロントパネルスイッチとリモコンキーで、下記の操作をすることができます。リモコンキーで操作するには、リモコンをゾーン２操作用に設定する必要があります。詳しくは「リモコンを設定する」をご覧ください。
- 入力ソースの選択
- チューナーモード時の選局

〈本機の内部アンプを使用する場合のみ〉
- 音量の調節
- 音声ミュート

■ フロントパネルでの操作

1 MASTER ON ／ OFF スイッチが ON になっていることを確認する。

OFF になっている場合は、スイッチを押して ON にしてください。

2 ZONE 2 ON/OFF スイッチを押す。

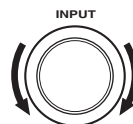
ゾーン２の電源がオンになります。フロントパネルディスプレイに ZONE2 インジケーターが点灯します。

3 ZONE CONTROL キーを押す。

フロントパネルディスプレイに ZONE2 インジケーターが点滅します。点滅している間は、ゾーン２を操作できます。このとき、フロントパネルディスプレイにはゾーン２の情報が表示されます。

ヒント
ZONE2 インジケーターが点滅していないときは、メインゾーンを操作できます。このとき、フロントパネルディスプレイにはメインゾーンの情報が表示されます。

ご注意
手順３～４の操作は、ZONE CONTROL キーを押してから５秒以内に行ってください。そのままにしておくと設定が自動的に中止されます。この場合は、もういちど ZONE CONTROL キーを押して、操作しなおしてください。

4 INPUT セレクターを回して、入力ソースを選ぶ。

ヒント
セットメニュー「MALTI ZONE SET」の「ZONE2 AMP」を「INT」に設定し、本機の内部アンプを使ってゾーン２での再生をお楽しみの場合は、音量の調節、音量ミュートを操作できます。

5 ZONE 2 ON/OFF スイッチを押す。

ゾーン２の電源がスタンバイになります。

■ リモコンを設定する

リモコンをゾーン２用に設定すると、ゾーン２からリモコンを使って入力ソースを選択したり、メインルームに設置した機器を操作することができます。

1 CODE SET ボタンを押す。

ボールペンなどの先の細いもので押します。
リモコンの TRANSMIT インジケーターが２回点滅します。

2 数字キーを押して「9992」を入力する。

■ リモコンでの操作

リモコンは通常の状態ではメインゾーン操作モードになっていて、TRANSMIT インジケーターは消灯しています。ゾーン２を操作するには、リモコンをゾーン２操作モードに切り替えて使います。ゾーン２操作モードに切り替わると、TRANSMIT インジケーターが点灯します。

メインゾーンの電源がオンのとき

1-a POWERキーを押しながら ☆☆ キーを押す。

リモコンがゾーン２操作モードに切り替わり、TRANSMIT インジケーターが点灯します。

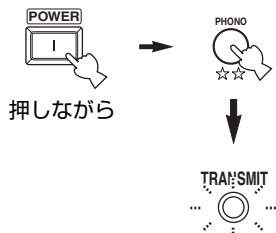
メインゾーンの電源がオフのとき

1-b STANDBYキーを押しながら ☆☆ キーを押す。

リモコンがゾーン２操作モード切り替わり、TRANSMIT インジケーターが点灯します。

2 POWERキーを押す。

ゾーン２の電源がオンになります。

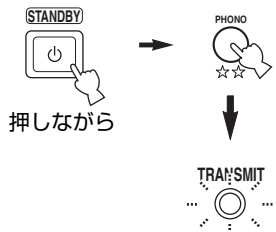
3 入力選択キーを押して、ゾーン２で聴きたい入力ソースを選ぶ。

ヒント

リモコンでは、ゾーン２の電源オン／オフの切り替え、入力ソースの選択、音声ミュートを操作できます。また、セットメニュー「MALTI ZONE SET」の「ZONE2 AMP」を「INT」に設定し、本機の内部アンプを使ってゾーン２での再生をお楽しみの場合は、音量の調節も操作できます。その他の機能を操作すると、メインゾーンが動作します。

ご注意

ゾーン２操作用以外のキーを押すか、リモコンを操作してから約 10 秒経過するとTRANSMIT インジケーターが消灯し、メインゾーンの操作モードに戻ります。

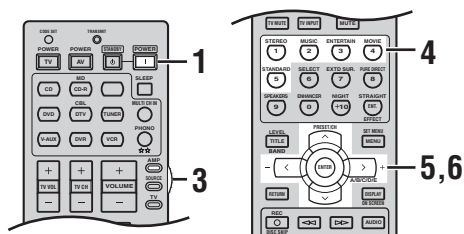
4 STANDBYキーを押す。

ゾーン２の電源がスタンバイになります。

音場プログラムパラメーターを変更する

各音場プログラムのパラメーターは、初期設定のままで十分お楽しみいただけますが、音場プログラムの一部のパラメーターを変更することにより、ソースやリスニングルームの音響にあわせて音場プログラムをアレンジできます。

ご注意

セットメニュー「MEMORY GUARD」を「ON」に設定しているとパラメーターを変更できません。変更する前に「OFF」に設定してください(☞90 ページ)。

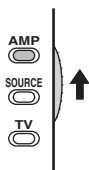
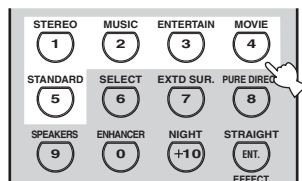
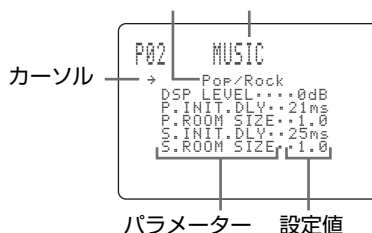
リモコンで操作します。

1 本機とテレビの電源を入れる。

2 テレビの映像入力を切り替えて、本機の映像に合わせる。

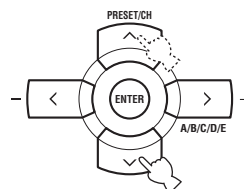
詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

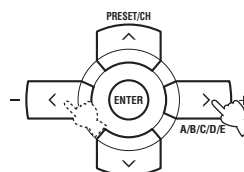
ヒント

例えば、本機がテレビのビデオ入力端子２に接続されている場合は、ビデオ入力２を選びます。

3 操作機器選択スイッチをスライドさせて、アンプモードを選ぶ。

4 音場プログラムキーを押して、音場プログラムを選ぶ。

右上の OSD 表示へ

ご注意

ピュアダイレクトモードはパラメーターを変更できません。(☞67 ページ)

5 ∧または∨キーを押して、変更したいパラメーターを選ぶ。

6 ＜または ＞ キーを押して、設定値を変更する。

＜キーを押すと設定値が小さくなり、＞キーを押すと設定値が大きくなります。

ヒント

パラメーターを初期設定に戻したいときは、初期設定値でいったん表示が止まるまで＜または＞キーを押し続けます。

7 ほかの音場プログラムのパラメーターを変更する場合は、手順４～６を繰り返す。

パラメーターを初期設定に戻す

セットメニュー「PARAM. INI」で、音場プログラムごとにすべてのパラメーターを初期設定に戻すことができます(☞90 ページ)。

音場プログラムパラメーターガイド

音場プログラムごとにDSP処理の構造が違います。以下のパラメーターはすべての音場プログラムで設定できるわけではありません。

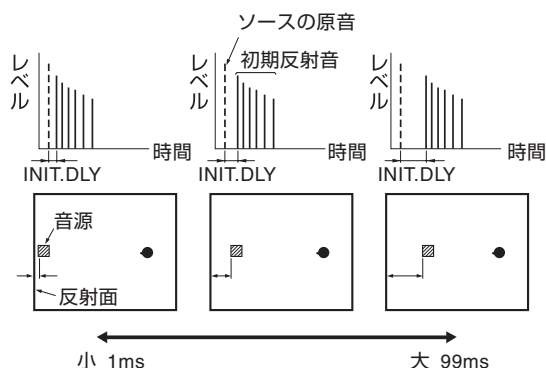
■ DSP LEVEL（エフェクト量の調節）

エフェクト量（音場効果のかかり具合）を微調節するパラメーターです。視聴環境にあわせて、直接音のレベルを確認しながら音場効果のかかり具合を変更できます。

可変範囲： －６～＋３dB

■ INIT. DLY（遅延時間の調節）

直接音から初期反射音が始まるまでの時間（遅延時間）を調節するパラメーターです。初期反射音の遅れは、音源と反射面との距離によって決まります。つまり、遅延時間を短くすると、音源が壁面に近づいた感じになり、逆に遅延時間を長くすると、音源は壁面から離れた感じになります。DELAYを調節することにより、ソースの原音から周りの壁までの距離感、空間の大きさ感、音像のできかた等が調節できます。通常はリスニングルームの大きさに比例させて設定します。

可変範囲： １～99ms

■ DIALG.LIFT（セリフの位置調節）

会話など、中央に定位する音の、定位位置（上下方向）を調節するパラメーターです。値を大きくすると上方に定位します。

可変範囲： ０～５

ご注意

セットメニュー「PRIORITY」をSBchに設定して、6.1チャンネルまたは7.1チャンネルで再生しているときは、プレゼンス成分がフロントL/Rスピーカーに振り分けられて出力されるため、DIALG. LIFTパラメーターを調節しても効果はありません。

■ DIRECT（２チャンネルソースのデコード設定）

「AUTO」に設定すると、本機のデコーダーをバイパスして２チャンネルアナログソースが出力されます。

ナイトリスニングモードが「OFF」の状態で、音色の調節（TONE CONTROL）で「BASS」および「TREBLE」が「0dB」に設定されている場合のみ、有効になります。

選択項目： AUTO ／ OFF

初期設定： AUTO

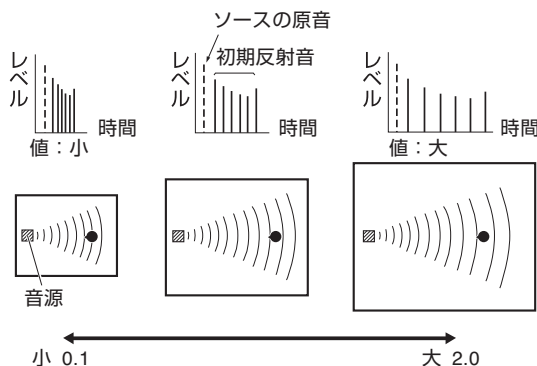
ご注意

- ドルビーデジタル、DTS、またはAACのマルチチャンネル信号が入力されると２チャンネル（フロントL／Rスピーカー）に振り分けられます。
- 以下の場合はフロントL／Rスピーカーの低音はサブウーファーから出ます。
  - セットメニュー「SPEAKER SET」の「LFE/BASS OUT」が「BOTH」に設定されているとき。
  - セットメニュー「SPEAKER SET」の「FRONT SP」が「SMALL」に設定されていて、「LFE/BASS OUT」が「SWFR」に設定されているとき。

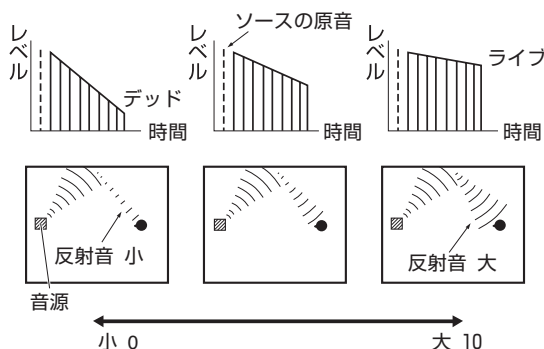
■ ROOM SIZE（空間の大きさ調節）

空間の広がり感を調節するパラメーターです。値を大きくするほど広い空間（部屋）になり、値を小さくするほど狭い空間になります。音が反射を繰り返すとき、壁と壁の間が広い大きなホールほど、反射音と反射音の時間的な間隔が長くなります。このことから、反射音同士の時間間隔を調節すれば、広がり感を変えることができるということになります。1.0で実測値そのまま、2. 0にすると、１辺の長さが倍の空間になります。

可変範囲： 0.1 ～ 2.0

オリジナルのリスニング環境をつくる

■ LIVENESS（反響量の調節）

初期反射音の減衰特性を決めるパラメーターです。値を大きくするほど、ライブな（反響が多い）音場になり、値を小さくするほどデッドな（反響が少ない）音場になります。実際のホールでのライブ感/デッド感は、反射面の吸音特性によって決定され、反射音の減衰が早ければデッドに、遅ければライブに感じられます。

可変範囲： 0 ～ 10

■ P.INIT.DLY
（プレゼンス音場の遅延時間の調節）

直接音が出てから、プレゼンス音場が発生するまでの時間を調節するパラメーターです。値を大きくするほど、プレゼンス音場が遅れて発生します。

可変範囲： 1 ～ 99ms

■ P.ROOM SIZE
（プレゼンス音場の空間の大きさ調節）

プレゼンス音場の広がり感を調節するパラメーターです。値を大きくするほど、プレゼンス反射音同士の時間間隔が長くなり、ソースに含まれる音楽や効果成分に広がり感が出てきます。

可変範囲： 0.1 ～ 2.0

■ S.INIT.DLY
（サラウンド音場の遅延時間の調節）

直接音が出てから、サラウンド音場が発生するまでの時間を調節するパラメーターです。値を大きくするほど、サラウンド音場が遅れて発生します。

可変範囲： 1 ～ 49ms

■ S.ROOM SIZE
（サラウンド音場の空間の大きさ調節）

サラウンド音場の広がり感を調節するパラメーターです。値を大きくするほど、サラウンドの音場空間が広がります。

可変範囲： 0.1 ～ 2.0

■ S. LIVENESS
（サラウンド音場の反響量の調節）

サラウンド音場の減衰量を調節するパラメーターです。値を大きくするほど、サラウンド音場の響きが強くなります。

可変範囲： 0 ～ 10

■ SB INI.DLY
（サラウンドバック音場の遅延時間の調節）

直接音が出てから、サラウンドバック音場が発生するまでの時間を調節するパラメーターです。値を大きくするほど、サラウンドバック音場が遅れて発生します。
6.1 または 7.1 チャンネルで再生しているときのみ有効です。

可変範囲： 1 ～ 49ms

■ SB RM SIZE
（サラウンドバック音場の空間の大きさ調節）

サラウンドバック音場の広がり感を調節するパラメーターです。値を大きくするほど、サラウンドバックの音場空間が広がります。
6.1 または 7.1 チャンネルで再生しているときのみ有効です。

可変範囲： 0.1 ～ 2.0

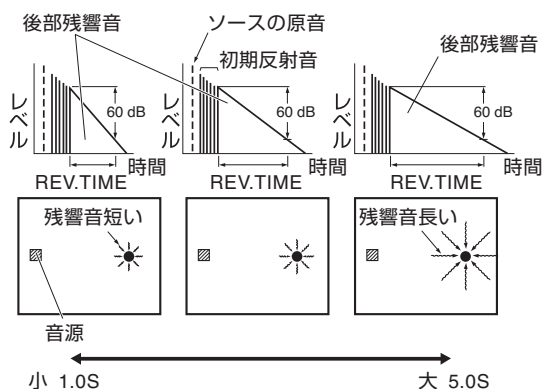
■ SB LIVENES
（サラウンドバック音場の反響量の調節）

サラウンドバック音場の減衰量を調節するパラメーターです。値を大きくするほど、サラウンドバック音場の響きが強くなります。
6.1 または 7.1 チャンネルで再生しているときのみ有効です。

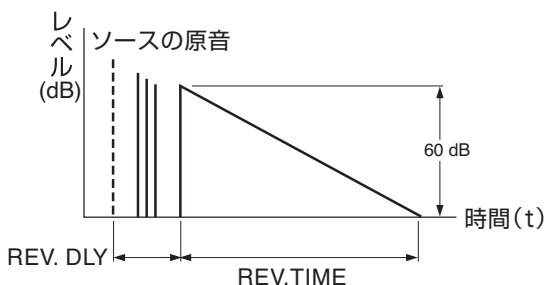
可変範囲： 0 ～ 10

■ REV. TIME（残響時間の調節）

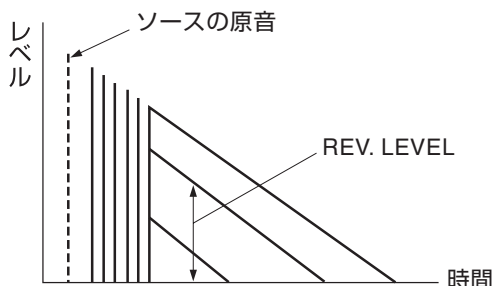
後部残響音が減衰していく時間を調節するパラメーターです。約1kHzの残響音が60dB減衰するのにかかる時間を基準にしています。値を小さくするほど、残響音が早く減衰します。REV. TIMEを調節することにより、反響が少なめのソースやリスニングルームに少し長めの残響時間を設定したり、逆に反響が多めのソースやリスニングルームには、短い残響時間を設定して自然な残響音となるように調節することができます。

可変範囲：1.0～5.0s

■ REV. DLY（残響音の遅延時間の調節）

残響音が発生し始めるまでの時間を調節するパラメーターです。値を大きくするほど、残響音が初期反射音より遅れて発生するようになります。同じREV. TIMEでも、REV. DLYを長くしていくと大きな空間の残響感になります。

可変範囲： 0～250ms

■ REV. LEVEL（残響音の強さ調節）

後部残響音のレベルを調節するパラメーターです。値を大きくするほど後部残響音のレベルが大きくなり、余韻が強く感じられます。

可変範囲： 0～100%

■ CT LEVEL（センターチャンネルの音量調節）

7ch Stereoプログラムでの、センターチャンネルの音量を調節します。

可変範囲： 0～100%

■ SL LEVEL
（サラウンドLチャンネルの音量調節）

7ch Stereoプログラムでの、サラウンドLチャンネルの音量を調節します。

可変範囲： 0～100%

■ SR LEVEL
（サラウンドRチャンネルの音量調節）

7ch Stereoプログラムでの、サラウンドRチャンネルの音量を調節します。

可変範囲： 0～100%

■ SB LEVEL
（サラウンドバックチャンネルの音量調節）

7ch Stereoプログラムでの、サラウンドバックチャンネルの音量を調節します。

可変範囲： 0～100%

以下のパラメーター（PANORAMA、DIMENSION、CT WIDTH、C. IMAGE）は、SUR. STANDARDが音場プログラムに選ばれているときのみ設定することができます。

■ PANORAMA（フロント音場の広がり感の調節）

PRO LOGIC II MusicおよびPRO LOGIC IIx Musicプログラムでの、フロント音場の広がり感を調節するパラメーターです。フロントL／Rの音声を左右に大きく回り込ませることで、サラウンド音場につながるような広がり感を得ることができます。

選択項目： ON ／ OFF

初期設定： OFF

■ DIMENSION（フロント音場とサラウンド音場のレベル差の調節）

PRO LOGIC II MusicおよびPRO LOGIC IIx Musicプログラムでの、フロント音場とサラウンド音場のレベル差を調節するパラメーターです。再生するソフトによって生じる、フロントとサラウンドのレベル差を調節して、好みのバランスにすることができます。－（マイナス）にするとサラウンド側、＋（プラス）にするとフロント側が強くなります。

可変範囲： －３～STD（標準）～＋３

初期設定： STD

■ CENTER WIDTH（センター音声の広がりの調節）

PRO LOGIC II MusicおよびPRO LOGIC IIx Musicプログラムでの、センター音声の左右への広がりを調節するパラメーターです。センターからの音声を、好みに合わせて左右に振り分けることができます。0にするとセンターのみ、7にするとフロントL／Rのみからセンター音声が出力されます。

可変範囲： ０～７

初期設定： ３

■ C. IMAGE（フロント音場の広がり感の調節）

DTS Neo:6 Musicプログラムでの、フロント音場の広がり感を調節するパラメーターです。値を小さくするとフロント音場の広がりが大きくなり、大きくすると狭く（センターへの定位が強く）なります。

可変範囲： 0.0 ～ 1.0

初期設定： 0.3

故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に作動しなくなった場合は、下記の点をご確認ください。対処しても正常に作動しない、または下記以外で異常が認められた場合は、本機の電源をオフにし、電源プラグを抜いて、お買上店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問い合わせください。

全般

症状	原因	対策	参照ページ
電源を入れてもすぐに切れてしまう、またはMAIN ZONE ON/OFFスイッチ（またはPOWERキー）を押しても電源が入らない	電源コードがしっかり接続されていない。	電源コードをACコンセントにしっかりと差し込んでください。	37
	スピーカーコードがショートした状態で電源を入れたため、保護回路により電源が切れた。	すべてのスピーカーケーブルが本機とスピーカーに正しく接続されているか確認してください。	18
	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう１度差し込んでください。	−
	MASTER ON／OFFスイッチがOFFになっている。	ONにしてください。	37
使用中に突然電源が切れる	スリープタイマーが作動した。	電源を入れて、ソースを再生しなおしてください。	−
	機器内部の温度が上昇したため、保護回路が働き電源が切れた。	温度が下がるのを待って（約１時間程度）、電源を入れなおしてください。	−
オンスクリーン表示が出ない	オンスクリーン表示の設定が「OFF」になっている。	フル表示またはショート表示に設定してください。	39
	セットメニュー「DISPLAY SET」の「GRAY BACK」が「OFF」に設定されている。	映像信号が入力されていないときは、表示されません。常に表示させる場合は、「AUTO」に設定してください。	89
	セットメニュー「DISPLAY SET」の「VIDEO CONV.」が「OFF」に設定されている。	「ON」に設定してください。	89
音声が出ない	再生機器がしっかり接続されていない。	接続を確認してください。接続に問題が無いときはケーブルに不具合がある場合があります。	23 ～ 34
	（ドルビーデジタルまたはAACの音声が出ない場合）入力モードが「DTS」または「ANALOG」に設定されている。	「AUTO」に設定してください。	104
	再生したい入力ソースが正しく選ばれていない。	本体のINPUTセレクターやリモコンの入力選択キー、本体のMULTI CH INPUTキー（またはリモコンのMULTI CH INキー）で、再生したい入力ソースを正しく選んでください。	47
	スピーカーがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	18
	音を出すフロントスピーカーが、正しく選ばれていない。	リモコンのSPEAKERSキーまたは本体のSPEAKERS A／Bスイッチで、フロントスピーカーを正しく選んでください。	47
	音量が小さい。	音量を大きくしてください。	52
	消音されている。	リモコンのMUTEキーを押して（または本体のVOLUMEコントローラーを回して）消音を解除し、音量を調節してください。	52
	DTS信号でコード化されたソースを再生しているのに、入力モードが「ANALOG」に設定されている。	入力モードを「AUTO」か「DTS」に設定してください。	104
	CD-ROMなど、本機で再生できない信号が入力されている。	本機で再生可能な信号のソースを再生してください。	−

症状	原因	対策	参照ページ
画像が出ない	本機と接続している外部機器が同じ種類の映像端子で接続されていない。	ビデオコンバージョン機能をオンにしてください。	89
画像が乱れる	ビデオデッキの種類によっては、映像信号を変換すると画像が乱れる場合があります。		–
	特殊な信号を出す機器と接続し、セットメニュー「DISPLAY SET」の「VIDEO CONV.」を「ON」に設定している。	「OFF」に設定し、同じ種類の接続方法で映像端子を接続してください。	89
音声が突然出なくなる	ショートが起きたなどで、保護回路が機能した。	スピーカーケーブルの接続を確認して、電源を入れ直してください。	18
	スリープタイマーが機能した。	電源を入れて、ソースを再生し直してください。	–
	消音された。	リモコンのMUTEキーを押して（または本体のVOLUMEコントローラーを回して）消音を解除し、音量を調節してください。	52
片側のチャンネルの音声がほとんど出ない	再生機器やスピーカーがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。接続に問題が無いときはケーブルに不具合がある場合があります。	18 ～ 34
	セットメニューのスピーカーの音量のバランスが適切に設定されていない。	セットメニュー「SPEAKER LEVEL」で音量のバランスを設定し直してください。	81
音がセンタースピーカーのみから出る	シネマDSPプログラムでモノラル音声を再生すると、音の信号はすべてセンタースピーカーへ送られるため、フロントスピーカーやサラウンドスピーカーから音はでません。		–
エフェクトスピーカー（センター、サラウンドL／R、サラウンドバックL／R）から音声が出ない	音場効果をかけずに再生している。	STRAIGHT／EFFECTキーを押して、音場効果をかけて再生してください。	70
	再生するソースと音場プログラムの組み合わせによっては、音が出ないチャンネルがあります。	ほかの音場プログラムをお試しください。	59 ～ 66
センタースピーカーから音声が出ない	センタースピーカーの音量が小さい。	センタースピーカーの音量を調節してください。	105
	セットメニュー「SPEAKER SET」の「CENTER SP」を「NONE」に設定している。	お使いのセンタースピーカーに合わせて、「LRG」または「SML」に設定してください。	78
	HiFi DSP音場プログラム（7ch Stereo以外）を選んでいる。	ほかの音場プログラムをお試しください。	59 ～ 66
サラウンドL／Rスピーカーから音声が出ない	サラウンドL／Rスピーカーの音量が小さい。	サラウンドL／Rスピーカーの音量を調節してください。	105
	セットメニュー「SPEAKER SET」の「SUR. L/R SP」を「NONE」に設定している。	お使いのサラウンドL／Rスピーカーに合わせて、「LRG」または「SML」に設定してください。	78
	ストレートデコードモードでモノラルソースを再生している。	STRAIGHT／EFFECTキーを押して、音場効果をかけて再生してください。	70
サラウンドバックL／Rスピーカーから音声が出ない	サラウンドバックL／Rスピーカーの音量が小さい。	サラウンドバックL／Rスピーカーの音量を調節してください。	105
	セットメニュー「SPEAKER SET」の「SUR. L/R SP」を「NONE」に設定している。	「SUR. L/R SP」を「NONE」に設定すると、自動的に「SUR. B L/R SP」も「NONE」に設定されます。「SUR. L/R SP」を「LRG」または「SML」に設定してください。	78
	セットメニュー「SPEAKER SET」の「SUR. B L/R SP」を「NONE」に設定している。	お使いのサラウンドバックスピーカーに合わせて、「LRG」または「SML」に設定してください。	79

症状	原因	対策	参照ページ
サブウーファーから音声が出ない	セットメニュー「SPEAKER SET」の「LFE/BASS OUT」を「FRNT」に設定したまま、ドルビーデジタル、DTSおよびAAC信号を再生している。	「SWFR」または「BOTH」に設定してください。	79
	セットメニュー「SPEAKER SET」の「LFE/BASS OUT」を「SWFR」または「FRNT」に設定したまま、2チャンネル信号を再生している。	「BOTH」に設定してください。	79
	再生しているソースにLFEや低音信号が含まれていない。		–
ドルビーデジタルまたはDTSソフトの再生ができない（本機のディスプレイのドルビーデジタルまたはDTSインジケーターが点灯しない）	接続したプレーヤーなどの設定が「デジタル出力」および「ドルビーデジタルまたはDTS」に設定されていない。	お使いのプレーヤーの取扱説明書をご覧のうえ、正しく設定してください。	–
	入力モードを「ANALOG」に設定している。	入力モードを「AUTO」または「DTS」に設定してください。	104
低音の再生不良	セットメニュー「SPEAKER SET」の「CROSSOVER」が正しく設定されていない。	お使いのスピーカーシステムに合わせて、正しく設定してください。	80
	セットメニュー「SPEAKER SET」の設定が実際のスピーカーシステムの構成と一致していない。	お使いのスピーカーシステムに合わせて、各スピーカーを正しく設定してください。	78
ハム音が出る	ケーブルがしっかり接続されていない。	ケーブルをしっかり差し込んでください。接続に問題が無いときはケーブルに不具合がある場合があります。	23～34
音量を上げることができない、または音が歪んでいる	本機の出力端子に接続された機器の電源が入っていない。	AVアンプという製品ジャンルの特性上、出力端子に接続している機器の電源が切れている場合に、再生音が歪んだり、音量が下がったりすることがあります。本機に接続しているすべての機器の電源を入れてください。	–
有線放送などでエフェクトチャンネル（センター、サラウンドL／R）の音がノイズになる。	あらかじめソースにサラウンド効果がかかっている。	本機でサラウンド効果をかけないで再生してください。	–
サラウンドと音場効果をかけた音を録音できない	サラウンドと音場効果をかけた音は録音できません。		–
本機のデジタル出力端子に接続した録音機器で録音ができない	再生機器が本機のデジタル入力端子に接続されていない。	再生機器を本機のデジタル入力端子に接続してください。	23～34
	録音機器によっては、ドルビーデジタル、DTSおよびAACなどのデジタルデータを録音できません。		–
本機のアナログ音声出力端子に接続した録音機器で録音できない	再生機器が本機のアナログ入力端子に接続されていない。	再生機器を本機のアナログ入力端子に接続してください。	23～34
音場プログラムパラメーターやセットメニューの設定値を変更できない	セットメニュー「MEMORY GUARD」を「ON」に設定している。	「OFF」に設定してください。	90
セットメニューなどの設定内容が消えている	1週間以上電源コンセントを抜いていたり、外部タイマーが切れたままになっている。	1週間以上電源コンセントを抜いたままにしておくと、内蔵メモリの内容が消えてしまうことがあります。もう1度設定しなおしてください。	–

症状	原因	対策	参照ページ
本機が正常に動作しない	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	AC コンセントから電源プラグを抜き、約30 秒後にもう１度差し込んでください。	−
フロントパネルディスプレイに「CHECK SP WIRES」と表示される	スピーカーケーブルがショートを起こしている。	すべてのスピーカーコードが正しく接続されているか確認してください。	18
本機に接続している機器にヘッドホンを接続して聴くと、音が歪む	本機の電源がスタンバイになっている。	本機の電源を入れてください。	37
デジタル機器や高周波機器からの雑音を受けている	本機とデジタル機器や高周波機器の設置場所が近すぎる。	本機とそれらの機器を離して設置してください。	−
画像が乱れる	再生している映像ソフトにコピー防止機能がついている。		−
本機の電源が突然スタンバイになる	本機内部が高温になったため、加熱防止回路が機能した。	本機の電源がスタンバイのまま約１時間置いて、温度が低くなってから電源を入れ直してお使いください。	37

FM ／ AM 放送の受信

症状		原因	対策	参照ページ
FM	ステレオ放送になると雑音が多く聞きづらい	放送局から離れた地域で受信しているか、アンテナ入力が弱い。	アンテナの接続を確認してください。	36
			屋外アンテナを感度の良い、多素子のものに変えてください。	−
			マニュアル選局をしてください。	50
	FM 専用アンテナを使用しているが、音が歪むなど受信感度が悪い	マルチパス（多重反射）などの妨害電波を受けている。	アンテナの高さや方向、設置場所を変えてください。	36
	オート選局ができない	放送局から離れた地域で受信しているか、アンテナ入力が弱い。	屋外アンテナを感度の良い、多素子のものに変えてみてください。	−
			マニュアル選局をしてください。	50
	プリセット選局ができない	プリセット（メモリー）が消えている。	１週間以上電源コンセントを抜いたままにしておくと、内蔵メモリの内容が消えてしまうことがあります。もう１度プリセットしてください。	71 〜 72
AM	オート選局ができない	電波が弱い、あるいはアンテナの接続が不完全。	AM ループアンテナの方向を変えてください。	36
			マニュアル選局をしてください。	50
	「ジー」、「ザー」、「ガリガリ」などの雑音が入る	空電や雷による雑音、または蛍光灯、モーター、サーモスタット付きの電気器具の雑音を拾っている。	AM 屋外アンテナを張り、アースを完全に取ると減少しますが、完全に除去するのは困難です。	−
	「ブンブン」、「ヒューヒュー」などの雑音が入る	本機の近くでテレビを使用している。	本機とテレビを離して設置してください。	−

リモコン

症状	原因	対策	参照ページ
リモコンで操作できない	リモコン操作範囲から外れている。	本体のリモコン受光窓から6m以内、30°以内の範囲で操作してください。	15
	操作機器選択スイッチで「SOURCE」または「TV」を選んでいる。	「AMP」を選んでください。	96
	リモコンのライブラリーコードと本機のリモコンIDが一致していない。	ライブラリーコードまたはリモコンIDの設定を変えてください。	92、102
	受光窓に日光や照明（インバーター蛍光灯やストロボライトなど）が当たっている。	照明、または本体の向きを変えてください。	–
	乾電池が消耗している。	乾電池をすべて交換してください。	15
外部機器がリモコンで操作できない	操作する機器が選ばれていない。	入力選択キーを押して、操作したい機器を選んでください。	52
	操作機器選択スイッチで「AMP」を選んでいる。	「SOURCE」または「TV」を選んでください。	96
	リモコンコードが正しく設定されていない。	リモコンコードを設定し直すか、同じメーカーのコードの中から別のコードを設定してください。	96
	リモコンコードを正しく設定しても、メーカーまたは機器によっては操作できない場合があります。	リモコンコードを設定しても操作できない機器は、その機器に付属のリモコンをお使いください。	–

用語／技術解説

音声フォーマット編

■ ドルビーサラウンド

ドルビーサラウンドは、ダイナミックで臨場感豊かな音響効果のために、フロントL／Rチャンネル（ステレオ音声）、会話などを再生するセンターチャンネル（モノラル音声）、効果音のサラウンドチャンネル（モノラル音声）の、アナログ4チャンネル方式を採用しています。サラウンドチャンネルの再生域は狭くなっています。
現在、ほとんどのソフトに普及している方式です。
本機に内蔵のドルビープロロジックデコーダーは、各チャンネルの音量を自動的に調整して安定させ、音の移動感や方向性を強調して、より正確なデジタル処理を行います。

■ ドルビーデジタル

ドルビーデジタルは、完全に独立したマルチチャンネル音声を再生できるデジタルサラウンドシステムです。全帯域の音声成分を持つフロント3チャンネル（フロントL／R、センター）と、サラウンド2チャンネル（サラウンドL／R）、低音域専用のLFEチャンネルの合計5.1チャンネルで構成されます。
サラウンド2チャンネルがステレオで収録されているため、ドルビーサラウンドと比較して、音の移動感や周囲の環境音がより明確になります。全帯域の5チャンネルの幅広いダイナミックレンジと正確な音の定位によって、これまでにない迫力と現実感を再現できます。
本機では、モノラル音声から5.1チャンネルスピーカーシステムまでお好みの視聴環境を選ぶことができます。

■ ドルビーデジタルサラウンドEX

本機は5.1チャンネルのソースに、サラウンドバックチャンネルを加えて6.1チャンネル再生を可能にする、ドルビーデジタルサラウンドEXソフト対応のドルビーデジタルEXデコーダーを内蔵しています（サラウンドバックチャンネルはサラウンドLとサラウンドRチャンネルから作られます）。
ドルビーデジタルサラウンドEXで録音された映画のサウンドトラックを再生する際に、最良の音声を再生できます。この追加チャンネルにより、特に飛び越えたり飛び回ったりといった動きのあるシーンで、よりダイナミックでリアルな動作音をお楽しみいただけます。

■ ドルビープロロジックII

ドルビープロロジックIIはドルビープロロジックを改良した方式で、ドルビーサラウンド方式のソフトに多く採用されています。2チャンネルで記録された音声を信号処理し、優れた分離感を保ったまま5.1チャンネル音声に変換します。映画用のMovieモードと、音楽などのステレオソース用のMusicモード、ゲーム用のGameモードが用意されています。従来の2チャンネル音声（モノラル音声を除く）だけで記録された古い映画も、5.1チャンネルの迫力ある音声で楽しめます。

■ ドルビープロロジックIIx

ドルビープロロジックの最新技術です。2チャンネルで記録された音声はもちろん、マルチチャンネルで記録された音声をも信号処理し、自然な7.1チャンネル音声をフルレンジで再生します。映画用のMovieモード（2チャンネル信号入力時のみ）、音楽用のMusicモード、ゲーム用のGameモードが用意されています。

■ AAC
（アドバンスト・オーディオ・コーディング）

MPEG-2オーディオ規格の1つで、BS／地上波デジタル放送で採用されています。モノラル音声から最大で7チャンネル音声までを効率良く圧縮して記録、伝送できます。
本機はAACデコーダーを搭載しているので、BS／地上波デジタルチューナーで受信した番組の5.1チャンネル音声をデコード（復号）して再生できます。

■ DTS（デジタル・シアター・システムズ）
デジタルサラウンド

DTSデジタルサラウンドは、アナログの映画音声に取って代わる5.1チャンネル方式のデジタルサウンドトラックとして開発された最新技術で、世界中の映画館に急速に普及しています。ご家庭でも音の奥行きや自然な空間表現を楽しめるように開発したものが、本機で採用しているDTSシステムです。
極めて劣化が少なく、クリアな音質の6チャンネル（フロントL／R、センター、サラウンドL／Rチャンネル、サブウーファー用LFE0.1チャンネルを加えた5.1チャンネル）で構成されています。

■ DTS-ES

本機は5.1チャンネルのソースに、サラウンドバックチャンネルを加えて6.1チャンネル再生を可能にする、DTS-ESデコーダーを内蔵しています。5.1チャンネルの信号と独立して記録されたサラウンドバックチャンネル信号を再生する、ディスクリート方式と、サラウンドL／Rチャンネル信号からサラウンドバックチャンネル信号を生成して再生する、マトリクス方式の2つの方式に対応しています。
DTS-ESで録音された音楽や、映画のサウンドトラックを再生する際に、最良の音声を再生できます。

■ DTS Neo:6

2チャンネル信号のソースを、サラウンドバックを含めた6チャンネルで再生できます。再生するソースに合わせて、音楽用のMusicモードと、映画用のCinemaモードが用意されています。すべてのチャンネルを全帯域で再生できるだけでなく、ディスクリート方式で記録されたソースのようなチャンネルの分離感を体感できます。

■ DTS 96／24

DTS 96／24はDVDビデオのマルチチャンネルサウンドを高音質で再生します。従来のDTSデコーダーとも互換性があるため、DTS96／24に対応していない機器では、通常のDTSサラウンドとして楽しむことができます。「96」はサンプリング周波数の96kHz（従来の48kHzから倍増）、「24」は量子化ビット数24ビットを示します。広い周波数帯域、ダイナミックレンジで、DVDビデオの音楽や映画音声を5.1チャンネルで楽しむことができます。

音場プログラム編

■ サイレントシネマ

ヘッドホンでマルチスピーカーによる音場プログラムを擬似的に再現するための、ヤマハ独自のシステムです。
音場プログラムごとにヘッドホン用の設定値が用意されているため、自然で立体感あふれる音場プログラムをヘッドホンでもお楽しみいただけます。

■ シネマDSP（デジタル・サウンド・フィールド・プロセッサー）

ドルビーサラウンドやDTSのシステムは、本来映画館用に設計されているため、ご家庭では部屋の広さや壁の材質、スピーカーの数などの条件の違いによって、同じソフトであっても視聴感に差が出てしまいます。
ヤマハシネマDSPは、豊富な実測データに基づく独自の音場技術を応用することで、ドルビープロロジックやドルビーデジタル、DTSのシステムと組み合わせて音のスケールや奥行き、音量感を補い、ご家庭でも映画館のような視聴体験を実現します。

■ バーチャルシネマDSP

サラウンドL／Rスピーカーを設置していなくとも、仮想的にサラウンドL／Rスピーカーの音場を再現することで、音場プログラムを楽しめます。
センタースピーカーを設置できない場合でも、フロントL／Rスピーカーだけで、バーチャルシネマDSPをお楽しみいただけます。

音声編

■ サンプリング周波数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、1秒間にサンプリング（信号の大きさを数値に置き換えること）を行う回数をサンプリング周波数といいます。
再生できる周波数帯は「サンプリング周波数」で決まり、サンプリング周波数が高いほど再生可能な音域が広がることになります。

■ 量子化ビット数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、音の大きさを数値化するときのきめ細かさを量子化ビット数といいます。
音量の差を表わすダイナミックレンジは「量子化ビット数」で決まり、量子化ビット数が大きいほど音の大きさの変化をきめ細かく再現できることになります。

■ ITU-R

電気通信分野における国際連合の専門機関である国際電気通信連合（ITU=International Telecommunication Union）の無線通信部門（ITU-Radiocommunication Sector）で、無線通信に関する国際規格を広く策定している国際機関です。リスニングルームにおけるスピーカーの配置についてもITU-Rによって勧告されています。

■ LFE（低域効果音）0.1チャンネル

音声成分の帯域が20～120Hzの、低音域専用チャンネルです。
ドルビーデジタルとDTS、AACで、全帯域用の5チャンネルに加えて、効果的な場面で低音を増強するために使用されます。音声の帯域が低域のみに制限されているので、0.1と表現されます。

■ PCM（リニアPCM）

MP3形式やATRAC形式のようにアナログ音声信号を圧縮せずに、そのまま符号化して録音・伝送する方式です。
「PCM」は、パルス・コード・モジュレーションの略で、デジタル信号をパルスの符号にして変調記録するという意味です。
音楽CDや、DVDオーディオの録音方法などで採用されています。PCM方式では、非常に短く区切った単位時間あたりの信号の大きさを数値に置き換える（サンプリング）手法を用いています。

映像編

■ コンポジットビデオ信号

輝度を表すY信号と、色を表すC信号をひとつの映像信号としてまとめて伝送する方式です。テレビのNTSC信号などが採用しています。

■ コンポーネントビデオ信号

映像信号を、輝度を表すY信号と、色を表すPB／CB信号（青色差信号）およびPR／CR信号（赤色差信号）の3系統に分けて伝送する方式です。それぞれの信号を独立して伝送するため画質の劣化が少なく、色をより忠実に再現できます。また、コンポーネントビデオ信号は、色を表わす信号から輝度を表わす信号を引いているので、色差信号とも呼ばれます。
この方式をお使いになるためには、コンポーネントビデオ入力端子のあるモニター（テレビ）を本機に接続してください。

■ D端子

最新のAV機器間での映像信号の伝送に用いられる端子で、コンポーネントビデオ信号とコントロール信号（走査線、アスペクト比、インターレース／プログレッシブの情報）を、1本の専用ケーブルで接続できます。
その性能に応じてランクがD1からD5に分けられています。本機にはD4ビデオ端子が装備されており、D1からD4の規格に対応しています。

■ Sビデオ信号

映像信号を、輝度を表すY信号と、色を表すC信号に分けて伝送する方式です。Sビデオ端子で接続すると、より美しい映像で録画／再生をお楽しみいただけます。

主な仕様

オーディオ部
定格出力（6Ω、0.09% THD）
　フロント、センター、サラウンド、サラウンドバック（20Hz ～ 20kHz)....................... 100W
実用最大出力（EIAJ、6Ω、1kHz、10% THD）
　フロント、センター、サラウンド、サラウンドバック...................................... 140W
ダイナミックパワー（IHF）
　6 ／ 4 ／ 2Ω .... 140 ／ 170 ／ 215W
ダンピングファクター（20Hz ～ 20kHz）
　フロント L ／ R.................................... 120 以上
入力感度／インピーダンス
　CD 他......................................200mV ／ 47kΩ
　MULTI CH INPUT ....200mV ／ 47kΩ
最大許容入力（1kHz、0.5% THD）
　CD 他（EFFECT ON）........................ 2.3V 以上
出力電圧／インピーダンス
　REC OUT..............................200mV ／ 1.2kΩ
　PRE OUT..................................... 2V ／ 1.2kΩ
　SUBWOOFER .... 4V ／ 1.7kΩ
　ZONE2 OUT ....200mV ／ 1.2kΩ
ヘッドホン出力／インピーダンス
.... 150mV ／ 100Ω
周波数特性
　CD 他－フロント L ／ R
.... 10Hz ～ 100kHz、－ 3dB
全高調波歪率
　PHONO（MM）－ REC OUT ...... 0.02% 以下
　CD 他－フロント SP OUT（50W、8Ω）
.... 0.06% 以下
S ／ N 比（IHF-A ネットワーク、入力ショート）
　PHONO（MM）－ REC OUT ....80dB 以上
　CD 他（250mV 入力）－フロント SP OUT
.... 100dB 以上
残留ノイズ（IHF-A ネットワーク）
　フロント SP OUT......................... 150μV 以下
　チャンネルセパレーション
　PHONO（入力ショート、1kHz ／ 10kHz）
　.....................................60dB 以上／ 55dB 以上
　CD 他（5.1kΩ 入力ショート、1kHz ／ 10kHz)
　.....................................60dB 以上／ 45dB 以上
トーンコントロール
　BASS.. ± 6dB ／ 50Hz
　TREBLE .... ± 6dB ／ 20kHz

ビデオ部
ビデオ信号方式
　グレーバック ....NTSC
　ビデオコンバージョン......................NTSC/PAL
コンポジットビデオ信号レベル ..... 1Vp-p ／ 75Ω
S ビデオ信号レベル
　Y... 1Vp-p ／ 75Ω
　C.. 0.286Vp-p ／ 75Ω
コンポーネントビデオ信号レベル
　Y .... 1Vp-p ／ 75Ω
　PB、PR ....0.7Vp-p ／ 75Ω
ビデオ最大許容入力（VIDEO CONV. OFF）
.... 1.5Vp-p 以上
S ／ N 比（VIDEO CONV. OFF）........50dB 以上
周波数帯域（MONITOR OUT）
　CONPONENT VIDEO、D4 VIDEO（VIDEO CONV. OFF）.............. 5Hz ～ 60kHz、－ 3dB

FM チューナー部
受信周波数........................76.0MHz ～ 90.0MHz
実用感度（IHF）...................... 1.0μV（11.2dBf）
S ／ N 比（IHF）
　モノ／ステレオ ....76dB ／ 70dB
歪率（1kHz）
　モノ／ステレオ ....0.2%／ 0.3%
ステレオセパレーション（1kHz)..................42dB
周波数特性.....20Hz ～ 15kHz、＋ 0.5 ／－ 2dB

AM チューナー部
受信周波数.......................... 531kHz ～ 1611kHz
実用感度...300μV ／ m

総合
電源電圧...........................AC100V、50 ／ 60Hz
消費電力.. 300W
待機時消費電力.......................................0.1W 以下
AC アウトレット（電源スイッチ連動× 2）
....合計 100W
寸法（幅×高さ×奥行き）
....435 × 171 × 421mm
質量 12.3kg

※仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

本機は「JIS C 61000-3-2」適合品です。
JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性第 3-2 部：限度値－高調波電流発生限度値（1 相当たりの入力電流が 20A 以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

音楽を楽しむエチケット
楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

索引

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

ら行

A-Z

数字

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただくためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。

http://www.yamaha.co.jp/audio/

■ AVお客様ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-01-1808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHSからは下記番号におかけください。
TEL（053）460-3409

FAX（053）460-3459
〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10-1

受 付 日：月〜土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：10:00〜12:00、13:00〜18:00

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ電気音響製品修理受付センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-01-2808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

FAX（053）463-1127

受 付 日：月〜土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：月〜金曜日 9:00〜19:00　土曜日 9:00〜17:30

修理お持ち込み窓口
受 付 日：月〜金曜日（祝日および弊社の休業日を除く）
受付時間：9:00〜17:45

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50
ヤマハセンター内
FAX (011)512-6109

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03)5762-2125

浜松 〒435-0016 浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内
FAX (053)462-9244

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2丁目1-2
ヤマハ(株)名古屋倉庫3F
FAX (052)652-0043

大阪 〒564-0052 吹田市広芝町10-28
オーク江坂ビルディング2F
FAX (06)6330-5535

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX (092)472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

● 保証期間
お買い上げ日から1年間です。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み
技術料　故障した製品を正常に修復するための料金です。
技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
部品代　修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
出張料　製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。
別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品修理受付センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！

愛情点検

こんな症状はありませんか？
- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、
必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中沢町10-1

DSP-AX759

簡易接続ガイド

DVD プレーヤーを接続する

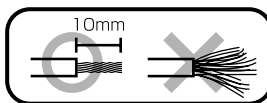
本機および接続するすべての機器の電源コードがACコンセントに接続されていないことを確認してください。

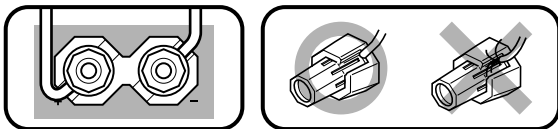
手順 1 スピーカーの設置場所を決める

右図を参考に各スピーカーを配置してください。

※ 詳しくは取扱説明書の16ページをご覧ください。

手順 2 スピーカーケーブルを接続する

1. スピーカーケーブル先端部の絶縁部を10mmくらいはがす。
2. 芯線をしっかりとよじる。

芯線をしっかりとよじらないとショート(短絡)の原因になります。

3. スピーカー端子を左に回してゆるめる。
4. スピーカー端子のわきの隙間にスピーカーケーブルの芯線を差し込む。

スピーカーケーブルは端子の隙間に、しっかりと差し込みます。プラス(+)とマイナス(−)がショート(短絡)していたり、絶縁部分(ビニール)まで差し込むと、故障や音が出ないなどの原因になります。

5. スピーカー端子を右に回して、締め付ける。
6. サブウーファーはサブウーファー用ピンケーブルで本機と接続する。

手順 3 音声ケーブルを接続する

DVDプレーヤーの光デジタル出力端子を光ファイバーケーブルで本機の光デジタル入力(DVD)端子に接続する。

※ 端子の向きに注意して接続してください。

※ 同軸デジタル接続やアナログ接続することもできます。

手順 4 映像ケーブルを接続する

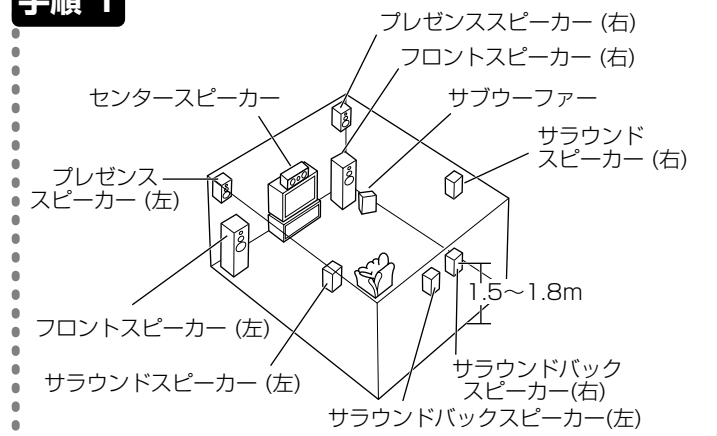
映像端子は、図にあるすべての端子を接続する必要はありません。お使いになるDVDプレーヤーとテレビの端子をご確認のうえ、両方に共通する端子を使って接続してください。

※ 最良の画質でお楽しみいただくためにも、なるべく高品位な端子を使って接続してください。端子による画質の違いについては、右図内の「映像端子による画質の違い」をご覧ください。

※ テレビに複数の端子を使って接続した場合には、テレビ側で入力の選択を行ってください。

※ ビデオコンバージョン機能により、DVDプレーヤーとテレビの端子が違う場合でも、映像をお楽しみいただけます。詳しくは裏面の「ビデオ信号の変換について」をご覧ください。

手順 5 DVD を再生する

※ 取扱説明書の46〜48ページをご覧ください。DVDプレーヤーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

DVDプレーヤーを接続して、デジタルソースを楽しむための基本的な接続のしかたを説明します。

映像端子による画質の違い

接続する端子によって画像の質が異なります。
できるだけ画質の良い端子を使って接続することをおすすめします。

<画質>	<端子の種類>
① 最良	コンポーネントビデオ端子
② 最良	D 端子
③ 良い	S ビデオ端子
④ 通常	ビデオ端子

お手持ちのDVDプレーヤーまたはテレビにコンポーネントビデオ端子がある場合は、本機のコンポーネントビデオ端子に接続することもできます。

DVDプレーヤー: コンポーネントビデオ出力 / 光デジタル出力 / 同軸デジタル出力 / アナログ音声出力 / Sビデオ出力 / ビデオ出力 / D1/D2/D3/D4出力

手順 2: サブウーファー / プレゼンススピーカー (右) (左)

光デジタル端子を使用するときは、防塵キャップをはずします。
はずしたキャップは大切に保管してください。

AC100V コンセントへ

スピーカーケーブルを接続する際は、プラス(+)とマイナス(−)、(L)と(R)を間違えないように注意してください。

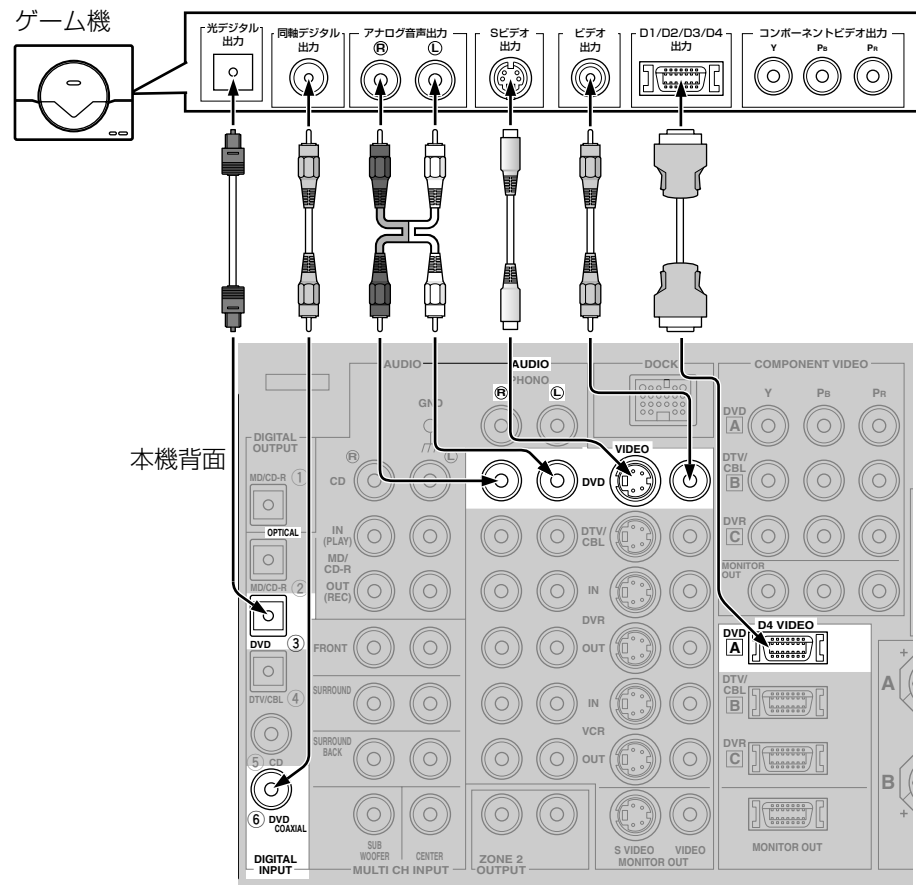
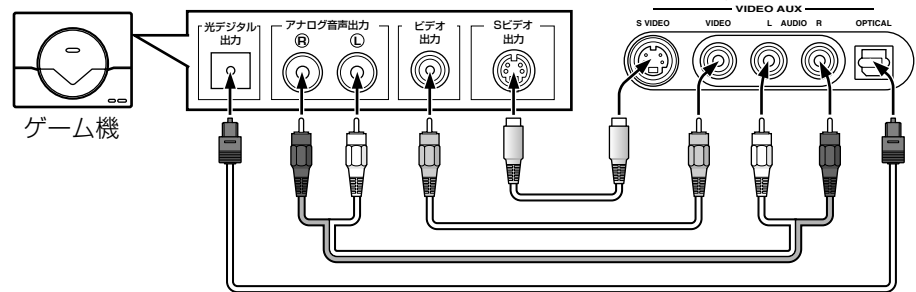
テレビ: Sビデオ入力 / ビデオ入力 / D1/D2/D3/D4入力 / コンポーネントビデオ入力

フロントスピーカー (右) (左) / センタースピーカー / サラウンドバックスピーカー (右) (左) / サラウンドスピーカー (左) (右)

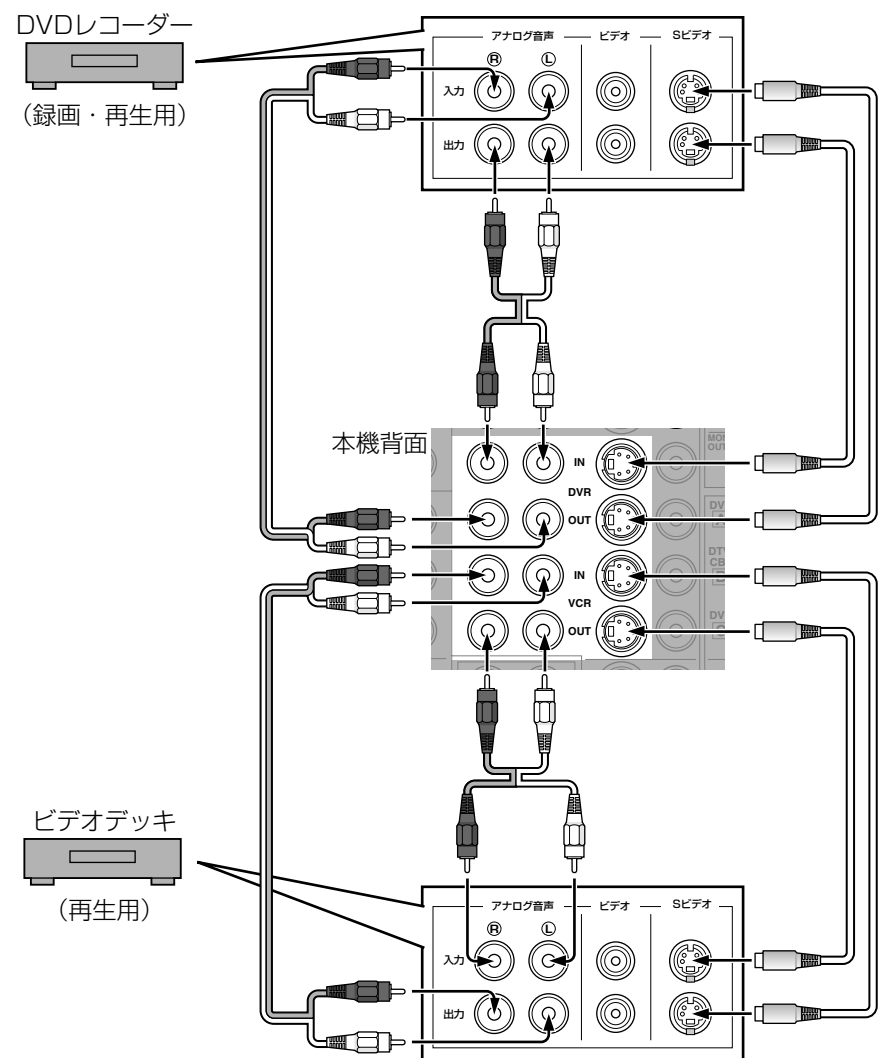
Printed in Malaysia WG73730-1

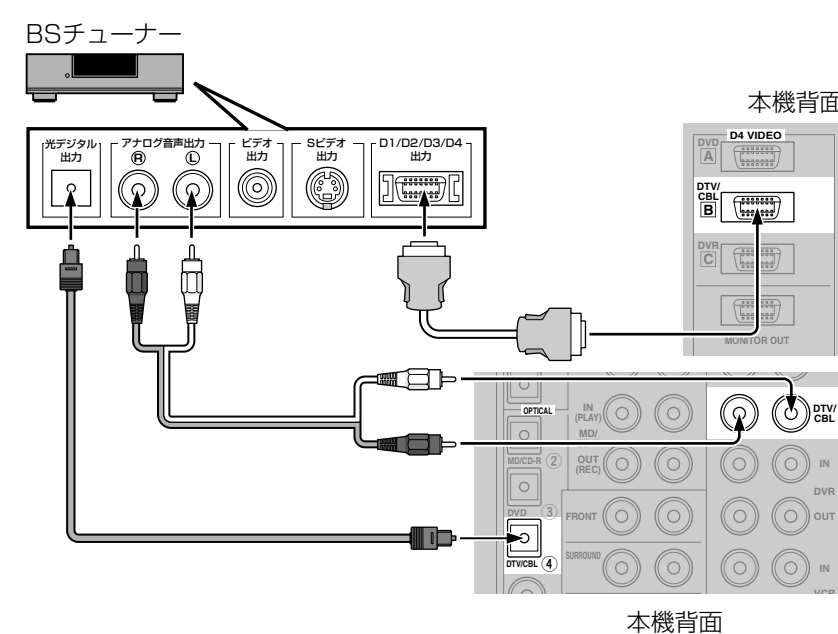
さまざまな機器を接続する

ゲーム機の接続

本機の DVD 端子に接続します。

本機前面からの接続

※ ゲーム機にSビデオやD端子、コンポーネントビデオ端子がある場合には、SビデオやD端子ケーブル、コンポーネントビデオケーブルで接続すると、ビデオ端子よりも高画質な映像を再生できます。

録画機器／再生機器の接続

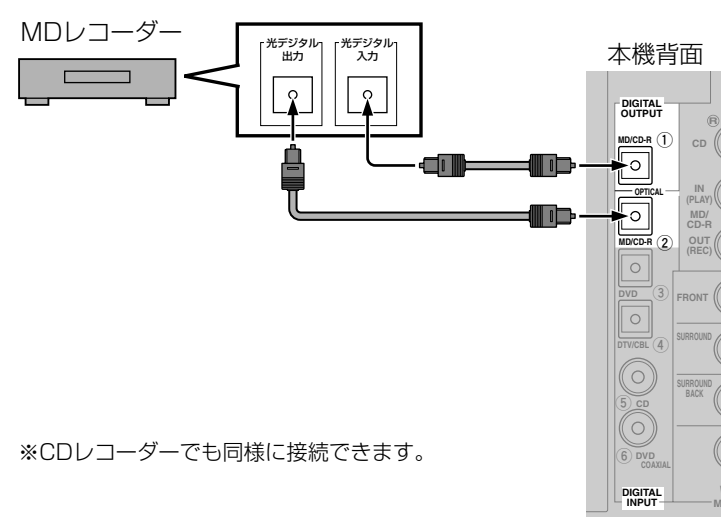
録画・再生用の DVD レコーダーは DVR 端子に接続します。
再生用ビデオデッキは VCR 端子に接続します。

※ DVDレコーダー（録画・再生用）の音声・映像を楽しむためには、本機のINPUTセレクターまたはリモコンの入力選択キーで「DVR」を選択します。ビデオデッキ（再生用）の音声・映像を楽しむためには、本機のINPUTセレクターまたはリモコンの入力選択キーで「VCR」を選択します。
※ 録画する場合は、同じ種類のビデオ接続（例：SビデオとSビデオなど）を行ってください。
※ テレビ、DVDレコーダー、ビデオデッキにSビデオ端子がない場合は、ビデオ端子で接続してください。
※ DVDレコーダーの音声をデジタルで楽しみたいときは、DVDレコーダーを同軸ケーブルまたは光ファイバーケーブルで接続します。詳しくは取扱説明書の27ページをご覧ください。

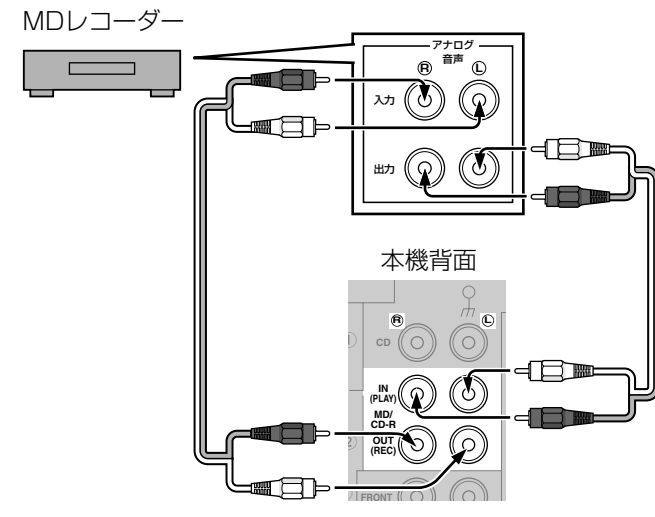
BSチューナー、ケーブルテレビの接続

※ BSチューナー、ケーブルテレビの音声・映像を楽しむためには、本機のINPUTセレクターまたはリモコンの入力選択キーで「DTV/CBL」を選択します。
※ BSチューナー、ケーブルテレビにD端子がない場合は、Sビデオ端子またはビデオ端子で接続してください。

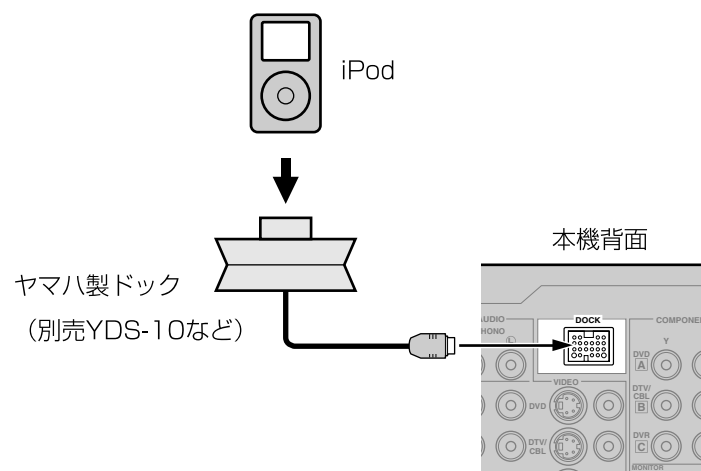
テレビの音声の接続

※ テレビの音声を楽しむためには、本機のINPUTセレクターまたはリモコンの入力選択キーで「DTV/CBL」を選択します。

MDレコーダーの接続

デジタル音声の録音 / 再生

※CDレコーダーでも同様に接続できます。

アナログ音声の録音 / 再生

ヤマハ製ドックとiPodの接続

本機の DOCK 端子にヤマハ製ドック（YDS-10 など）を接続し、iPod をセットします。

※ ヤマハ製ドックは別売です。
※ ヤマハ製ドックにセットしたiPodの再生を楽しむには、本機のINPUTセレクターまたはリモコンの入力選択キーで「V-AUX」を選択します。

ビデオ信号の変換について

入力されたビデオ信号は、Sビデオ信号およびコンポーネントビデオ信号に変換され、Sビデオ / コンポーネントビデオ /D4 ビデオ（MONITOR OUT）端子にも出力されます。また、Sビデオ信号は、コンポーネントビデオ信号に変換され、コンポーネントビデオ /D4 ビデオ（MONITOR OUT）端子にも出力されます。

➡ .... セットメニュー「DISPLAY SET」の「VIDEO CONV.」が「OFF」のときの信号の流れです。

⇨ .... セットメニュー「DISPLAY SET」の「VIDEO CONV.」が「ON」のときのみ変換されます。
※取扱説明書の89ページをご覧ください。

※ 本機のD4入力端子とコンポーネントビデオ入力端子は同時に使用しないでください（出力端子は可）。
※ ビデオ信号を変換しても画質は向上しません。